

御浜町の新たなまちづくりに向けた 町民アンケート調査結果報告書

令和2年3月

御 浜 町

目 次

I. 調査の概要及び回答者の属性	1
1. 調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査概要及び回収率等	1
(3) 本調査結果報告書の留意点	1
2. 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 職業・産業分類	2
(4) 就学先・勤務先	3
(5) 居住歴・出身地	4
(6) 居住地区	4
II. 調査結果	5
1. 愛着度・定住意向について	5
(1) 愛着度について	5
(2) 今後の定住意向について	7
(3) 住み続けたい理由	9
(4) 住みたくない理由	11
2. まちの現状とこれからの取り組みについて	13
(1) まちの各環境に対する満足度	13
(2) まちの各環境に対する重要度	28
(3) 今後のまちづくりの特色について	42
3. 防災対策について	44
(1) 防災対策で必要なこと	44
(2) 災害への備えについて	46
4. 若者の定住対策について	49
5. 教育について	51
6. 高齢者福祉について	53
7. 観光振興について	55
8. コミュニティ活動、住民参画について	57
(1) 地域活動等への参加状況と参加意向	57
(2) 参加したい地域活動	59
(3) コミュニティ活動等に参加しない理由	61
(4) 町民参画・協働のために必要なこと	63
9. 日頃の行動について	65
(1) 生涯学習活動について	65
(2) スポーツ活動について	66
(3) 健康増進について	67
(4) かかりつけ医について	68
(5) 地域福祉活動について	69
(6) 地域とのつながりについて	70

I. 調査の概要及び回答者の属性

1. 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、第6次御浜町総合計画及び第2次御浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向け、今後の定住意向をはじめ、各分野の満足度・重要度、今後のまちづくりの方向、若者の定住対策、観光振興など期待することなど、町民の意識構造の実態把握を目的に実施しました。

(2) 調査概要及び回収率等

	内 容
調査対象	18 歳以上の町民
抽出法	無作為抽出（住民基本台帳より抽出）
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）
調査時期	令和2年1月～2月
配布数	2,000
有効回収数	686
有効回収率	34.3%

(3) 本調査結果報告書の留意点

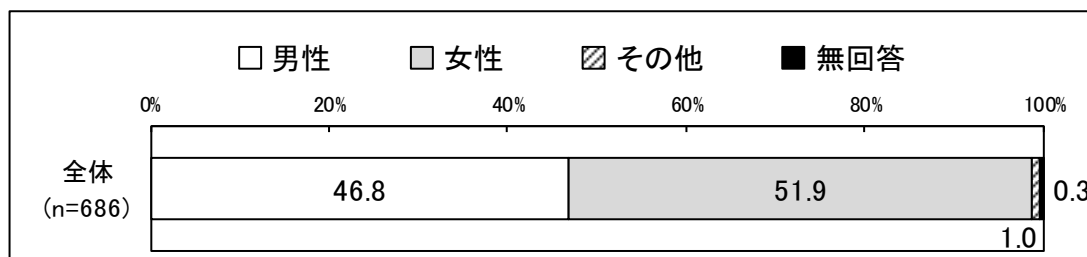
本報告書を理解する上で、次の点に留意する必要があります。

- 比率は百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は回答数を100%として算出しています。
- 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- グラフ中の選択肢の文言は一部簡略化しています。
- 問の中には「～に○をつけた方にうかがいます。」などいろいろな制限があり、また、回答者数が少なく、有意性の低いものも含まれます。

2. 回答者の属性

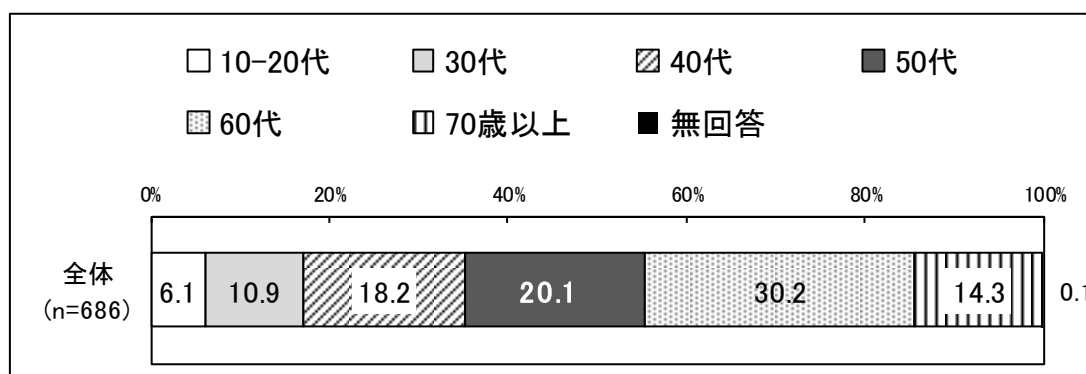
(1) 性別

回答者の性別は、「女性」が 51.9% 「男性」が 46.8%、「その他」が 1.0%となっています。



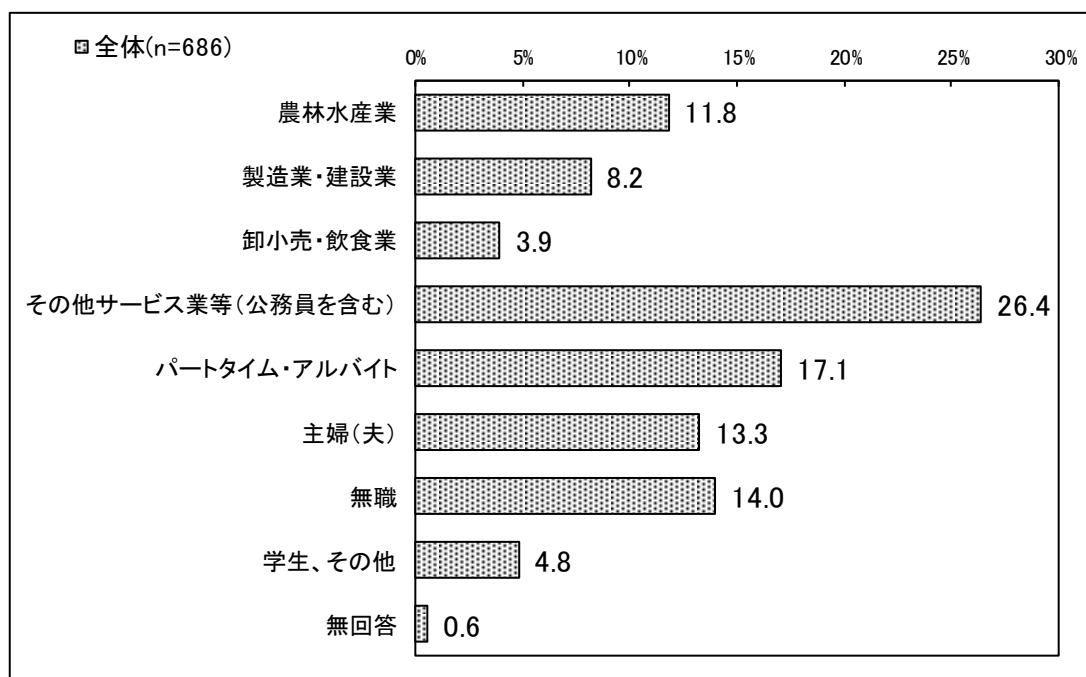
(2) 年齢

回答者の年齢は、「60代」が 30.2%で最も多く、次いで「50代」(20.1%)、「40代」(18.2%)、「70歳以上」(14.3%)、「30代」(10.9%)、「10-20代」(6.1%)の順となっています。

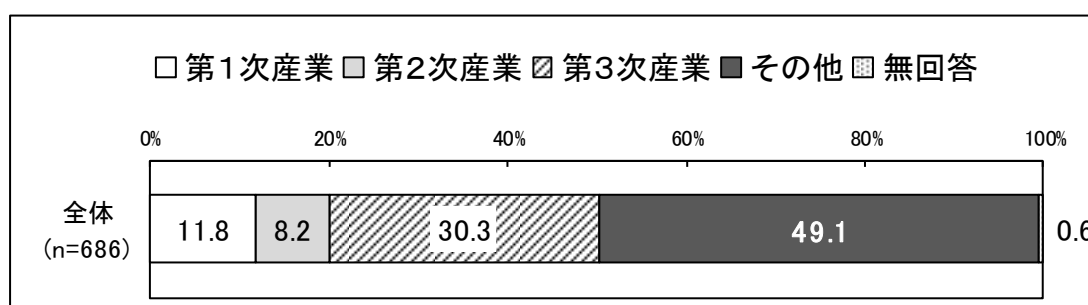


(3) 職業・産業分類

回答者の職業をみると、「その他サービス業等(公務員を含む)」(26.4%)が最も多く、次いで「パートタイム・アルバイト」(17.1%)、「無職」(14.0%)、「主婦(夫)」(13.3%)、「農林水産業」(11.8%)が続き、以下、「製造業・建設業」(8.2%)、「学生、その他」(4.8%)、「卸小売・飲食業」(3.9%)の順となっています。

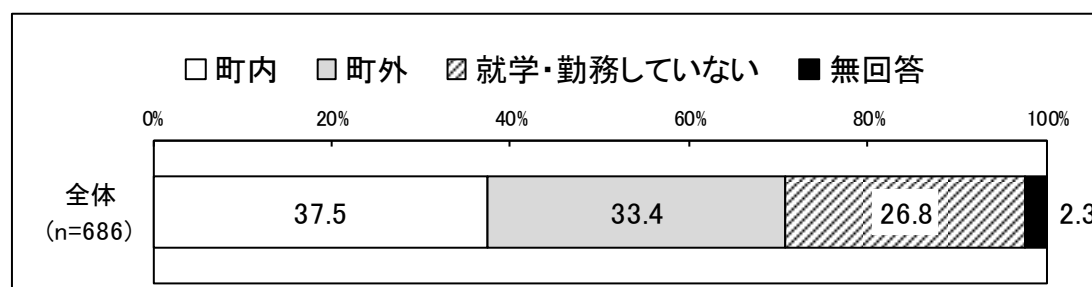


回答者の職業を産業分類でみると、「その他」(49.1%)が最も多く、次いで「第3次産業」(30.3%)、「第1次産業」(11.8%)、「第2次産業」(8.2%)の順となっています。



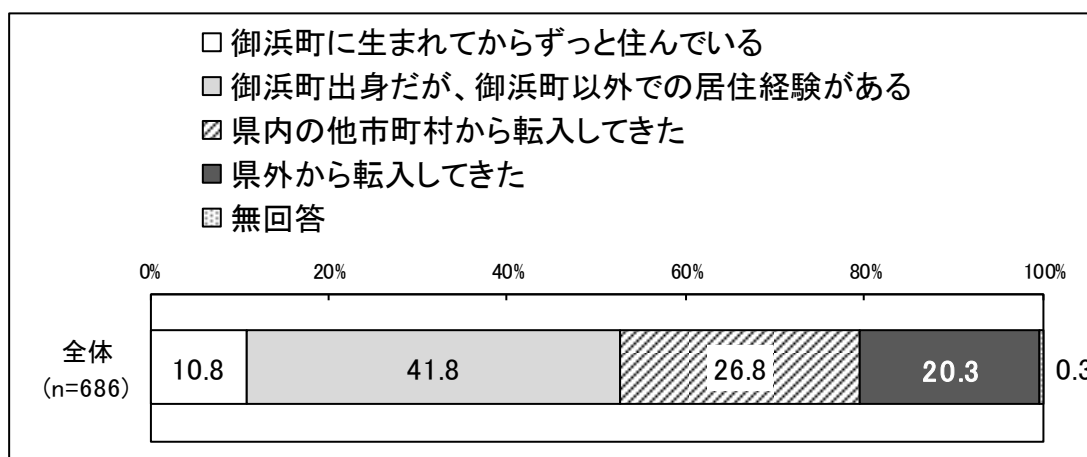
(4) 就学先・勤務先

回答者の就学先・勤務先は、「町内」が37.5%で最も多く、次いで「町外」(33.4%)、「就学・勤務していない」(26.8%)の順となっています。

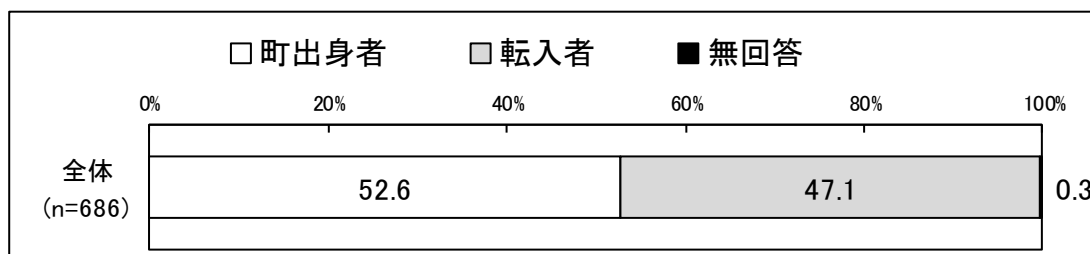


（５）居住歴・出身地

回答者の居住歴は、「御浜町出身だが、御浜町以外での居住経験がある」が 41.8%で最も多く、次いで「県内の他市町村から転入してきた」が 26.8%、「県外から転入してきた」が 20.3%、「御浜町に生まれてからずっと住んでいる」が 10.8%となっています。

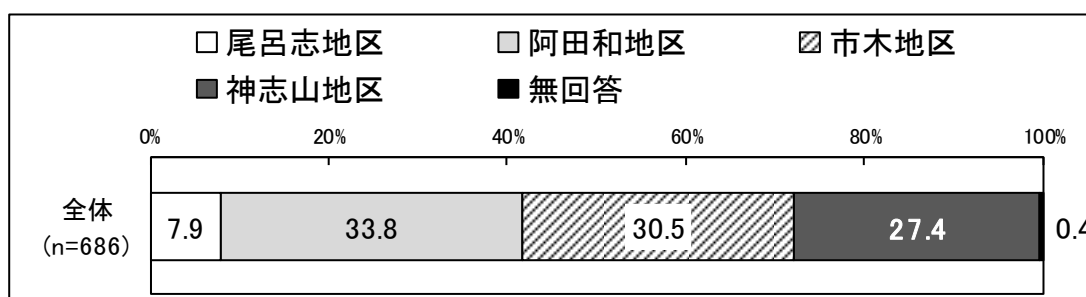


これを「町出身者」（「御浜町に生まれてからずっと住んでいる」及び「御浜町出身だが、御浜町以外での居住経験がある」）、「転入者」（「県内の他市町村から転入してきた」及び「県外から転入してきた」）に区分すると、「町出身者」が 52.6%、「転入者」が 47.1%となっています。



（６）居住地区

回答者の居住地区は、「阿田和地区」が 33.8%で最も多く、次いで「市木地区」(30.5%)、「神志山地区」(27.4%)、「尾呂志地区」(7.9%)となっています。



Ⅱ．調査結果

1. 愛着度・定住意向について

(1) 愛着度について

問2 あなたは、御浜町に「自分のまち」としての愛着を感じていますか。

■『愛着を感じている』は65.1%。「どちらともいえない」は19.1%、『愛着を感じていない』は13.7%。

御浜町に対する愛着をたずねたところ、愛着を「感じている」が33.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば感じている」が31.9%で続き、これらをあわせた愛着を『感じている』という人が65.1%となっています。これに対して、『愛着を感じていない』（「どちらかといえば感じていない」7.1%及び「感じていない」6.6%の合計）は13.7%にとどまります。なお、「どちらともいえない」は19.1%となっています。

また、愛着を『感じている』割合は前回調査（平成27年実施）の67.2%より微減しています。

性別で『愛着を感じている』と回答した割合をみると、男性で67.0%、女性で64.0%と、男女ともに6割台半ばとなっています。

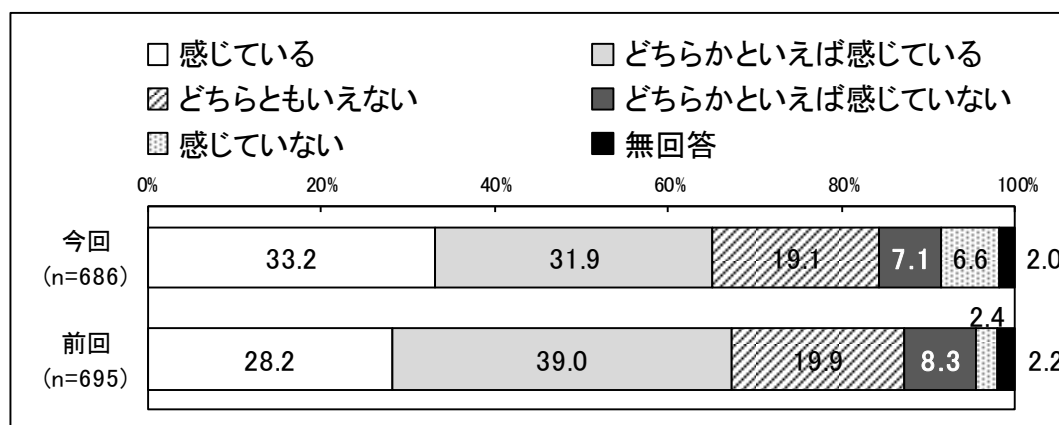
年齢別で『愛着を感じている』と回答した割合をみると、70歳以上（77.5%）で最も多く、次いで10-20代（76.2%）、60代（71.5%）、50代（60.9%）が続き、30代（54.6%）、40代（52.8%）では5割台半ばとなっています。

産業分類別で『愛着を感じている』と回答した割合をみると、第1次産業で82.7%と8割を超え、最も多い割合となっています。

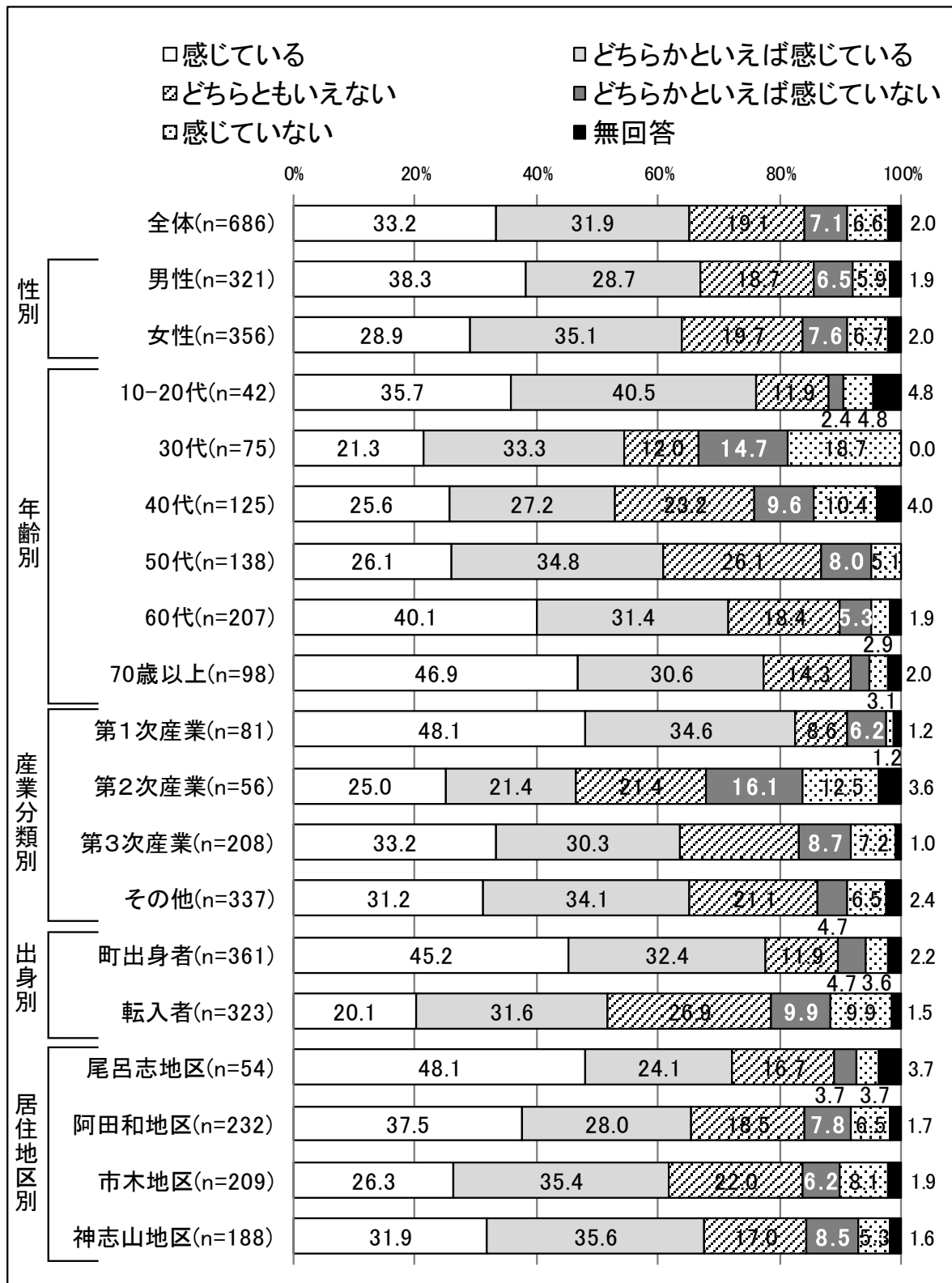
出身別で『愛着を感じている』と回答した割合をみると、出身者が77.6%と、転入者の51.7%を大きく上回ります。

居住地区別で『愛着を感じている』と回答した割合をみると、尾呂志地区で72.2%と最も多く、次いで神志山地区（67.5%）、阿田和地区（65.5%）、市木地区（61.7%）などの順となっています。

愛着度について（全体）



愛着度について（全体、性別、年齢別、産業分類別、出身別、居住地区別）



(2) 今後の定住意向について

問3① あなたは、今後も御浜町に住み続けたいと思いますか。

■『住み続けたい』は72.0%。「どちらともいえない」は13.4%、『住みたくない』は11.9%。

今後も御浜町に住み続けたいかどうかをたずねたところ、「住み続けたい」が43.4%で最も多く、これに「どちらかといえば住み続けたい」(28.6%)をあわせた72.0%の人が『住み続けたい』という意向を示しています。これに対して、『住みたくない』(「どちらかといえば住みたくない」8.5%及び「住みたくない」3.4%の合計)は11.9%にとどまります。なお、「どちらともいえない」は13.4%となっています。

また、『住み続けたい』割合は前回調査(平成27年実施)の68.4%より増加しています。

性別で『住み続けたい』と回答した割合をみると、男性で74.8%と、女性の70.2%を上回ります。

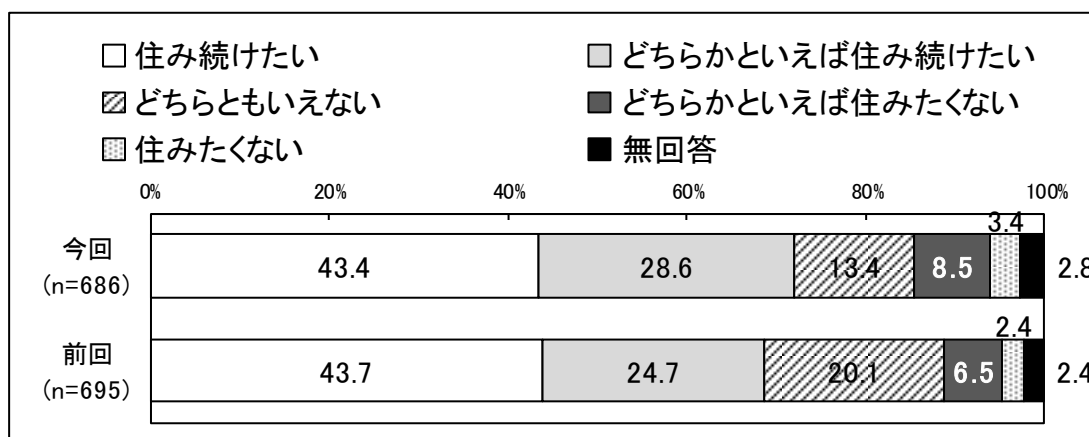
年齢別で『住み続けたい』と回答した割合をみると、おおむね加齢とともに増加し、70歳以上で85.8%、60代で82.6%と8割を超え、50代(69.6%)、40代(66.4%)では6割後半となっていますが、30代(53.3%)、10-20代(47.6%)では半数前後にとどまります。

職業別で『住み続けたい』と回答した割合をみると、第1次産業で87.6%と最も多くなっています。

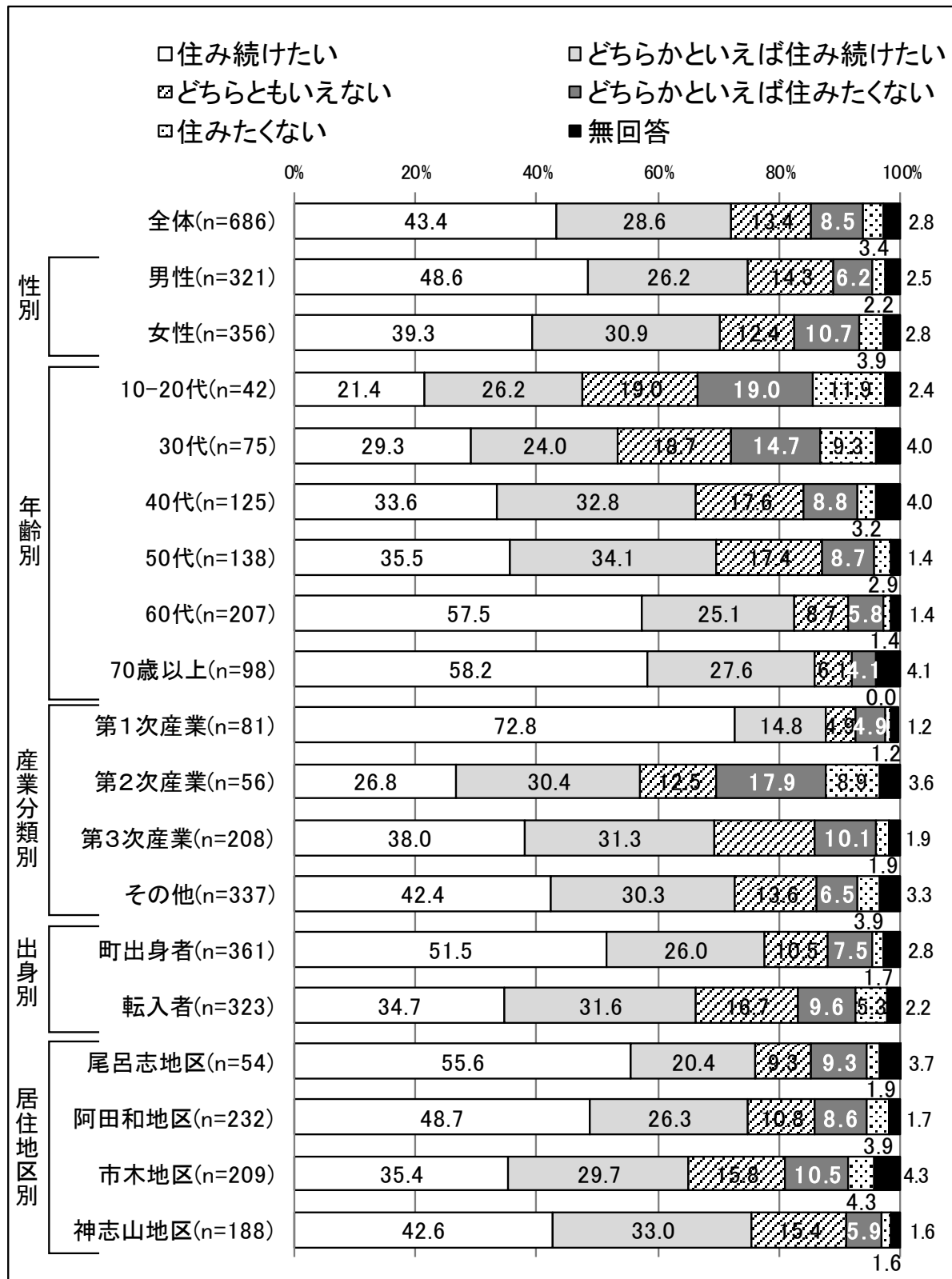
出身別で『住み続けたい』と回答した割合をみると、出身者が77.5%と、転入者の66.3%を大きく上回ります。

居住地区別で『住み続けたい』と回答した割合をみると、尾呂志地区(76.0%)、阿田和地区(75.0%)、神志山地区(75.6%)で7割を超える一方、市木地区では65.1%にとどまる結果となっています。

今後の定住意向について(全体)



今後の定住意向について（全体、性別、年齢別、産業分類別、出身別、居住地区別）



(3) 住み続けたい理由

問3② 住み続けたい主な理由は何ですか。(問3①で『住み続けたい』と回答した人のみ)
【複数回答】

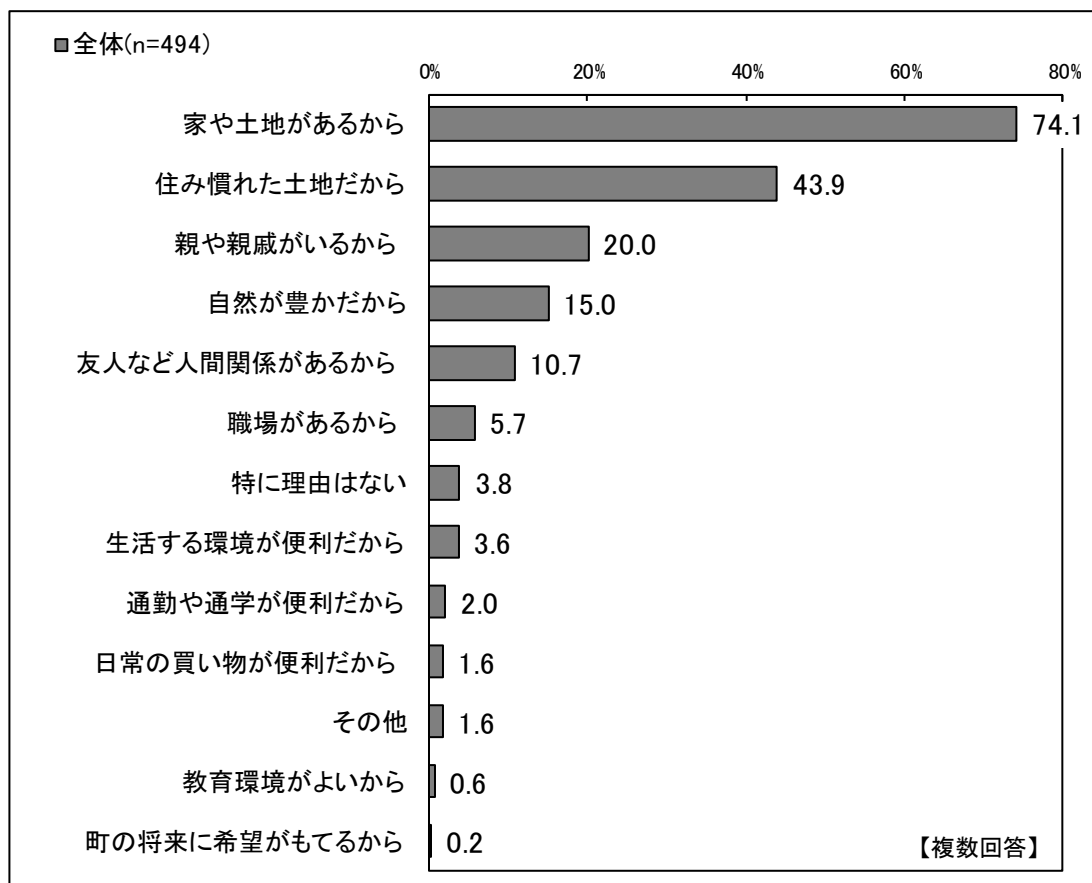


■「家や土地があるから」が第1位。次いで「住み慣れた土地だから」が続く。

問3①で『住み続けたい』と回答した人(72.0%、494人)に、その理由をたずねたところ、「家や土地があるから」(74.1%)が第1位に挙げられ、次いで「住み慣れた土地だから」(43.9%)が続きます。

性別、年齢別、出身地、居住地区別でも、ほとんどの層で「家や土地があるから」及び「住み慣れた土地だから」が理由の上位に挙げられています。

住み続けたい理由(全体／複数回答、『住み続けたい』と回答した人のみ)



住み続けたい理由

(全体、性別、年齢別、出身別、居住地区別／複数回答、『住み続けたい』と回答した人のみ)

		(%)	だ住 かみ 慣 れた 土地	か家 らや 土地 がある	か親 や 親 戚 が いる	係友 が 人 な ど 人 間 関	ら自然 が 豊 か だ か	から教育 環境 が よい	利通 だ勤 や から 通 学 が 便
全体 (n=494)			43.9	74.1	20.0	10.7	15.0	0.6	2.0
性別	男性 (n=240)		50.8	74.6	16.3	10.0	13.3	0.4	2.1
	女性 (n=250)		37.2	73.6	23.2	11.6	16.8	0.8	2.0
年齢別	10-20代 (n=20)		60.0	35.0	40.0	20.0	15.0	0.0	5.0
	30代 (n=40)		27.5	55.0	45.0	12.5	17.5	2.5	2.5
	40代 (n=83)		31.3	72.3	31.3	9.6	15.7	0.0	4.8
	50代 (n=96)		37.5	81.3	24.0	4.2	12.5	1.0	3.1
	60代 (n=171)		56.1	80.7	9.9	11.1	11.7	0.0	0.6
	70歳以上 (n=84)		42.9	72.6	8.3	15.5	22.6	1.2	0.0
出身別	町出身者 (n=280)		60.0	70.4	23.6	9.6	11.1	0.4	0.7
	転入者 (n=214)		22.9	79.0	15.4	12.1	20.1	0.9	3.7
居住地区別	尾呂志地区 (n=41)		51.2	63.4	26.8	17.1	12.2	4.9	2.4
	阿田和地区 (n=174)		47.1	73.0	18.4	9.8	14.9	0.0	0.6
	市木地区 (n=136)		41.9	72.1	22.8	12.5	12.5	0.7	1.5
	神志山地区 (n=142)		40.1	80.3	17.6	8.5	17.6	0.0	4.2

		(%)	便日 利常 だの か買 らい 物 が	便生 利活 だす から 環 境 が	職 場 が あ る か ら	が町 もの の 将 来 に 希 望	特 に 理 由 は な い	そ の 他
全体 (n=494)			1.6	3.6	5.7	0.2	3.8	1.6
性別	男性 (n=240)		0.8	3.8	7.9	0.0	2.9	1.7
	女性 (n=250)		2.4	3.6	3.6	0.4	4.8	1.6
年齢別	10-20代 (n=20)		0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	30代 (n=40)		2.5	0.0	10.0	2.5	5.0	2.5
	40代 (n=83)		1.2	3.6	7.2	0.0	3.6	1.2
	50代 (n=96)		0.0	4.2	7.3	0.0	3.1	4.2
	60代 (n=171)		1.8	4.1	4.1	0.0	3.5	0.0
	70歳以上 (n=84)		3.6	4.8	2.4	0.0	6.0	2.4
出身別	町出身者 (n=280)		1.1	1.1	6.8	0.0	2.1	0.4
	転入者 (n=214)		2.3	7.0	4.2	0.5	6.1	3.3
居住地区別	尾呂志地区 (n=41)		0.0	0.0	7.3	0.0	4.9	2.4
	阿田和地区 (n=174)		2.3	6.9	5.7	0.0	2.9	0.6
	市木地区 (n=136)		2.2	2.9	5.1	0.0	2.2	2.9
	神志山地区 (n=142)		0.7	1.4	5.6	0.7	6.3	1.4

(4) 住みたくない理由

問3③ 住みたくない主な理由は何ですか。(問3①で『住みたくない』と回答した人のみ)
【複数回答】

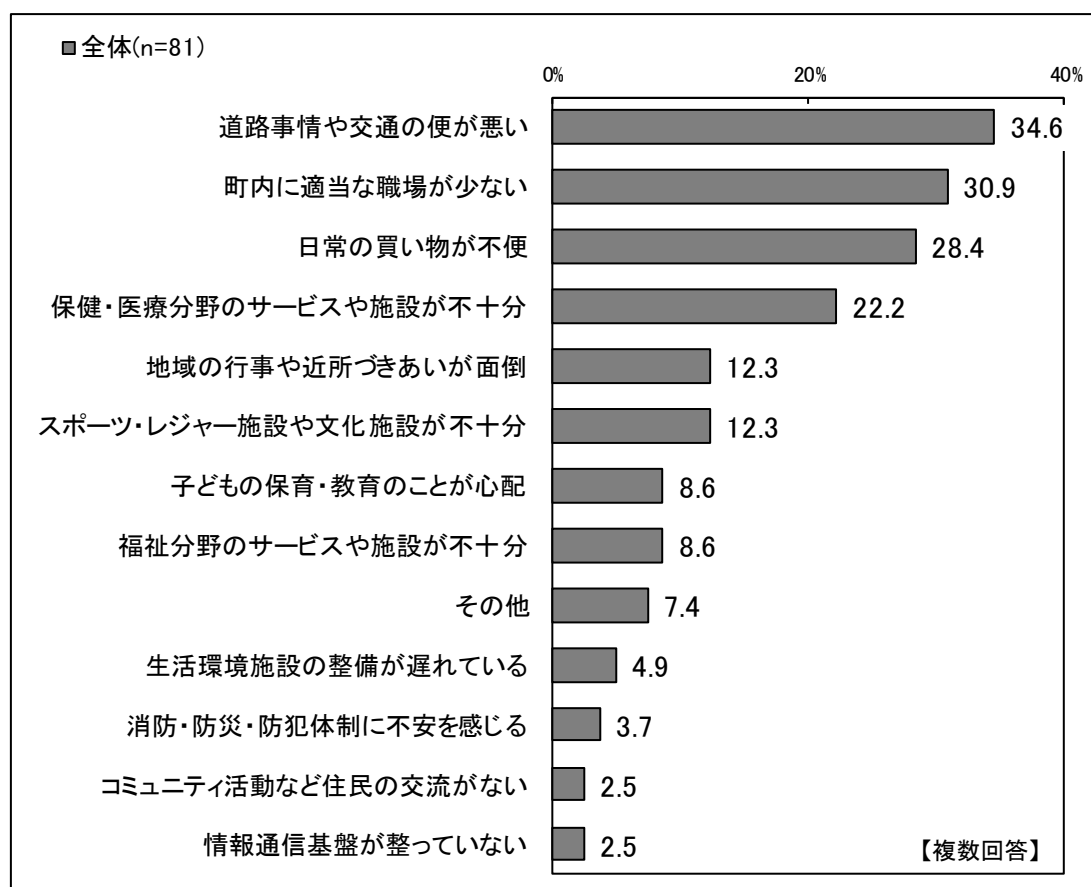


■「道路事情や交通の便が悪い」が第1位。次いで「町内に適当な職場が少ない」、「日常の買い物が不便」などの順。

問3①で『住みたくない』と回答した人(11.9%、81人)に、その理由をたずねたところ、「道路事情や交通の便が悪い」(34.6%)が第1位に挙げられ、次いで「町内に適当な職場が少ない」(30.9%)、「日常の買い物が不便」(28.4%)「保健・医療分野のサービスや施設が不十分」(22.2%)が続きます。

性別、年齢別、出身地別、居住地区別でみても、ほとんどの層で「道路事情や交通の便が悪い」、「町内に適当な職場が少ない」、「日常の買い物が不便」が上位に挙げられており、年齢別の10-20代では「町内に適当な職場が少ない」(53.8%)、70歳以上では「道路事情や交通の便が悪い」(75.0%)と回答する割合が多くなっています。

住みたくない理由(全体/複数回答、『住みたくない』と回答した人のみ)



住みたくない理由

(全体、性別、年齢別、出身別、居住地区別／複数回答、『住みたくない』と回答した人のみ)

		不 便 の 買 い 物 が	の 道 路 が 悪 い 交 通	倒 壊 の お そ ろ し	地 域 の 行 き や 面 近	配 教 育 の こ と が 保 育 心	子 ど も の 保 育 心	場 所 に あ い な い 職	町 内 に あ い な い 職	設 計 が 不 十 分	の サ ー ビ ス や 施 設	保 健 ・ 医 療 分 野	十 分 な サ ー ビ ス や 施 設 が あ る
		(%)											
全体 (n=81)		28.4	34.6	12.3	8.6	30.9	22.2	8.6					
性別	男性 (n=27)	44.4	22.2	14.8	11.1	37.0	22.2	3.7					
	女性 (n=52)	21.2	42.3	11.5	7.7	26.9	23.1	11.5					
年齢別	10-20代 (n=13)	23.1	46.2	0.0	15.4	53.8	15.4	0.0					
	30代 (n=18)	44.4	22.2	22.2	5.6	22.2	27.8	5.6					
	40代 (n=15)	20.0	26.7	13.3	20.0	33.3	13.3	13.3					
	50代 (n=16)	31.3	43.8	12.5	6.3	37.5	25.0	0.0					
	60代 (n=15)	20.0	26.7	13.3	0.0	20.0	33.3	20.0					
	70歳以上 (n=4)	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0					
出身別	町出身者 (n=33)	24.2	39.4	12.1	12.1	45.5	24.2	0.0					
	転入者 (n=48)	31.3	31.3	12.5	6.3	20.8	20.8	14.6					
居住地区別	尾呂志地区 (n=6)	0.0	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7					
	阿田和地区 (n=29)	31.0	44.8	6.9	6.9	27.6	24.1	10.3					
	市木地区 (n=31)	29.0	38.7	6.5	9.7	32.3	25.8	9.7					
	神志山地区 (n=14)	35.7	14.3	28.6	0.0	42.9	7.1	0.0					

		感 じ る	犯 罪 の 防 止 に あ い な い	消 防 の 防 止 に あ い な い	化 学 物 質 の 防 止 に あ い な い	ジ ン ギ ャ ー の 防 止 に あ い な い	ス ポ ー ツ の 防 止 に あ い な い	整 頓 な い	生 活 環 境 の 改 善 に あ い な い	流 動 性 の 低 下	コ ミ ュ ニ テ ィ の 交 渉	整 頓 な い	情 報 通 信 基 盤 が 不 十 分	そ の 他
		(%)												
全体 (n=81)		3.7	12.3	4.9	2.5	2.5	7.4							
性別	男性 (n=27)	0.0	11.1	0.0	0.0	3.7	11.1							
	女性 (n=52)	3.8	13.5	5.8	1.9	1.9	5.8							
年齢別	10-20代 (n=13)	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0							
	30代 (n=18)	0.0	16.7	5.6	5.6	0.0	11.1							
	40代 (n=15)	6.7	13.3	13.3	6.7	0.0	6.7							
	50代 (n=16)	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	12.5							
	60代 (n=15)	0.0	20.0	0.0	0.0	13.3	6.7							
	70歳以上 (n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							
出身別	町出身者 (n=33)	0.0	12.1	3.0	3.0	3.0	6.1							
	転入者 (n=48)	6.3	12.5	6.3	2.1	2.1	8.3							
居住地区別	尾呂志地区 (n=6)	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3							
	阿田和地区 (n=29)	3.4	20.7	3.4	0.0	3.4	0.0							
	市木地区 (n=31)	0.0	3.2	9.7	3.2	3.2	9.7							
	神志山地区 (n=14)	7.1	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1							

2. まちの現状とこれからの取り組みについて

(1) まちの各環境に対する満足度

問4 あなたは、町の施策やサービス、生活環境について満足していますか。また、どの程度重要だと思いますか。



- 満足度が最も高い項目は「上下水道」。次いで「健康づくり」、「消防・防災」、「ごみ・し尿処理」、「交通安全・防犯」の順。
- 満足度が最も低い項目は「商工業」。次いで「雇用対策」、「集客交流産業」、「医療体制」、「道路・交通網」の順。

町の施策やサービス、生活環境について6分野32項目を設定し、「非常に満足」、「満足」、「どちらでもない」、「不満」、「非常に不満」の5段階で評価した回答結果を、満足度として点数化※しました。

その結果をみると、満足度が最も高い項目は「5-②上下水道」(1.26点)となっており、次いで「3-①健康づくり」(1.17点)、「5-④消防・防災」(0.96点)、「5-③ごみ・し尿処理」(0.90点)、「5-⑤交通安全・防犯」(0.52点)が続きます。

一方、満足度が最も低い項目は「1-③商工業」(-2.98点)となっており、次いで「1-⑤雇用対策」(-2.95点)、「1-④集客交流産業」(-2.51点)、「3-②医療体制」(-2.15点)、「2-④道路・交通網」(-1.85点)など、産業分野の項目への評価が厳しい結果となっています。

また、設定した32項目のうち、評価がプラス点の項目は7項目、マイナス点の項目は24項目となっています。

満足度（全体／評価点、上位・下位項目）

上位	項目	評価点	下位	項目	評価点
1	5-②上下水道	1.26	1	1-③商工業	-2.98
2	3-①健康づくり	1.17	2	1-⑤雇用対策	-2.95
3	5-④消防・防災	0.96	3	1-④集客交流産業	-2.51
4	5-③ごみ・し尿処理	0.90	4	3-②医療体制	-2.15
5	5-⑤交通安全・防犯	0.52	5	2-④道路・交通網	-1.85

※評価点の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left(\begin{array}{l} \text{「非常に満足」の回答者数} \times 10 \text{ 点} + \text{「満足」の回答者数} \\ \times 5 \text{ 点} + \text{「どちらでもない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} + \text{「不} \\ \text{満」の回答者数} \times -5 \text{ 点} + \text{「非常に不満」の回答者数} \times -10 \\ \text{点} \end{array} \right)}{\left(\begin{array}{l} \text{「非常に満足」、「満足」、「ど} \\ \text{ちらでもない」、「不満」、「非常に} \\ \text{不満」の回答者数} \end{array} \right)}$$

さらに、満足度の上位項目を年齢別でみると、10-20代・70歳以上では「5-②上下水道」、30代・50代では「3-①健康づくり」、40代では「5-④消防・防災」、60代では「5-③ごみ・し尿処理」が第1位に挙げられています。

居住地区別でみると、尾呂志地区・阿田和地区・市木地区では「5-②上下水道」、神志山地区では「3-①健康づくり」が第1位となっています。

一方、満足度の下位項目を年齢別でみると、10-20代・30代・70歳以上では「1-③商工業」、40代・60代では「1-⑤雇用対策」、50代では「3-②医療体制」が最下位となっています。

居住地区別でみると、尾呂志地区・阿田和地区・市木地区では「1-⑤雇用対策」、神志山地区では「1-③商工業」が最下位となっています。

満足度上位・下位項目（年齢別／評価点、上位・下位項目）

10-20代

上位	項目	評価点
1	5-②上下水道	2.62
2	5-③ごみ・し尿処理	1.67
3	5-⑤交通安全・防犯	1.55
4	5-④消防・防災	1.22
5	3-①健康づくり	1.07
下位	項目	評価点
1	3-②医療体制	-2.62
2	1-⑤雇用対策／2-④道路・交通網	-2.50
3	2-③居住環境	-1.67
4	4-①学校教育	-1.55
5	4-⑤スポーツ	-1.43

30代

上位	項目	評価点
1	3-①健康づくり	1.49
2	5-②上下水道	1.35
3	3-③地域福祉／5-④消防・防災	0.68
4	3-④子育て支援／5-⑤交通安全・防犯	0.61
5	5-①自然環境の保全	0.55
下位	項目	評価点
1	1-③商工業	-3.45
2	1-④集客交流産業	-2.71
3	1-⑤雇用対策	-2.70
4	2-③居住環境	-2.43
5	2-①土地利用／3-②医療体制	-1.89

40代

上位	項目	評価点
1	5-④消防・防災	1.39
2	3-①健康づくり	1.32
3	5-②上下水道／5-⑤交通安全・防犯	1.11
4	5-③ごみ・し尿処理	0.53
5	3-③地域福祉	0.17
下位	項目	評価点
1	1-⑤雇用対策	-3.32
2	1-③商工業	-3.19
3	1-④集客交流産業	-2.33
4	2-④道路・交通網	-1.97
5	3-②医療体制	-1.94

50代

上位	項目	評価点
1	3-①健康づくり	0.72
2	5-②上下水道／5-④消防・防災	0.40
3	5-③ごみ・し尿処理	0.33
4	6-③人権・男女共同参画	-0.04
5	5-⑤交通安全・防犯	-0.15
下位	項目	評価点
1	3-②医療体制	-3.37
2	1-③商工業	-3.21
3	1-⑤雇用対策	-3.16
4	1-④集客交流産業	-3.00
5	2-④道路・交通網	-2.01

60代

上位	項目	評価点
1	5-③ごみ・し尿処理	1.07
2	5-②上下水道	1.04
3	3-①健康づくり	0.95
4	5-④消防・防災	0.63
5	5-⑤交通安全・防犯	0.10
下位	項目	評価点
1	1-⑤雇用対策	-2.91
2	1-③商工業	-2.79
3	1-④集客交流産業	-2.65
4	2-①土地利用	-2.17
5	1-①農業	-2.06

70歳以上

上位	項目	評価点
1	5-②上下水道	2.56
2	5-③ごみ・し尿処理	2.27
3	5-④消防・防災	2.13
4	3-①健康づくり	1.93
5	5-⑤交通安全・防犯	1.15
下位	項目	評価点
1	1-③商工業	-3.10
2	1-⑤雇用対策	-2.64
3	1-①農業	-2.19
4	1-④集客交流産業	-2.18
5	2-④道路・交通網	-2.02

満足度上位・下位項目（居住地区別／評価点、上位・下位項目）

尾呂志地区

上位	項目	評価点
1	5-②上下水道	1.44
2	5-④消防・防災	1.35
3	5-③ごみ・し尿処理	0.87
4	3-①健康づくり	0.60
5	5-⑤交通安全・防犯	0.38
下位	項目	評価点
1	1-⑤雇用対策	-2.80
2	2-①土地利用	-2.76
3	1-③商工業	-2.65
4	2-④道路・交通網	-2.60
5	1-①農業	-2.06

阿田和地区

上位	項目	評価点
1	5-②上下水道	1.46
2	3-①健康づくり	1.32
3	5-③ごみ・し尿処理	0.93
4	5-④消防・防災	0.67
5	5-⑤交通安全・防犯	0.40
下位	項目	評価点
1	1-⑤雇用対策	-2.88
2	1-③商工業	-2.76
3	1-④集客交流産業	-2.42
4	2-③居住環境	-2.10
5	2-①土地利用	-2.05

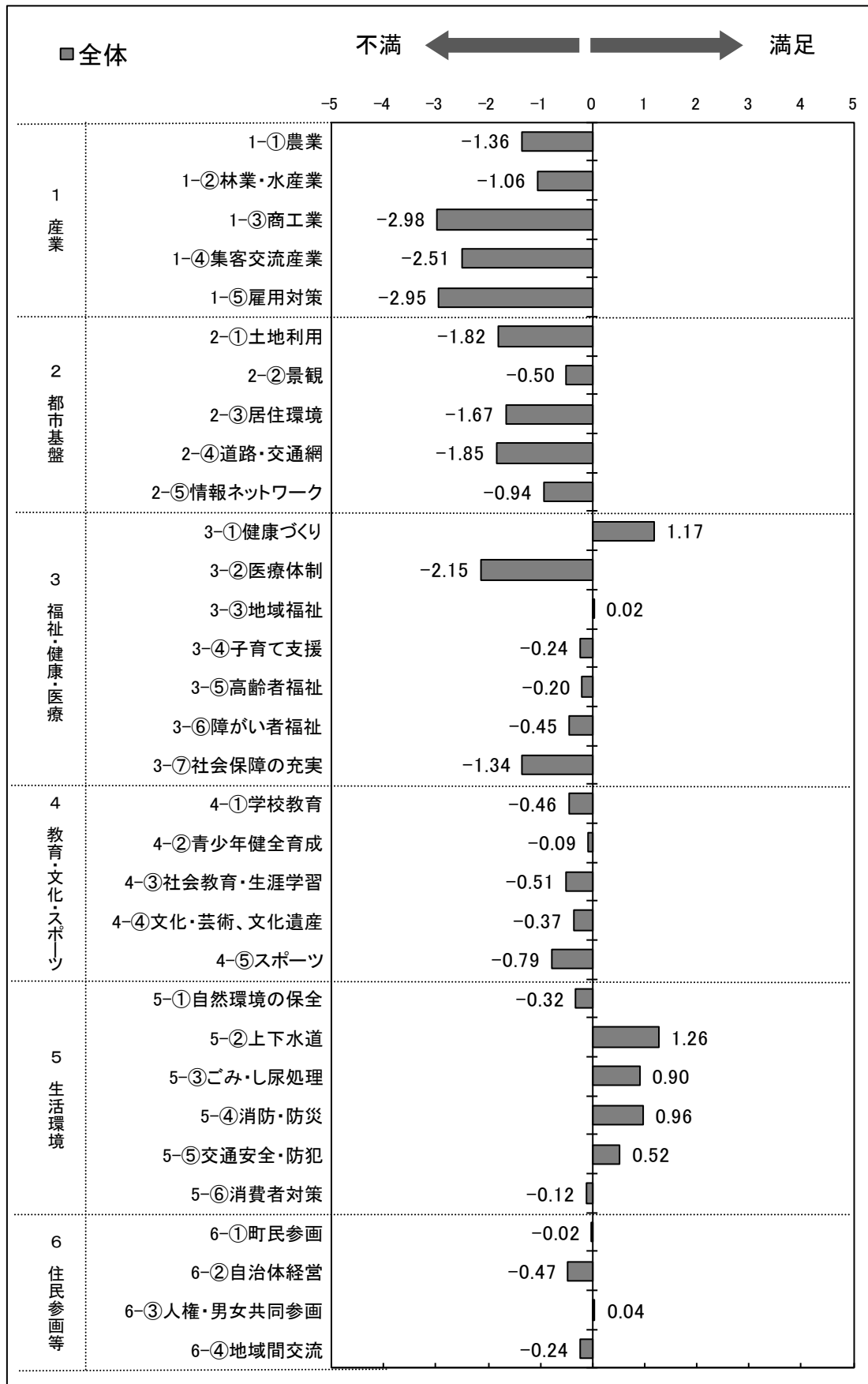
市木地区

上位	項目	評価点
1	5-②上下水道	1.05
2	3-①健康づくり	1.04
3	5-④消防・防災	0.97
4	5-③ごみ・し尿処理	0.77
5	5-⑤交通安全・防犯	0.47
下位	項目	評価点
1	1-⑤雇用対策	-2.93
2	1-④集客交流産業	-2.81
3	1-③商工業	-2.80
4	3-②医療体制	-2.43
5	2-③居住環境／2-④道路・交通網	-1.53

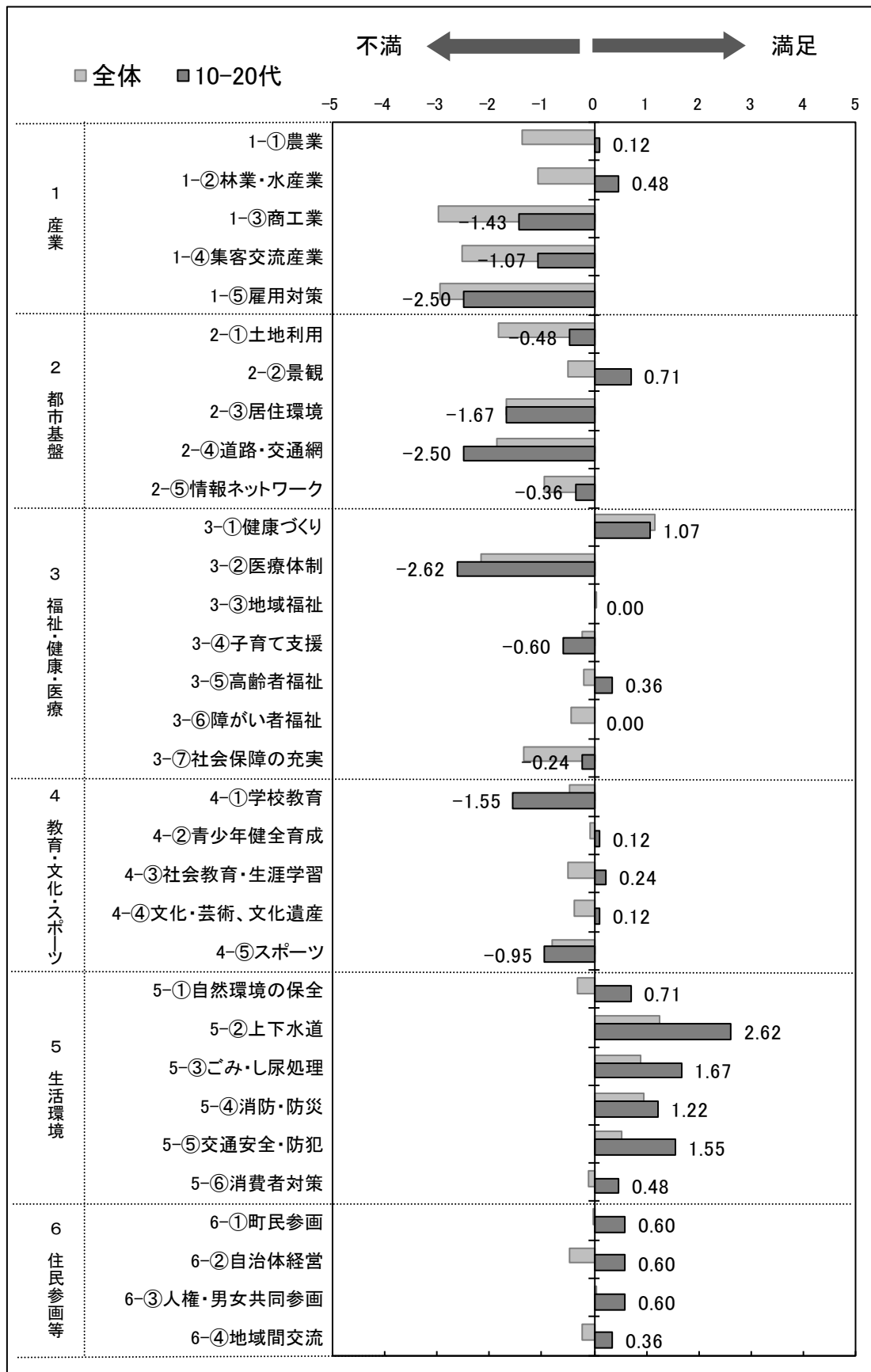
神志山地区

上位	項目	評価点
1	3-①健康づくり	1.26
2	5-④消防・防災	1.22
3	5-②上下水道	1.19
4	5-③ごみ・し尿処理	1.08
5	5-⑤交通安全・防犯	0.79
下位	項目	評価点
1	1-③商工業	-3.57
2	1-⑤雇用対策	-3.05
3	3-②医療体制	-2.62
4	1-④集客交流産業	-2.49
5	2-①土地利用	-1.92

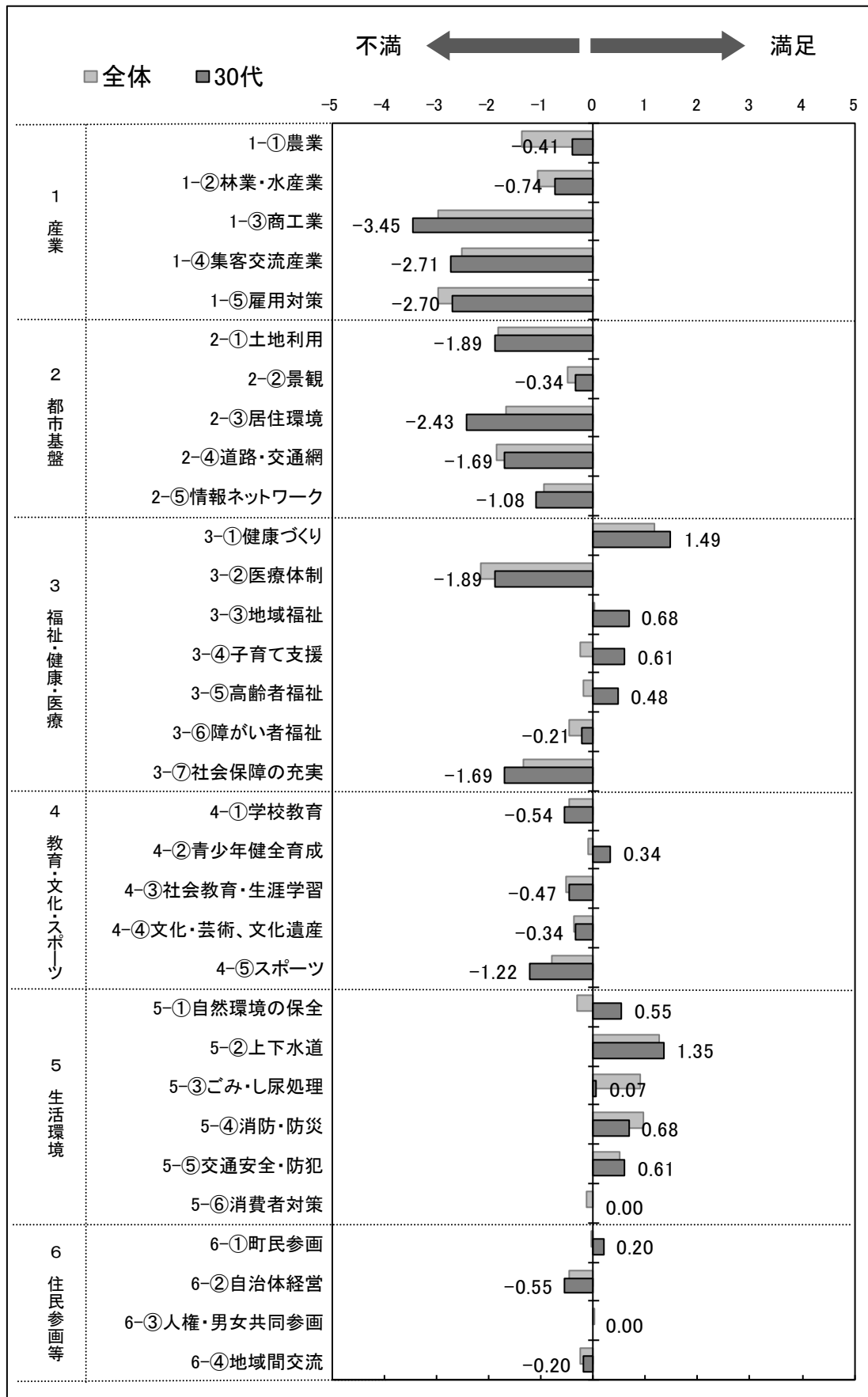
満足度（全体／評価点）



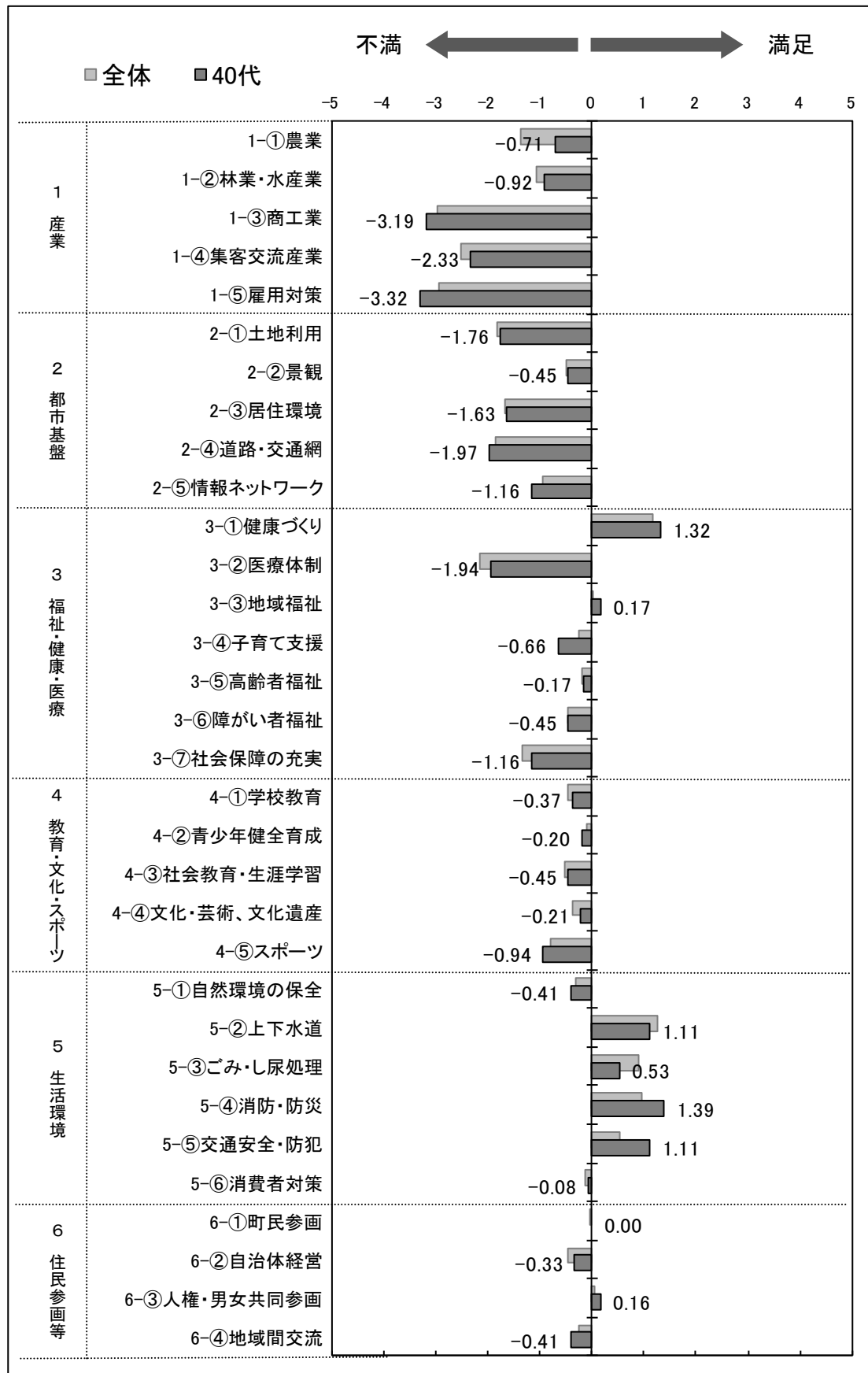
満足度（全体、10-20代／評価点）



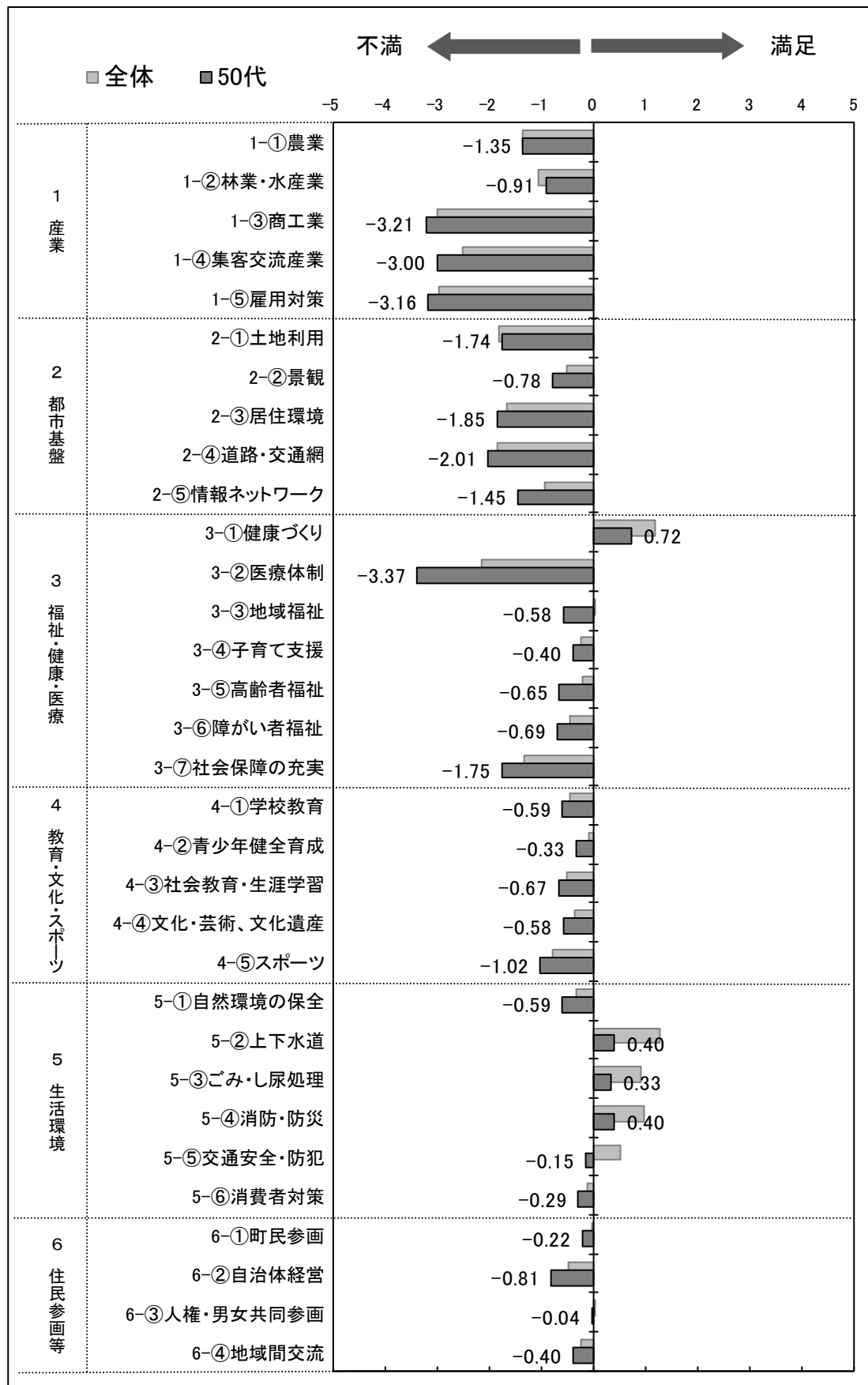
満足度（全体、30代／評価点）



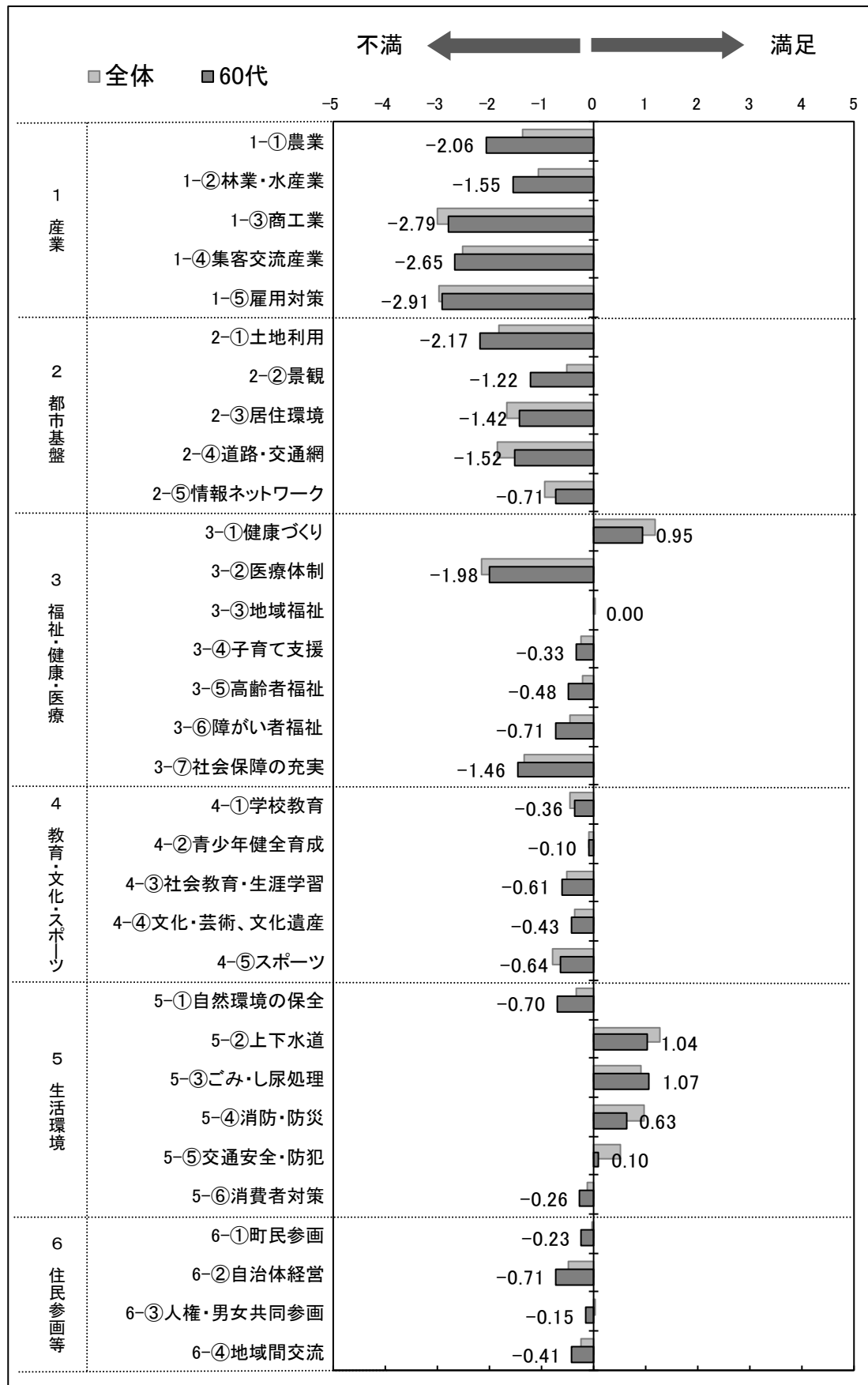
満足度（全体、40代／評価点）



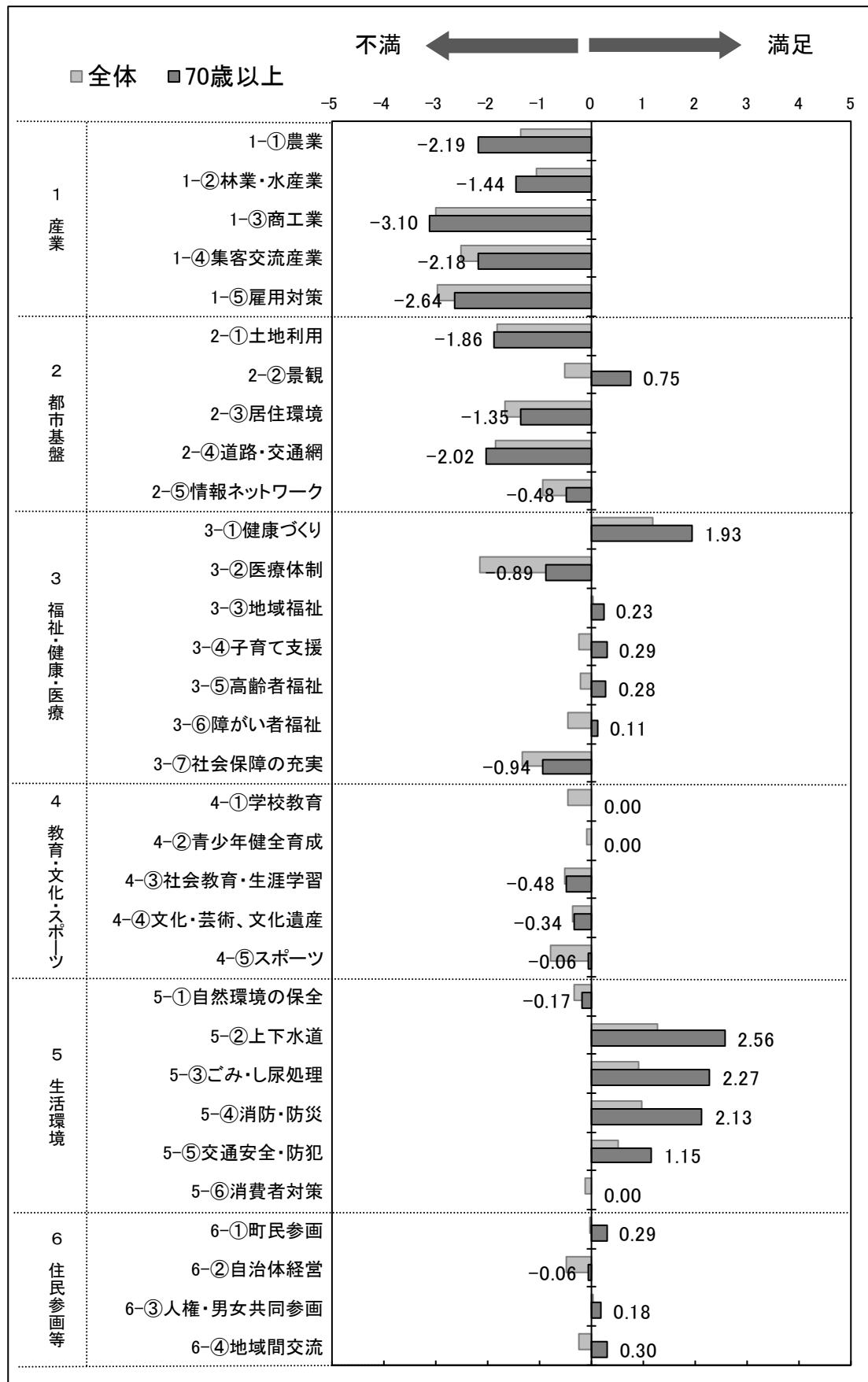
満足度（全体、50代／評価点）



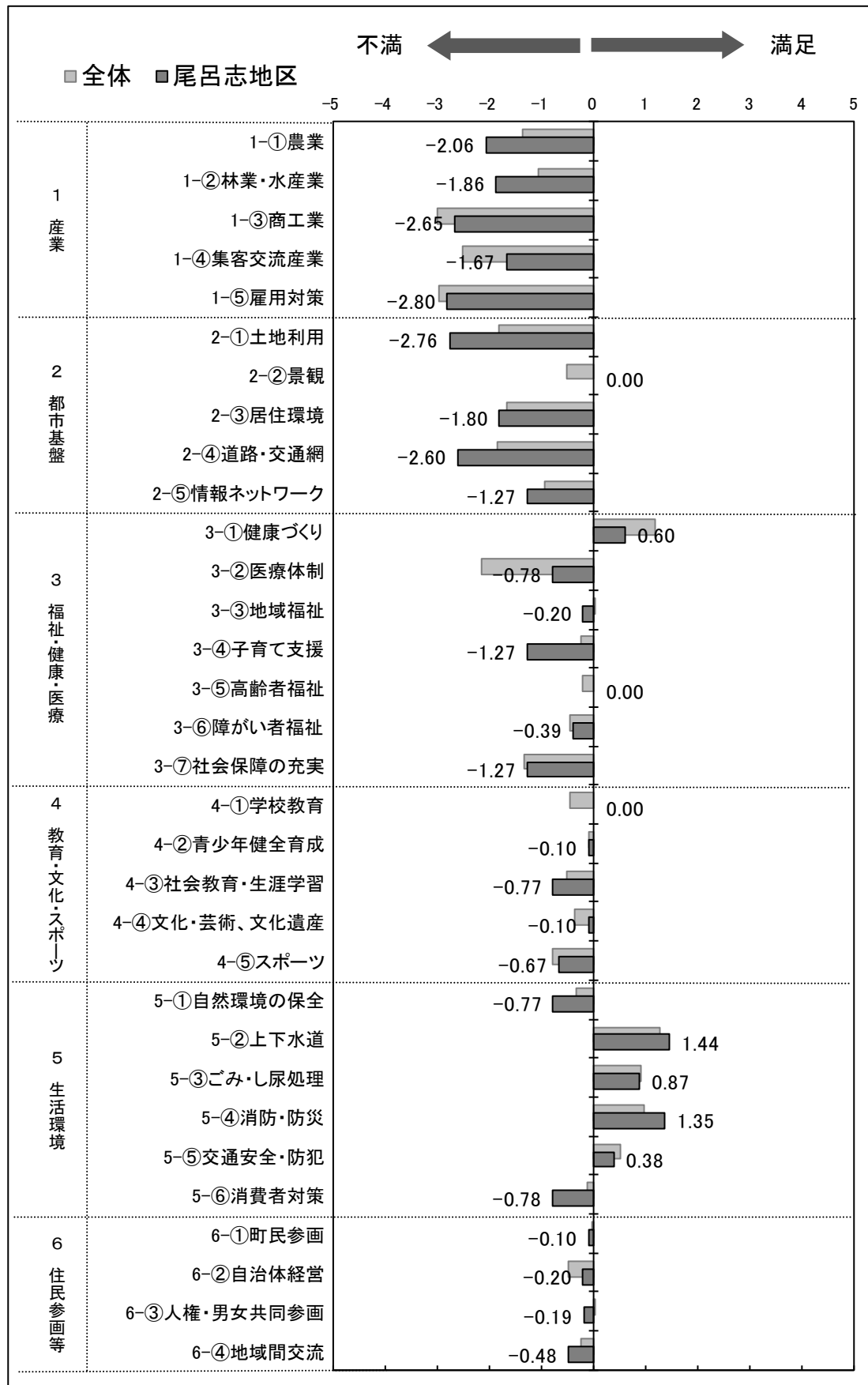
満足度（全体、60代／評価点）



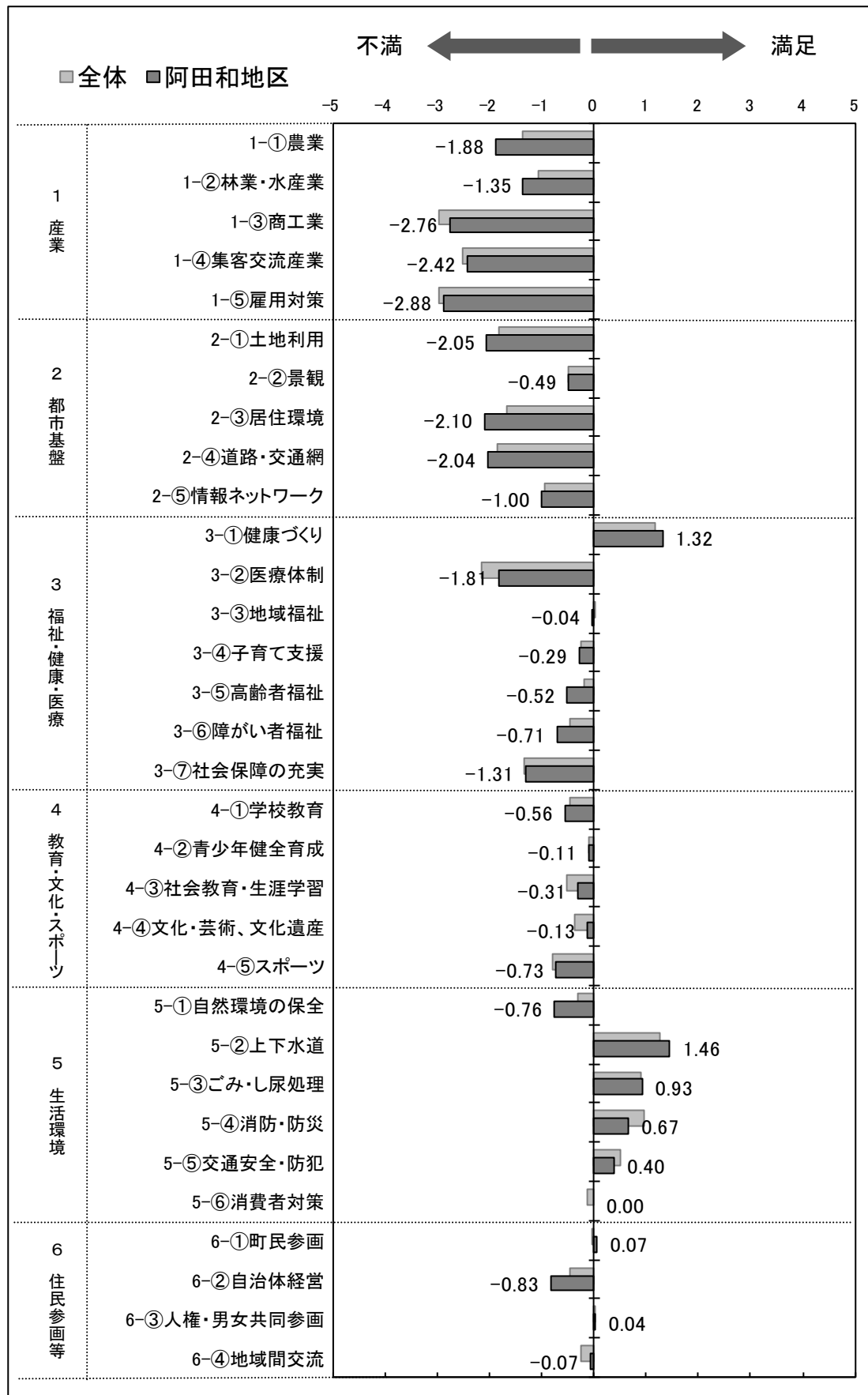
満足度（全体、70歳以上／評価点）



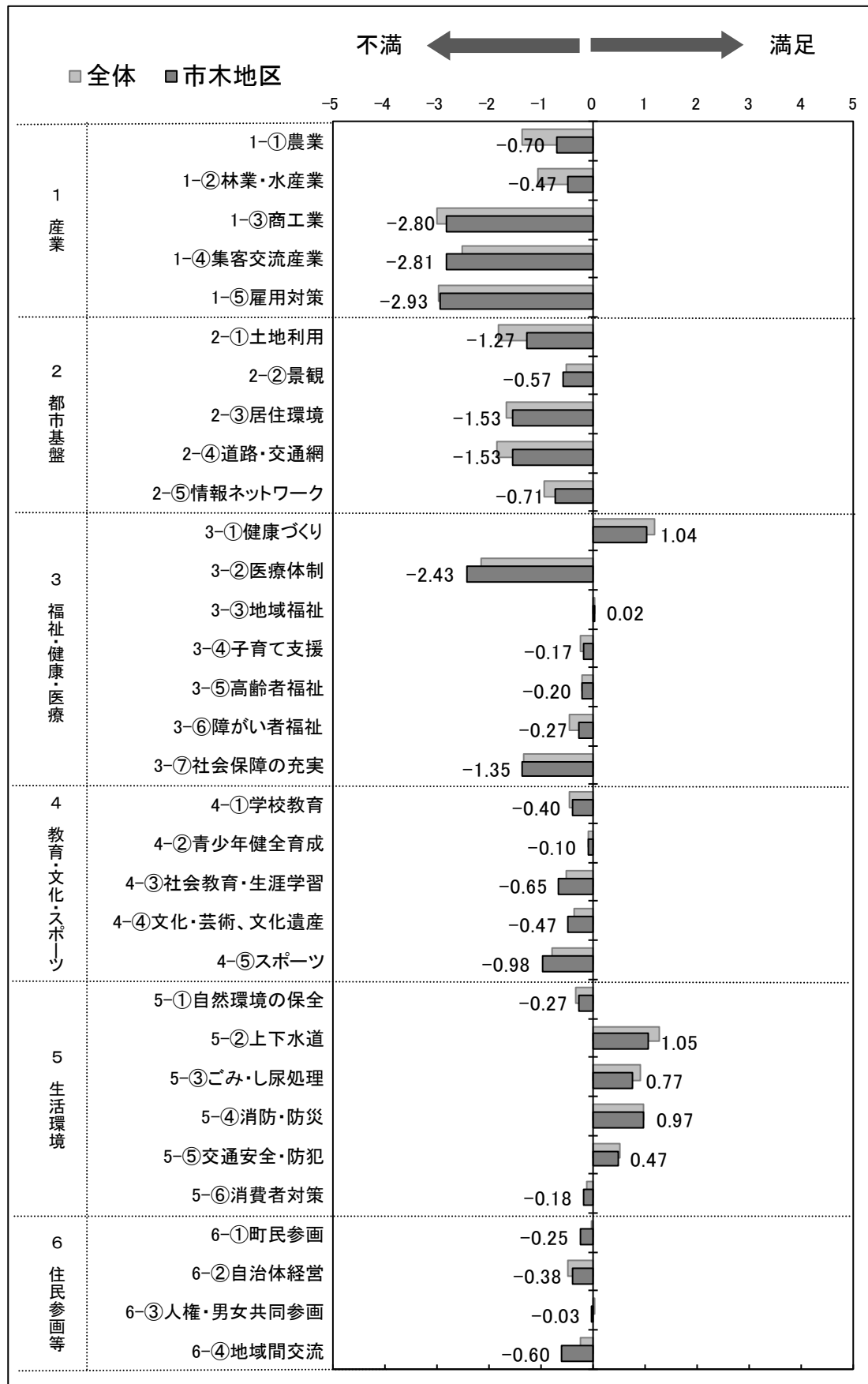
満足度（全体、尾呂志地区／評価点）



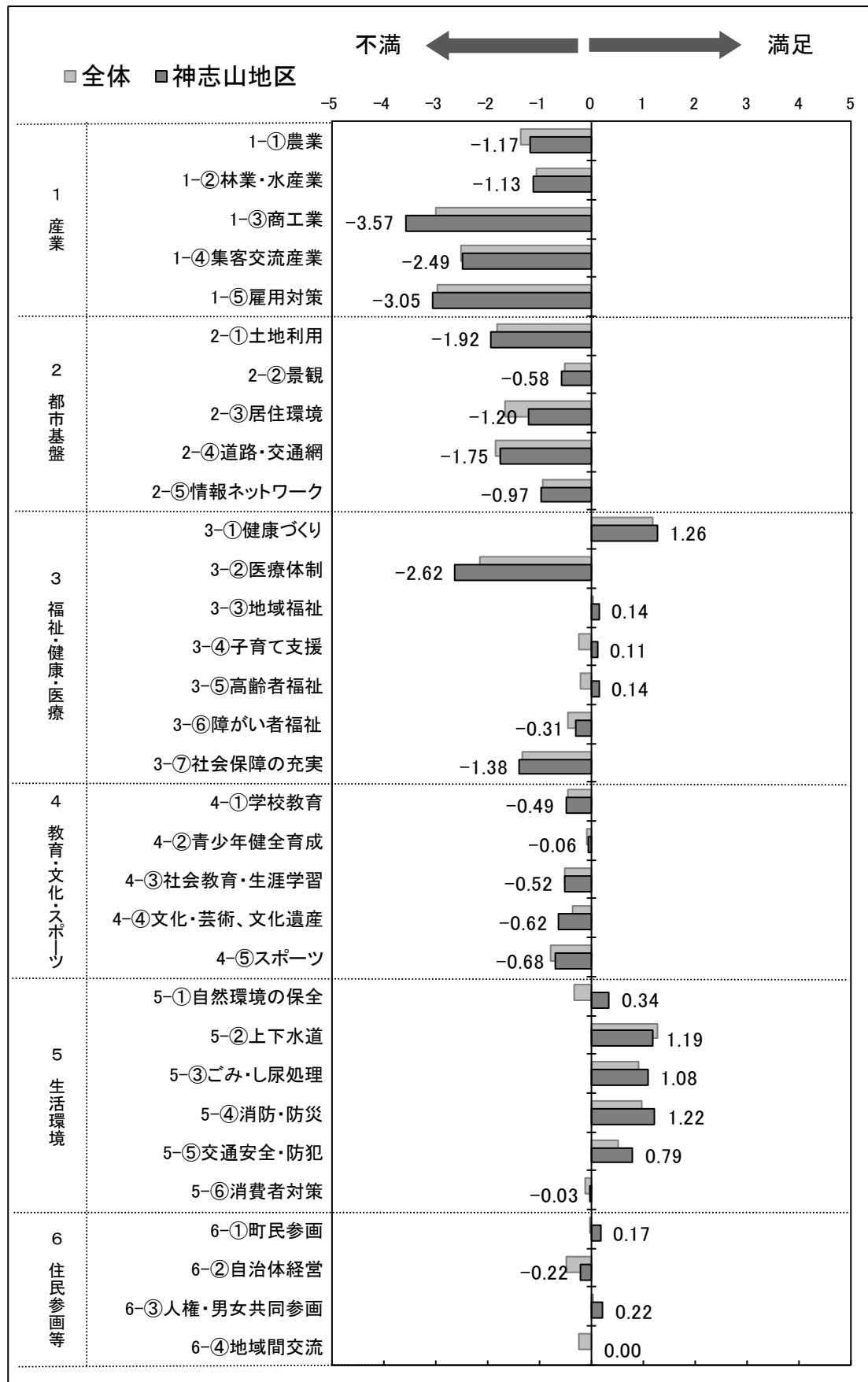
満足度（全体、阿田和地区／評価点）



満足度（全体、市木地区／評価点）



満足度（全体、神志山地区／評価点）



(2) まちの各環境に対する重要度

■重要度が最も高い項目は「医療体制」。次いで「学校教育」、「上下水道」、「雇用対策」、「農業」の順。

満足度と同様の6分野32項目について、「非常に重要」、「重要」、「どちらでもない」、「あまり重要でない」、「重要でない」の5段階で評価した回答結果を、重要度として点数化※しました。

その結果をみると、「3-②医療体制」(6.91点)が最も高く、次いで「4-①学校教育」(5.58点)、「5-②上下水道」(5.53点)、「1-⑤雇用対策」(5.36点)、「1-①農業」(5.35点)などが上位に挙げられています。

年齢別でみると、すべての年齢層で「3-②医療体制」が第1位に挙げられており、医療体制の充実への要望が強い結果となっています。また、50代以下の層では「4-①学校教育」が上位となっており、教育環境を重視していることがうかがえます。

居住地区別でみると、すべての地区で「3-②医療体制」が第1位に挙げられています(尾呂志地区では「3-⑤高齢者福祉」と同点)。また、尾呂志地区では「2-④道路・交通網」(5.98点)が第2位に、阿田和地区、市木地区、神志山地区では「4-①学校教育」が上位に挙げられています。

重要度(全体／評価点、上位項目)

上位	項目	評価点	上位	項目	評価点
1	3-②医療体制	6.91	6	3-⑦社会保障の充実	5.24
2	4-①学校教育	5.58	7	1-③商工業	5.22
3	5-②上下水道	5.53	8	5-③ごみ・し尿処理	5.21
4	1-⑤雇用対策	5.36	9	2-④道路・交通網／5-④消防・防災	5.17
5	1-①農業	5.35	10	3-⑤高齢者福祉	5.02

※評価点の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left(\begin{array}{l} \text{「非常に重要」の回答者数} \times 10 \text{ 点} + \text{「重要」の回答者数} \\ \times 5 \text{ 点} + \text{「どちらでもない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} + \text{「あまり重要でない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} + \text{「重要でない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right)}{\left(\begin{array}{l} \text{「非常に重要」、「重要」、「あまり重要でない」、「重要でない」の回答者数} \end{array} \right)}$$

重要度（年齢別／評価点、上位項目）

10-20代

上位	項目	評価点
1	3-②医療体制	6.59
2	4-①学校教育	6.46
3	2-④道路・交通網	5.88
4	2-③居住環境	5.50
5	1-①農業	5.49

30代

上位	項目	評価点
1	3-②医療体制	6.85
2	1-③商工業	6.39
3	4-①学校教育	6.20
4	5-②上下水道	6.13
5	3-④子育て支援	5.55

40代

上位	項目	評価点
1	3-②医療体制	7.43
2	4-①学校教育	6.11
3	1-⑤雇用対策	5.96
4	5-②上下水道	5.89
5	5-③ごみ・し尿処理	5.84

50代

上位	項目	評価点
1	3-②医療体制	7.63
2	1-⑤雇用対策	6.17
3	4-①学校教育	5.82
4	2-④道路・交通網	5.68
5	5-④消防・防災	5.67

60代

上位	項目	評価点
1	3-②医療体制	6.34
2	5-②上下水道	5.41
3	5-④消防・防災	5.31
4	3-⑦社会保障の充実	5.16
5	1-①農業	5.11

70歳以上

上位	項目	評価点
1	3-②医療体制	6.57
2	1-①農業	5.71
3	5-②上下水道	5.31
4	5-④消防・防災	5.19
5	2-④道路・交通網／3-⑤高齢者福祉／4-①学校教育	4.94

重要度（居住地区別／評価点、上位項目）

尾呂志地区

上位	項目	評価点
1	3-②医療体制／3-⑤高齢者福祉	6.44
2	2-④道路・交通網	5.98
3	3-⑦社会保障の充実／5-④消防・防災	5.77
4	3-⑥障がい者福祉	5.67
5	5-②上下水道	5.48

阿田和地区

上位	項目	評価点
1	3-②医療体制	6.98
2	5-②上下水道	5.54
3	4-①学校教育	5.52
4	2-④道路・交通網	5.36
5	5-③ごみ・し尿処理	5.31

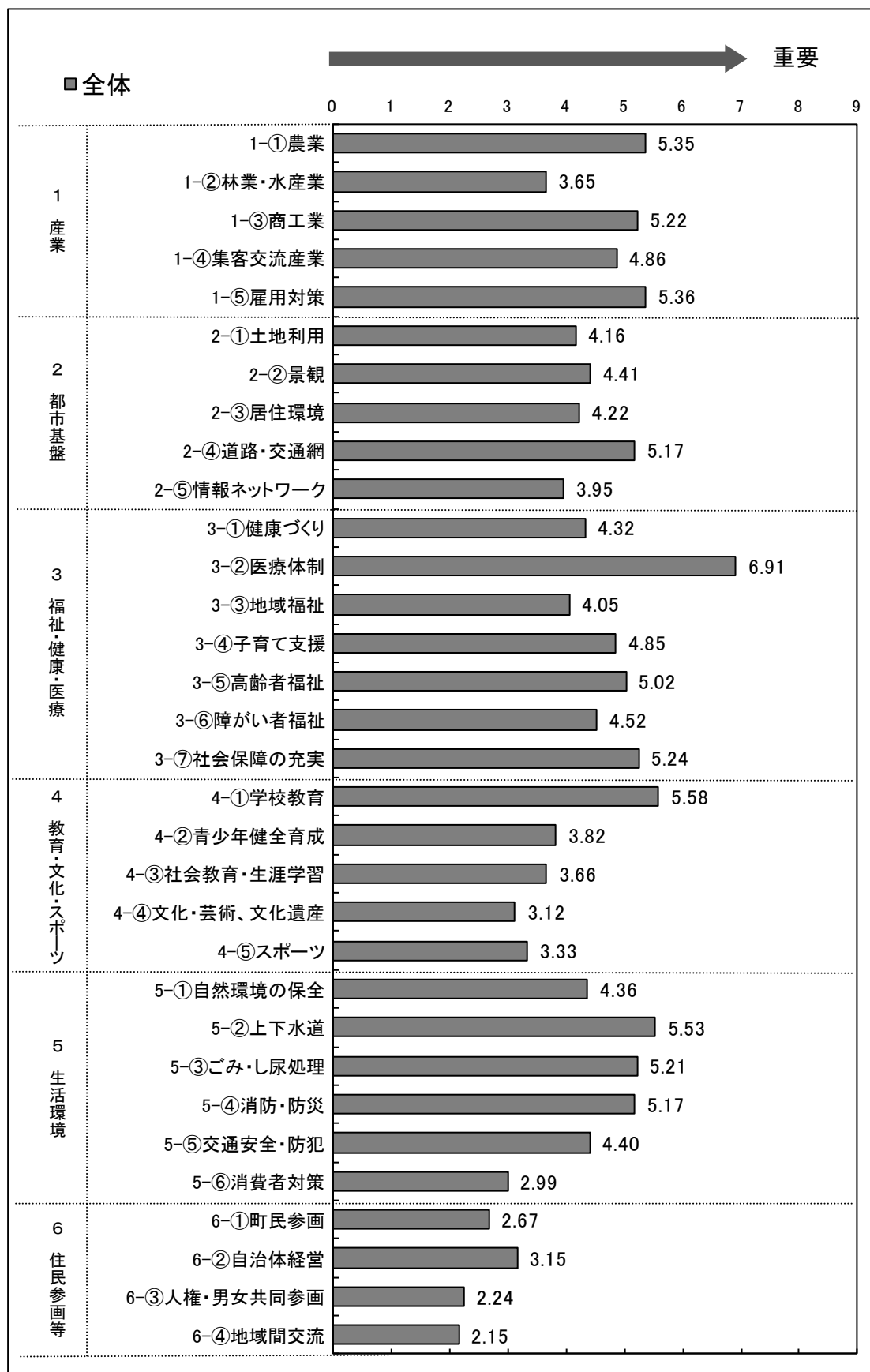
市木地区

上位	項目	評価点
1	3-②医療体制	6.96
2	4-①学校教育	5.77
3	1-⑤雇用対策	5.58
4	5-②上下水道	5.56
5	5-④消防・防災	5.53

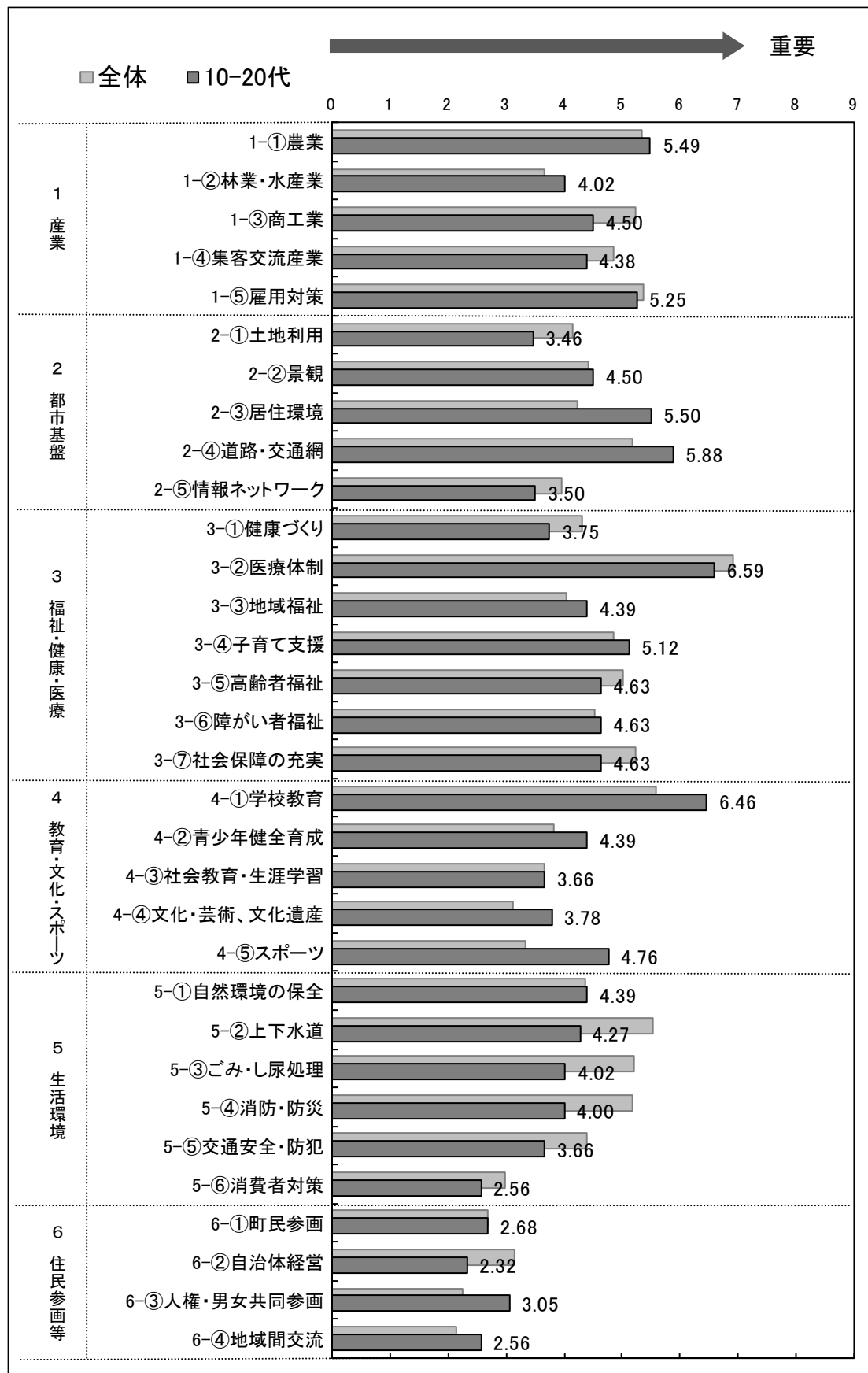
神志山地区

上位	項目	評価点
1	3-②医療体制	6.87
2	1-①農業	5.65
3	4-①学校教育	5.52
4	3-⑦社会保障の充実／5-②上下水道	5.50
5	1-③商工業／1-⑤雇用対策	5.36

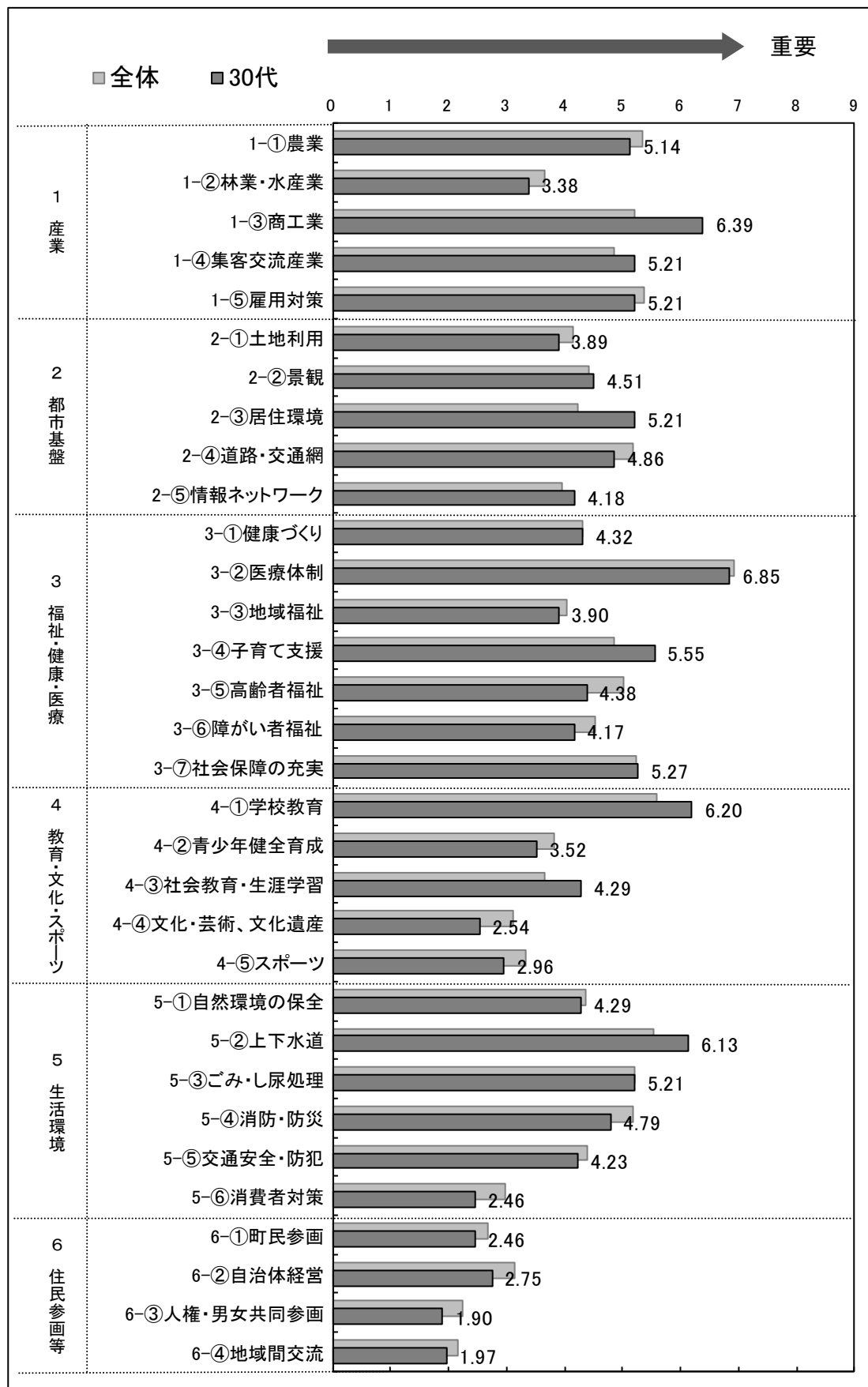
重要度（全体／評価点）



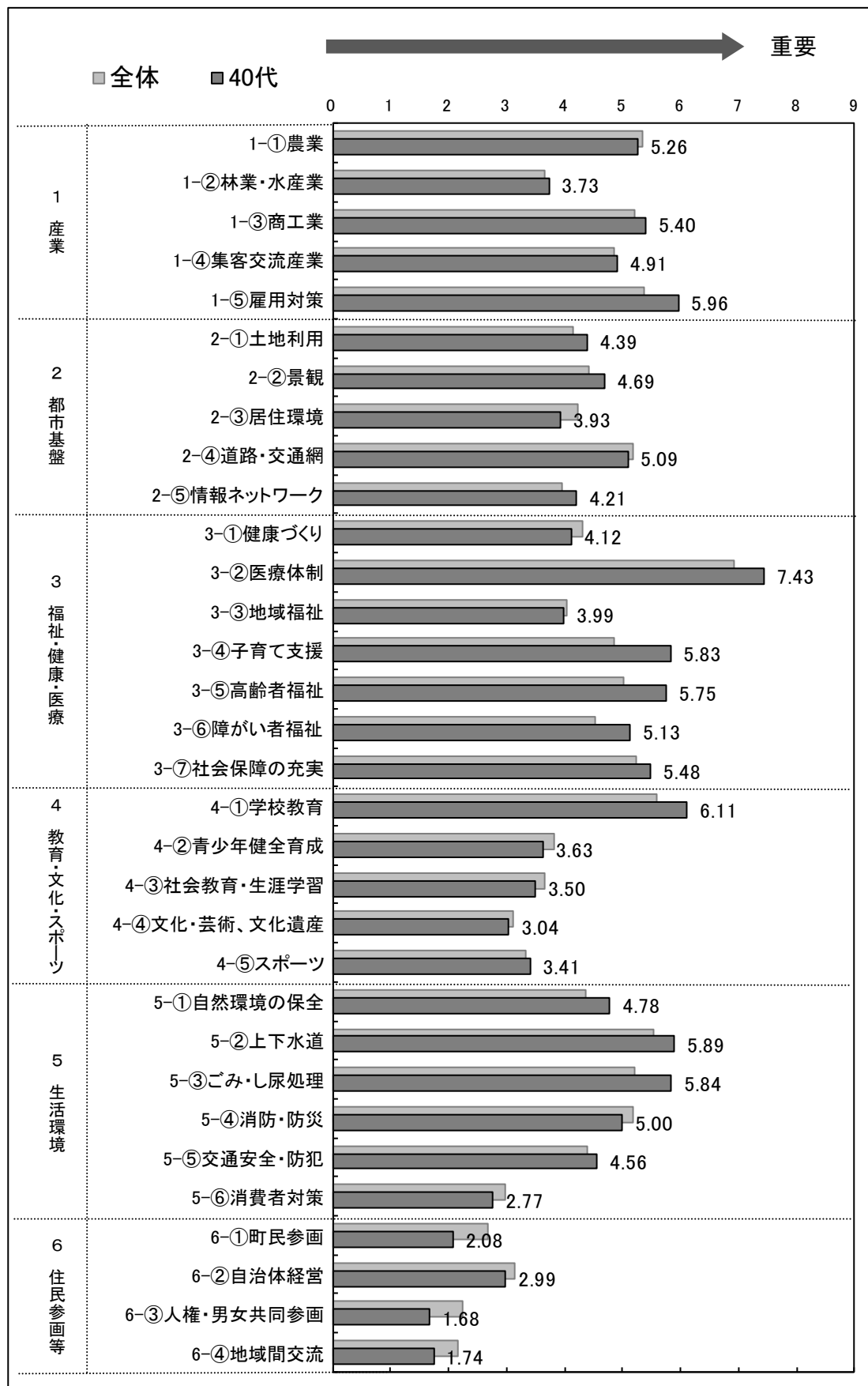
重要度（全体、10-20代／評価点）



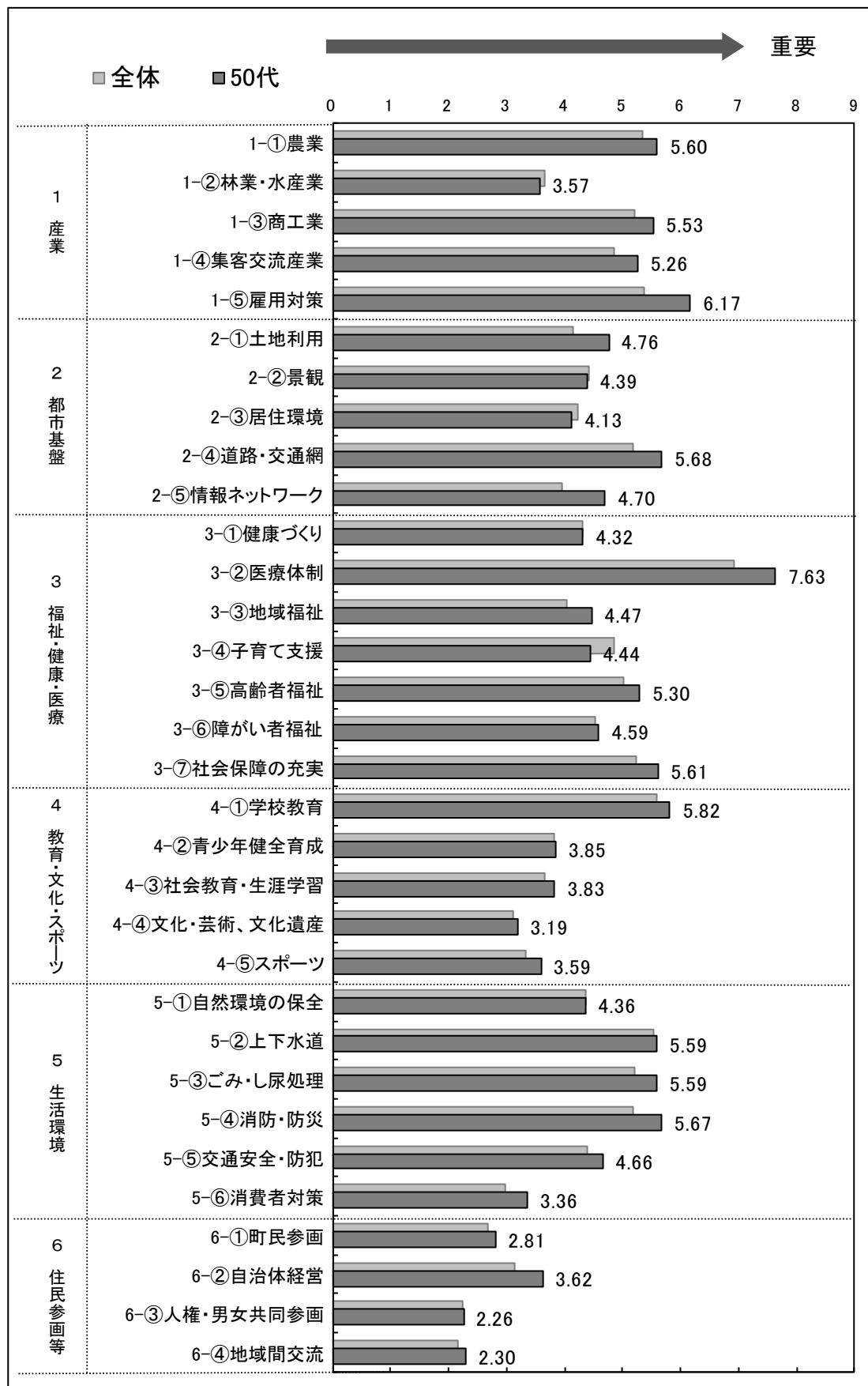
重要度（全体、30代／評価点）



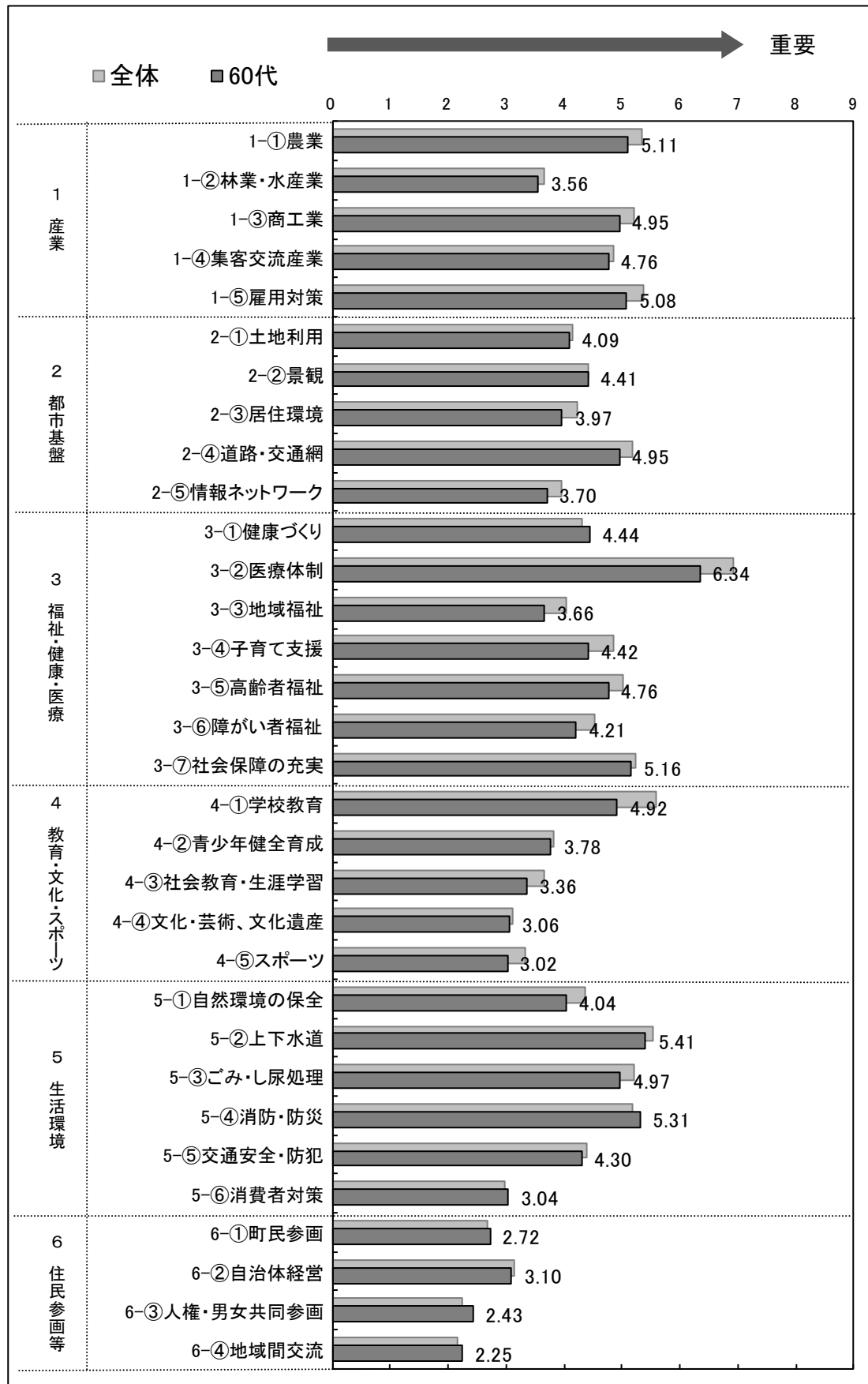
重要度（全体、40代／評価点）



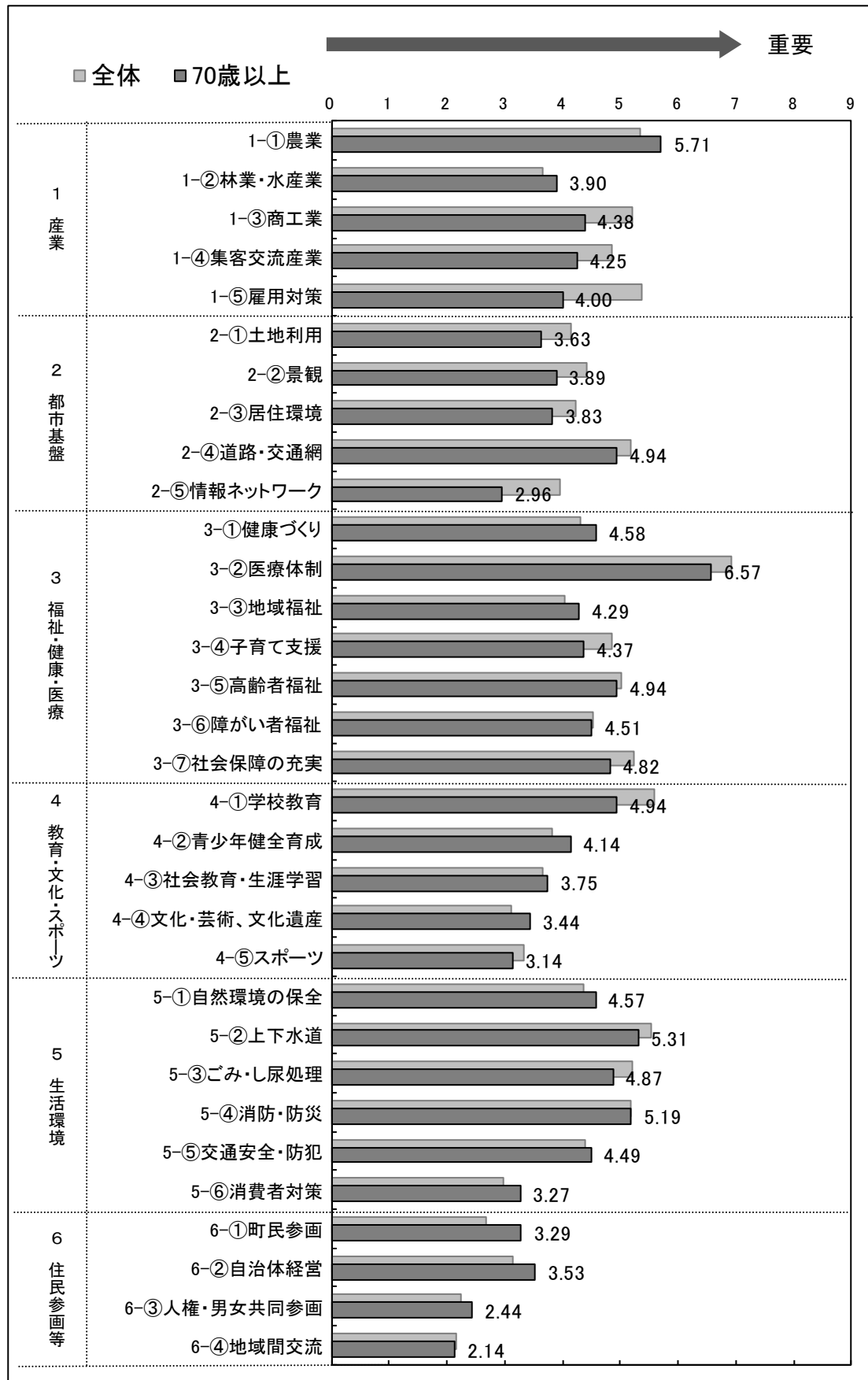
重要度（全体、50代／評価点）



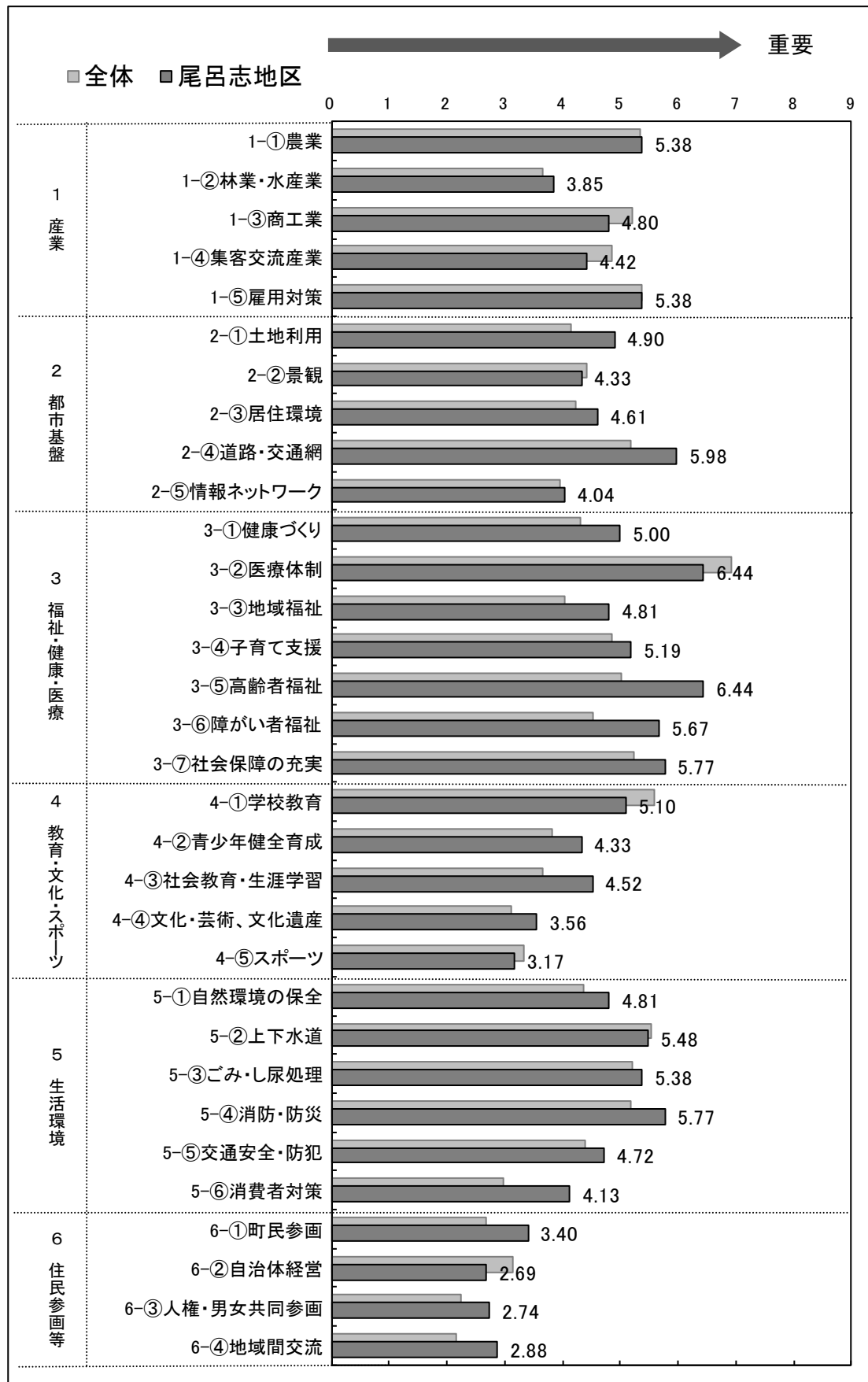
重要度（全体、60代／評価点）



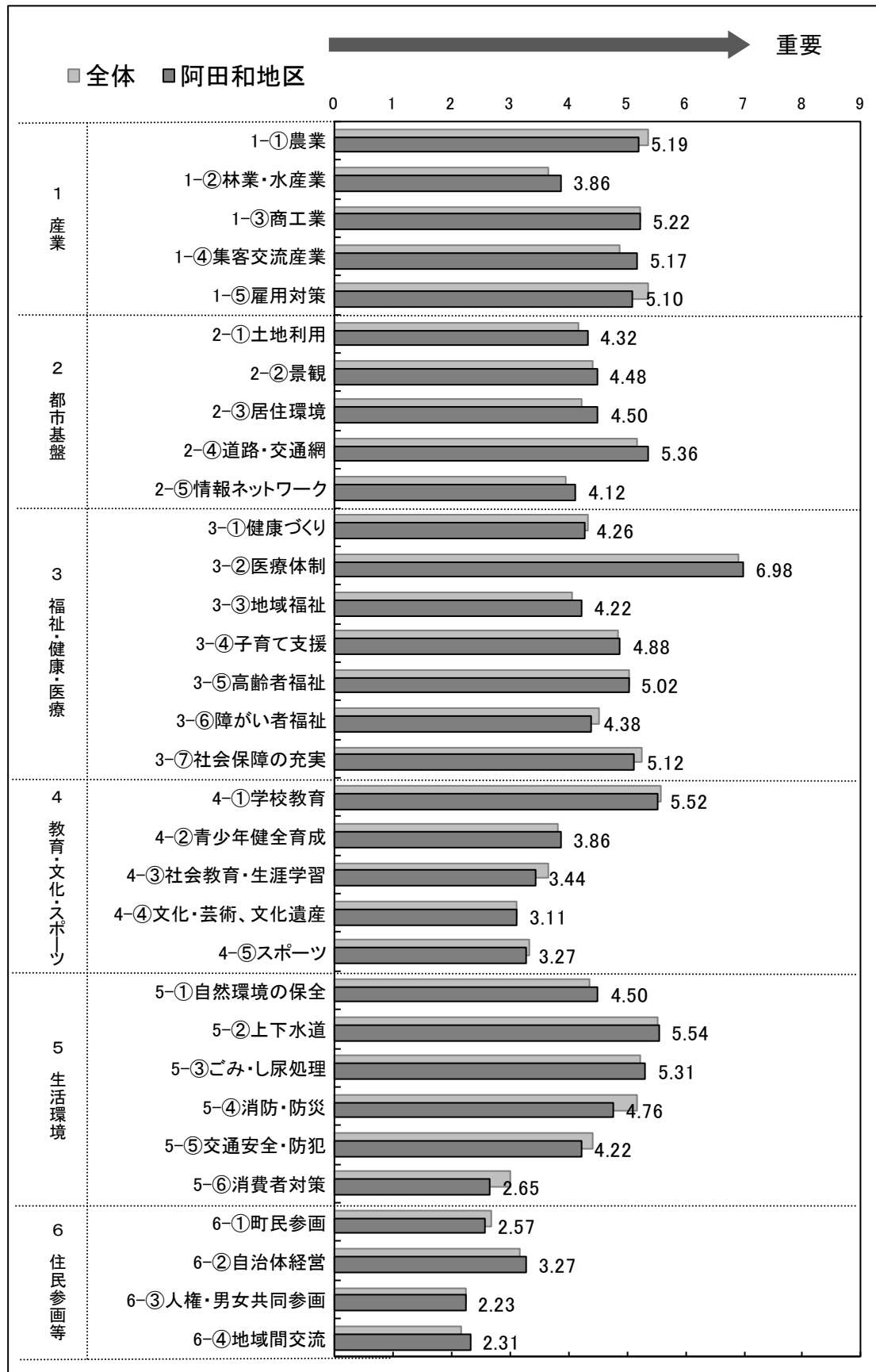
重要度（全体、70歳以上／評価点）



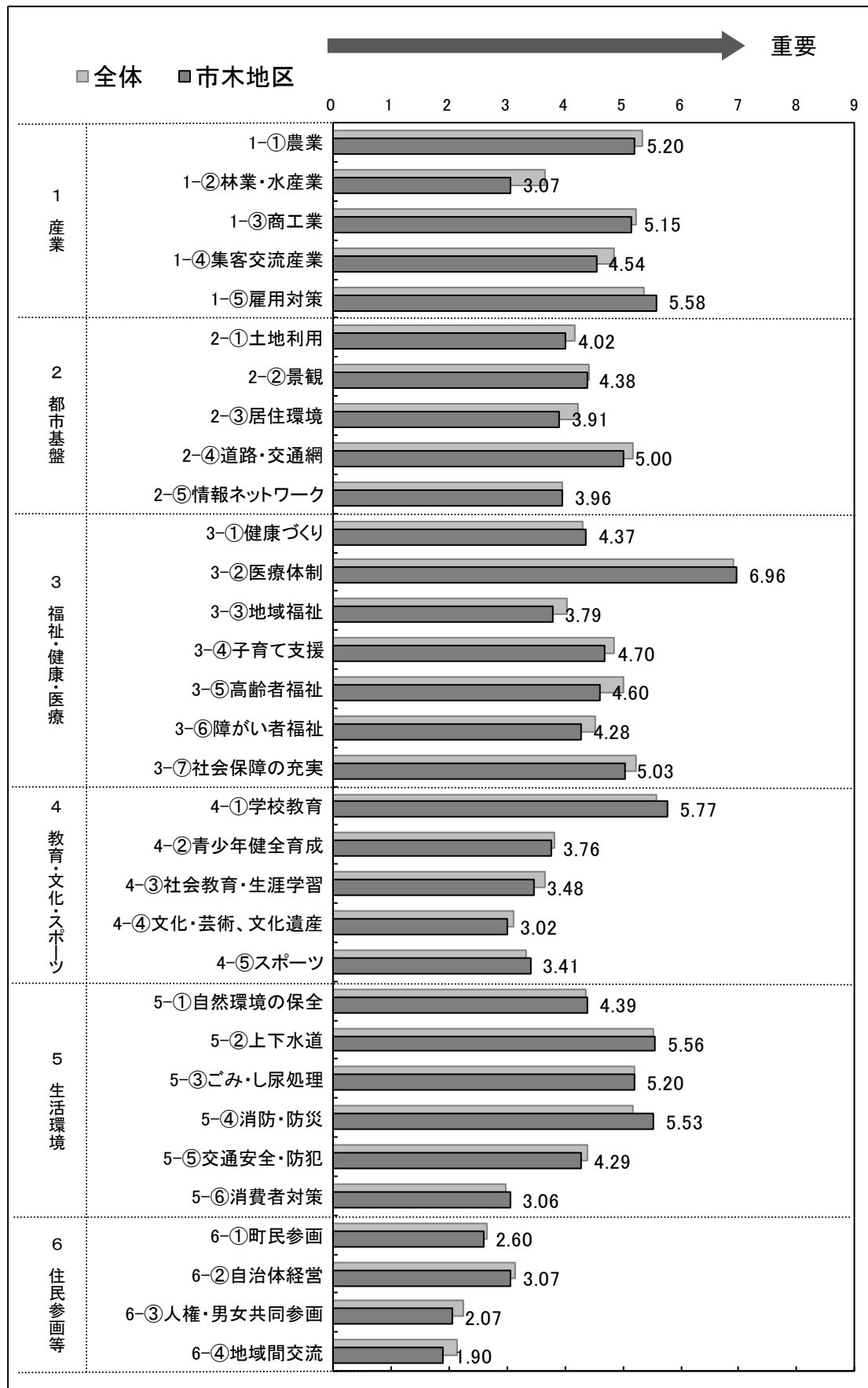
重要度（全体、尾呂志地区／評価点）



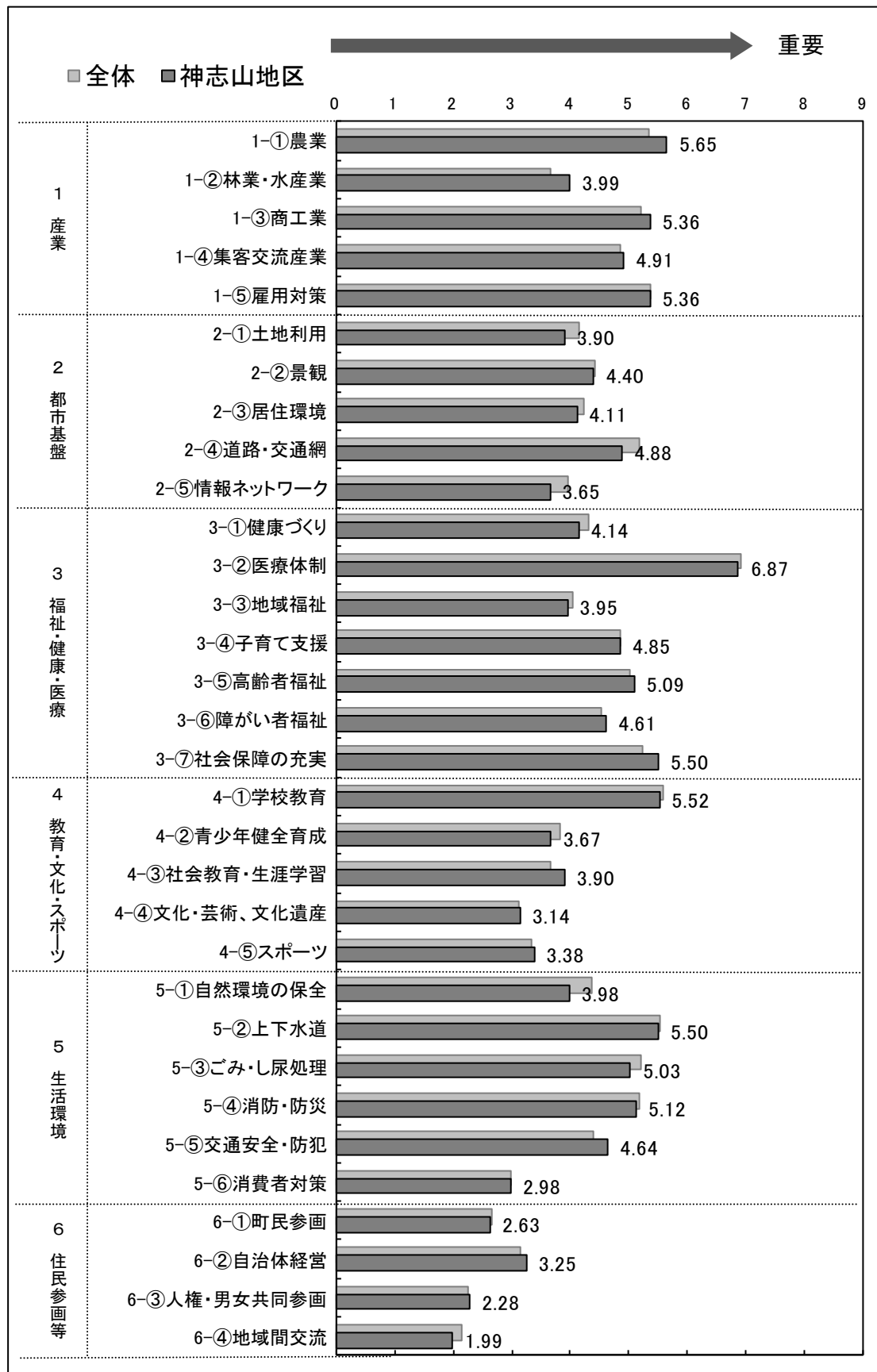
重要度（全体、阿田和地区／評価点）



重要度（全体、市木地区／評価点）



重要度（全体、神志山地区／評価点）



(3) 今後のまちづくりの特色について

問5 あなたは、今後のまちづくりにおいて、御浜町をどのような特色のあるまちにすべきだと思いますか。【複数回答】

■「健康・福祉のまち」が第1位。次いで「快適住環境のまち」、「子育て・教育のまち」、「農林業のまち」が続く。

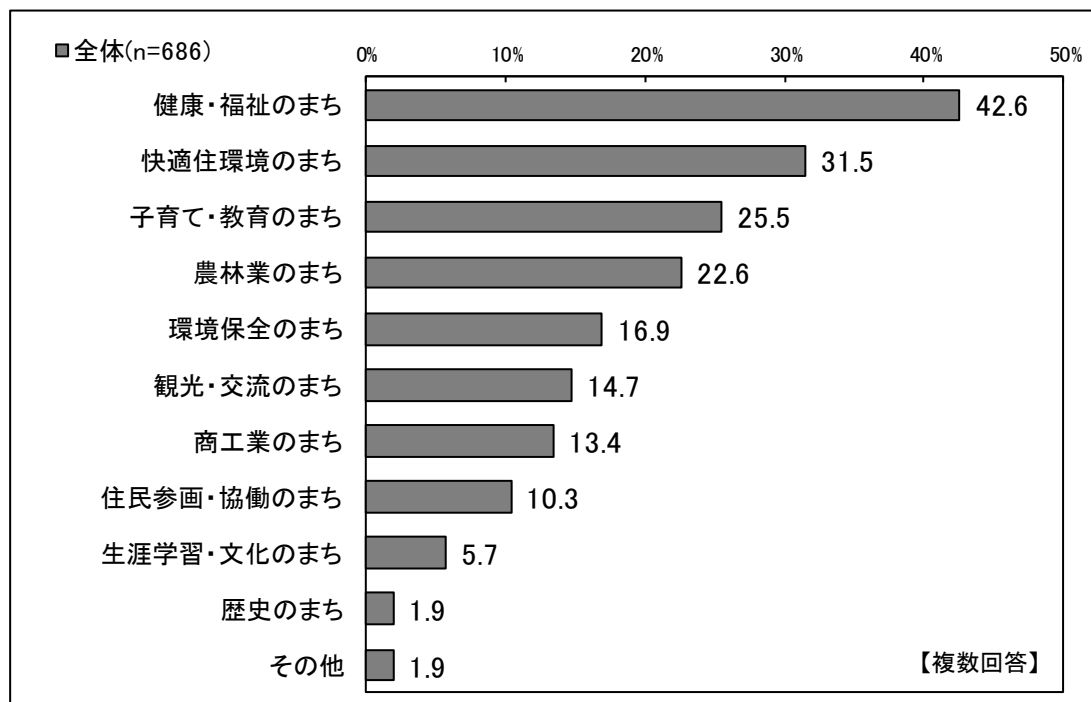
どのような特色のあるまちにすべきかをたずねたところ、「健康・福祉のまち」(42.6%)が第1位に挙げられ、次いで「快適住環境のまち」(31.5%)、「子育て・教育のまち」(25.5%)、「農林業のまち」(22.6%)などの順となっています。

性別でみると、男性・女性ともに「健康・福祉のまち」が第1位に挙げられています。

年齢別でみると、10-20代・30代では「子育て・教育のまち」、40代以上では「健康・福祉のまち」がそれぞれ第1位となっています。

居住地区別でみると、尾呂志地区では「快適住環境のまち」、阿田和地区・市木地区・神志山地区では「健康・福祉のまち」が第1位となっています。

今後のまちづくりの特色について（全体／複数回答）



今後のまちづくりの特色について（全体、性別、年齢別、居住地区別／複数回答）

		環境保全のまち	快適住環境のまち	健康・福祉のまち	子育て・教育のまち	生涯学習・文化のまち	歴史のまち	農林業のまち	商工業のまち	観光・交流のまち	住民参画・協働のまち	その他
(%)												
全体 (n=686)		16.9	31.5	42.6	25.5	5.7	1.9	22.6	13.4	14.7	10.3	1.9
性別	男性 (n=321)	17.8	29.9	34.3	25.9	4.7	2.5	28.3	13.7	16.2	10.9	2.5
	女性 (n=356)	16.0	33.4	50.8	25.6	6.2	1.4	17.1	13.2	13.8	10.1	0.8
年齢別	10-20代 (n=42)	11.9	31.0	40.5	42.9	9.5	2.4	11.9	14.3	9.5	4.8	0.0
	30代 (n=75)	9.3	22.7	26.7	49.3	5.3	1.3	24.0	21.3	18.7	4.0	2.7
	40代 (n=125)	13.6	28.0	40.0	35.2	8.0	0.0	20.0	14.4	17.6	4.8	3.2
	50代 (n=138)	18.8	37.0	44.9	18.1	5.8	2.2	22.5	9.4	11.6	13.0	3.6
	60代 (n=207)	18.8	35.7	46.4	17.4	4.8	2.9	24.6	13.5	14.5	11.6	1.0
	70歳以上 (n=98)	22.4	26.5	48.0	15.3	3.1	2.0	25.5	11.2	15.3	18.4	0.0
居住地区別	尾呂志地区 (n=54)	13.0	42.6	40.7	24.1	1.9	3.7	22.2	11.1	7.4	16.7	3.7
	阿田和地区 (n=232)	19.8	34.5	39.2	27.2	5.6	0.9	20.3	10.8	18.5	9.1	1.3
	市木地区 (n=209)	15.3	24.9	46.4	29.2	5.3	1.9	26.8	14.4	11.0	12.4	1.0
	神志山地区 (n=188)	16.5	31.9	43.6	19.7	7.4	2.7	21.3	15.4	16.5	8.0	3.2

3. 防災対策について

(1) 防災対策で必要なこと

問6 あなたは、町の防災対策について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

■「避難場所の整備充実と周知」が第1位。次いで「災害発生危険箇所の整備」、「災害時の情報連絡体制の充実」などの順。

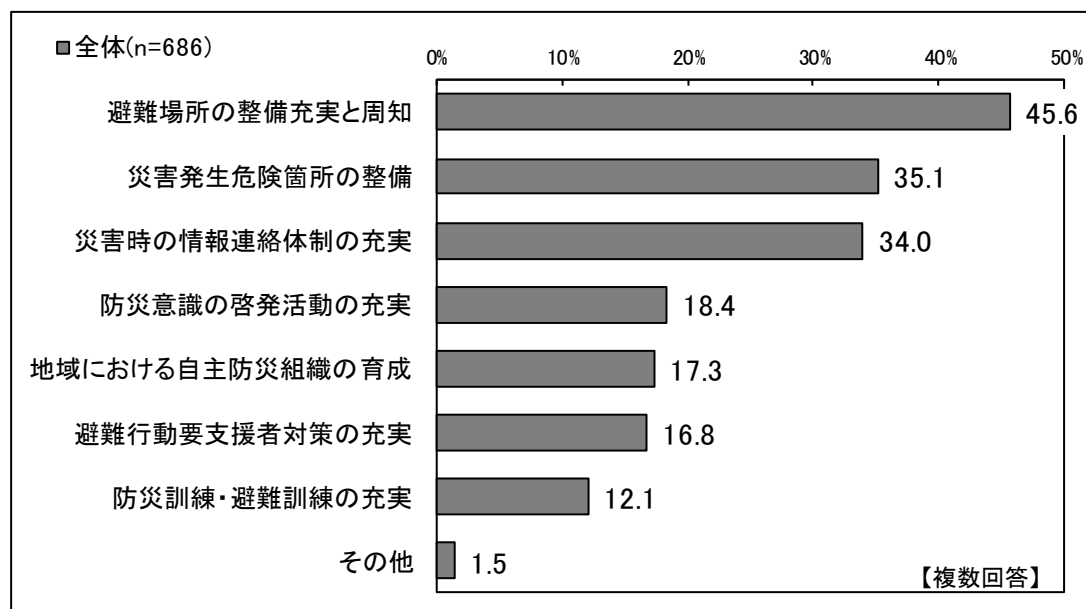
防災対策で必要なことについては、「避難場所の整備充実と周知」(45.6%)が第1位に挙げられ、次いで「災害発生危険箇所の整備」(35.1%)、「災害時の情報連絡体制の充実」(34.0%)が続きます。

性別でみると、男女ともに「避難場所の整備充実と周知」が第1位となっています。

年齢別でみると、ほとんどの層で「避難場所の整備充実と周知」が第1位となっています。また、60代では「災害時の情報連絡体制の充実」が第1位となっています。

居住地区別でみると、すべての地区で「避難場所の整備充実と周知」が第1位となっています。

防災対策で必要なこと（全体／複数回答）



防災対策で必要なこと（全体、性別、年齢別、居住地区別／複数回答）

		防災意識の啓発活動の充実	防災訓練・避難訓練の充実	地域における自主防災組織の育成	避難行動要支援者対策の充実	避難場所の整備充実と周知	災害時の情報連絡体制の充実	災害発生危険箇所の整備	その他
		(%)							
全体 (n=686)		18.4	12.1	17.3	16.8	45.6	34.0	35.1	1.5
性別	男性 (n=321)	21.2	12.8	18.7	15.6	43.3	31.8	35.2	1.9
	女性 (n=356)	16.0	11.8	15.7	18.0	47.8	36.0	35.1	1.1
年齢別	10-20代 (n=42)	26.2	19.0	14.3	11.9	50.0	26.2	23.8	0.0
	30代 (n=75)	22.7	8.0	16.0	14.7	54.7	34.7	32.0	1.3
	40代 (n=125)	12.0	8.8	13.6	17.6	51.2	35.2	36.8	2.4
	50代 (n=138)	15.9	11.6	16.7	15.2	52.9	29.0	41.3	2.2
	60代 (n=207)	20.3	15.0	17.4	16.4	38.6	39.6	35.3	1.0
	70歳以上 (n=98)	19.4	11.2	25.5	22.4	34.7	30.6	31.6	1.0
居住地区別	尾呂志地区 (n=54)	16.7	11.1	29.6	16.7	44.4	35.2	29.6	1.9
	阿田和地区 (n=232)	20.7	12.9	12.1	16.8	45.7	33.2	36.6	2.2
	市木地区 (n=209)	15.3	12.9	21.1	17.7	47.8	29.7	35.9	1.4
	神志山地区 (n=188)	19.7	10.6	16.0	16.0	43.1	39.4	34.6	0.5

(2) 災害への備えについて

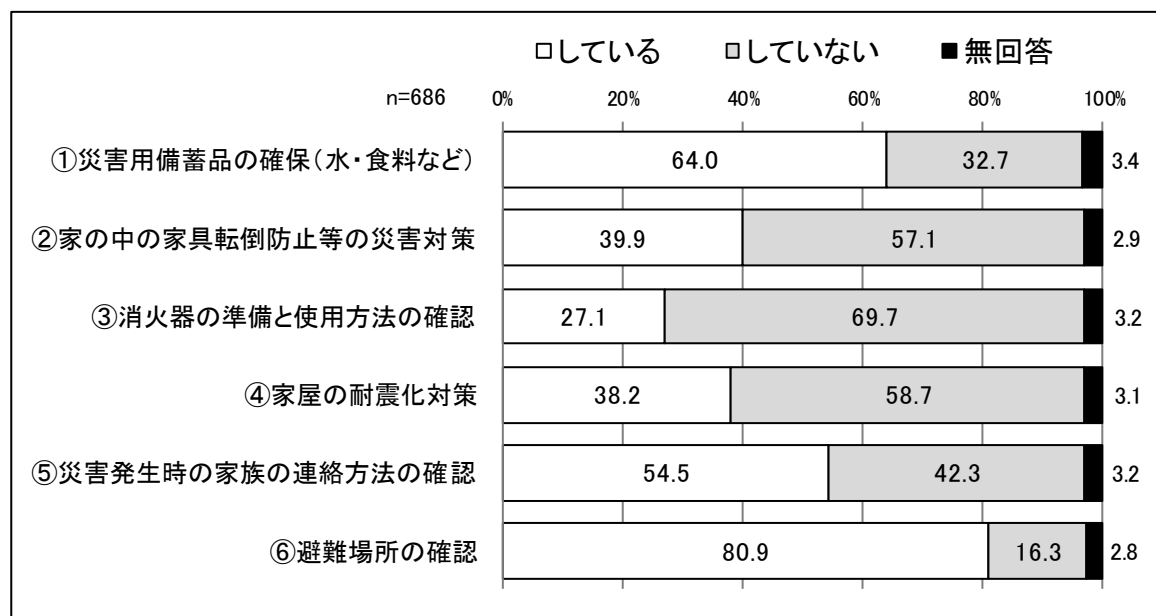
問7 あなたの家では、災害に備えて次のような対策をしていますか。

■『⑥避難場所の確認』を約8割が実践している一方、『③消火器の準備と使用方法の確認』は3割以下にとどまる。

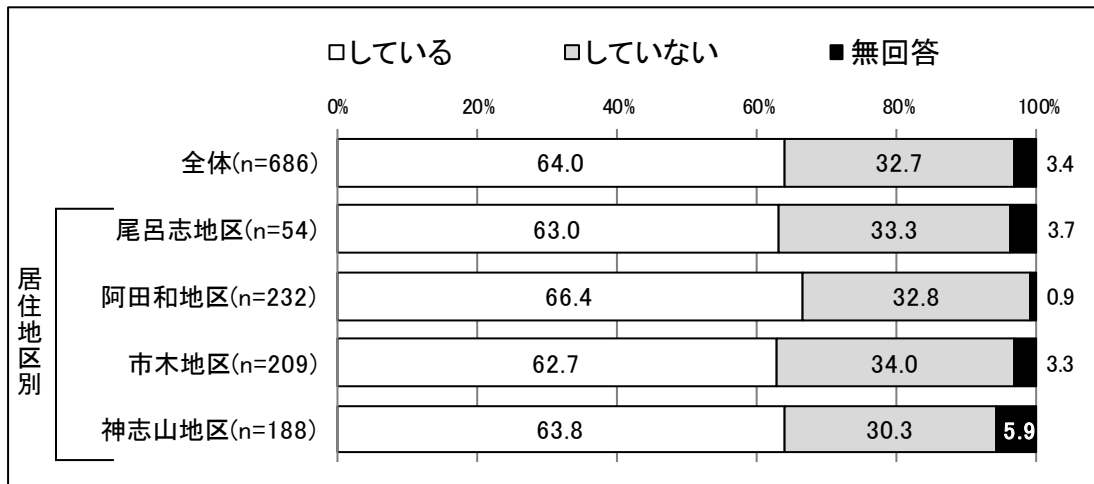
家庭での災害への備えについて6つの項目でその取り組み状況をたずねたところ、「している」割合が最も多い項目は、『⑥避難場所の確認』で80.9%と約8割が実践している結果となっています。次いで『①災害用備蓄品の確保(水・食料など)』(64.0%)、『⑤災害発生時の家族の連絡方法の確認』(54.5%)が続きます。一方、『②家の中の家具転倒防止対策』(39.9%)、『④家屋の耐震化』(38.2%)は4割弱、『③消火器の準備と使用方法の確認』(27.1%)は3割以下にとどまります。

また、6つの項目を居住地区別でみると、『③消火器の準備と使用方法の確認』以外の項目について尾呂志地区で「している」割合が低い傾向がみられます。

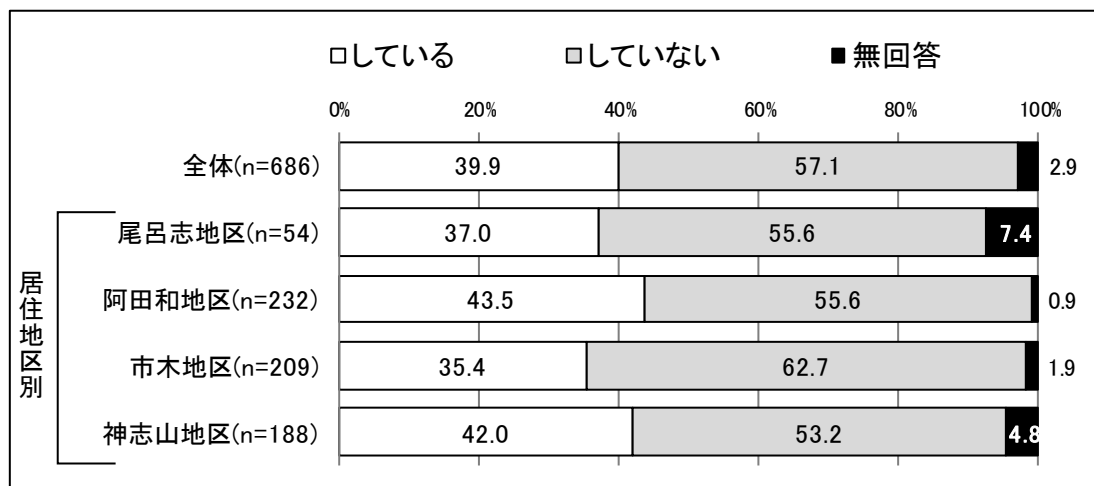
災害への備えについて（全体）



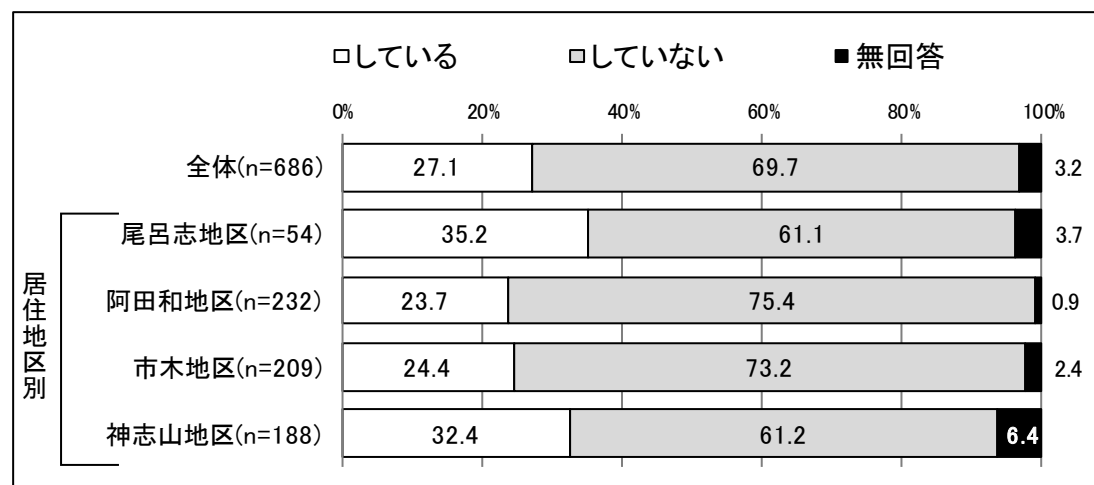
①災害用備蓄品の確保（全体、居住地地区別）



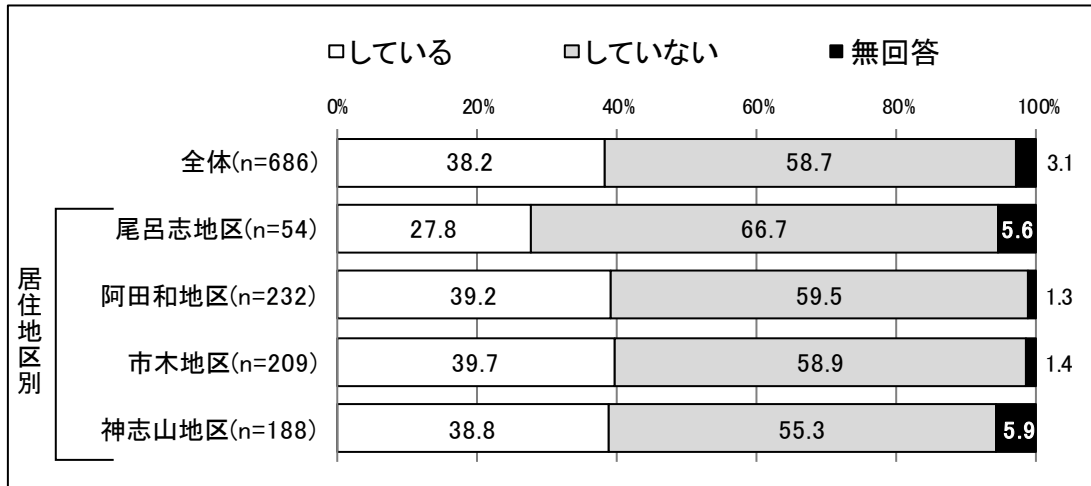
②家の中の家具転倒防止等の災害対策（全体、居住地地区別）



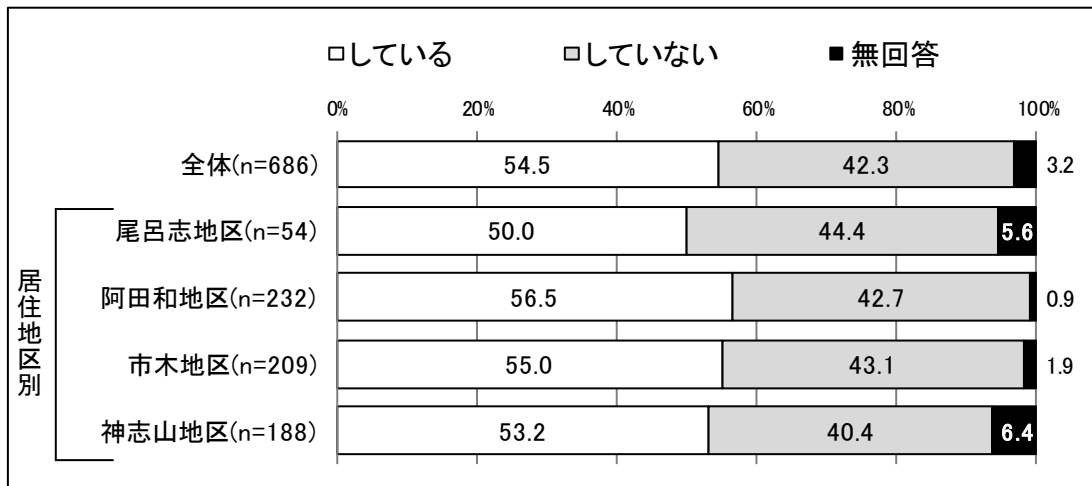
③消火器の準備と使用方法の確認（全体、居住地地区別）



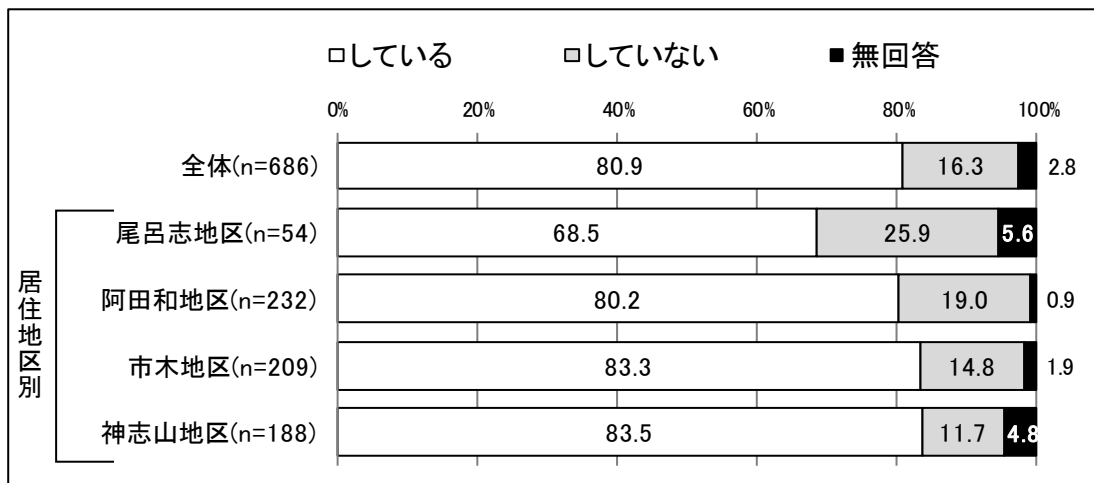
④家屋の耐震化対策（全体、居住地地区別）



⑤災害発生時の家族の連絡方法の確認（全体、居住地地区別）



⑥避難場所の確認（全体、居住地地区別）



4. 若者の定住対策について

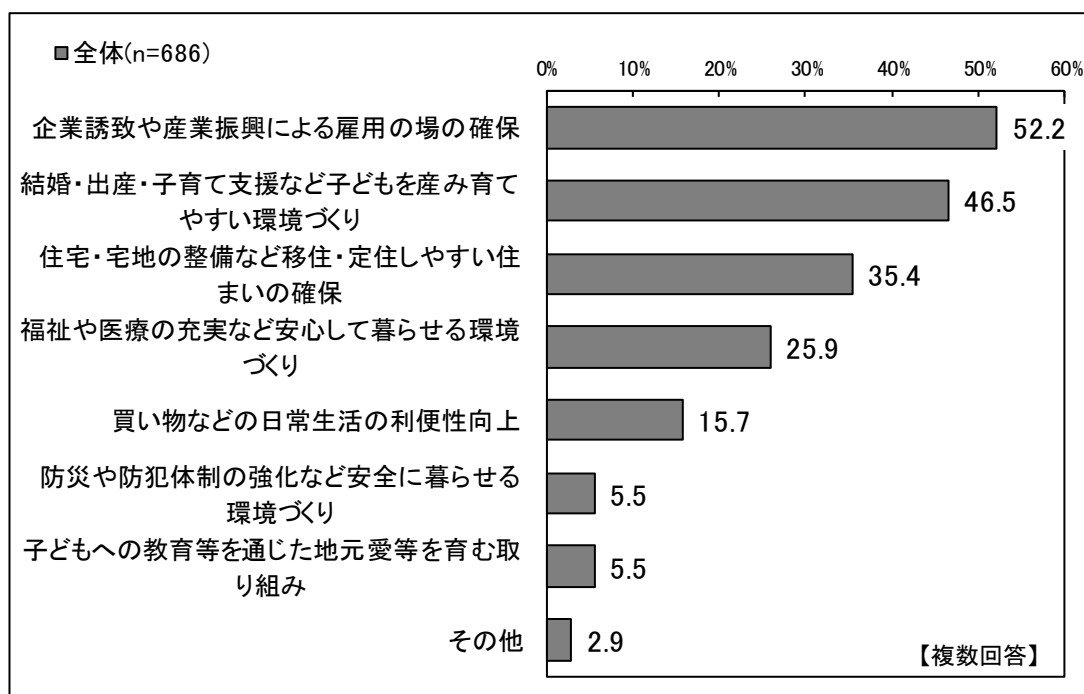
問8 あなたは、若者の定住対策として、今後どのような取り組みが重要だと思いますか。
【複数回答】

■「企業誘致や産業振興による雇用の場の確保」が第1位。次いで「結婚・出産・子育て支援など子どもを産み育てやすい環境づくり」が続く。

若者の定住対策で重要な取り組みをたずねたところ、「企業誘致や産業振興による雇用の場の確保」(52.2%)が第1位に挙げられ、次いで「結婚・出産・子育て支援など子どもを産み育てやすい環境づくり」(46.5%)が続き、以下、「住宅・宅地の整備など移住・定住しやすい住まいの確保」(35.4%)、「福祉や医療の充実など安心して暮らせる環境づくり」(25.9%)などの順となっています。

性別、年齢別、居住地区別でも、ほとんどの層で「企業誘致や産業振興による雇用の場の確保」及び「結婚・出産・子育て支援など子どもを産み育てやすい環境づくり」が上位を占めています。また、居住地区別の尾呂志地区では「住宅・宅地の整備など移住・定住しやすい住まいの確保」(50.0%)と回答する割合が多くなっています。

若者の定住対策について（全体／複数回答）



人口減少対策について（全体、性別、年齢別、居住地区別／複数回答）

		(%)	住宅・宅地の整備など移住・定住しやすい住まいの確保	結婚・出産・子育て支援など子どもを産み育てやすい環境づくり	福祉や医療の充実など安心して暮らせる環境づくり	企業誘致や産業振興による雇用の場の確保	買い物などの日常生活の利便性向上	防災や防犯体制の強化など安全に暮らせる環境づくり	子どもへの教育等を通じた地元愛等を育む取り組み	その他
全体 (n=686)			35.4	46.5	25.9	52.2	15.7	5.5	5.5	2.9
性別	男性 (n=321)	39.6	45.5	21.8	55.1	14.0	4.0	6.9	3.4	
	女性 (n=356)	32.0	48.3	29.8	49.4	17.1	6.7	4.2	2.5	
年齢別	10-20代 (n=42)	26.2	59.5	28.6	47.6	23.8	4.8	0.0	0.0	
	30代 (n=75)	33.3	61.3	21.3	38.7	24.0	4.0	6.7	5.3	
	40代 (n=125)	26.4	50.4	29.6	43.2	24.0	4.8	7.2	4.0	
	50代 (n=138)	39.1	39.1	26.1	56.5	13.8	5.8	4.3	5.1	
	60代 (n=207)	41.1	43.0	23.2	60.9	9.7	5.3	5.8	1.4	
	70歳以上 (n=98)	35.7	42.9	29.6	52.0	11.2	8.2	6.1	1.0	
居住地区別	尾呂志地区 (n=54)	50.0	38.9	18.5	59.3	14.8	1.9	5.6	3.7	
	阿田和地区 (n=232)	39.7	46.6	28.4	47.8	11.6	6.9	6.0	2.6	
	市木地区 (n=209)	32.5	46.4	25.4	55.0	16.7	6.2	6.7	2.4	
	神志山地区 (n=188)	29.3	49.5	26.1	52.1	20.2	4.3	3.7	3.2	

5. 教育について

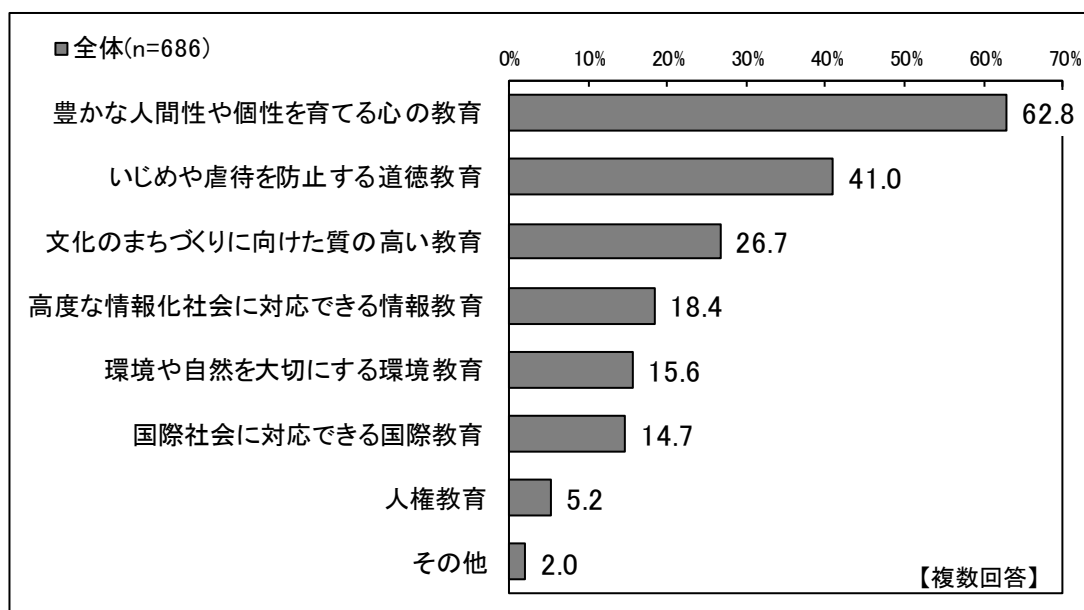
問9 あなたは、学校教育において、どのような取り組みが重要だと思いますか。【複数回答】

■「豊かな人間性や個性を育てる心の教育」が第1位。次いで「いじめや虐待を防止する道徳教育」が続く。

学校教育で重要な取り組みをたずねたところ、「豊かな人間性や個性を育てる心の教育」(62.8%)が第1位に挙げられ、次いで「いじめや虐待を防止する道徳教育」(41.0%)が続き、以下、「文化のまちづくりに向けた質の高い教育」(26.7%)、「高度な情報化社会に対応できる情報教育」(18.4%)などの順となっています。

性別、年齢別、居住地区別でも、すべての層で「豊かな人間性や個性を育てる心の教育」が第1位となっています。また、30代では「国際社会に対応できる国際教育」(24.0%)と回答する割合が比較的多くなっています。

教育について（全体／複数回答）



教育について（全体、性別、年齢別、居住地区別／複数回答）

		育豊かな人間性や個性を育てる心の教育	文化のまちづくりに向けた質の高い教育	いじめや虐待を防止する道德教育	環境や自然を大切にす環境教育	高度な情報化社会に対応できる情報教育	国際社会に対応できる国際教育	人権教育	その他
		(%)							
全体 (n=686)		62.8	26.7	41.0	15.6	18.4	14.7	5.2	2.0
性別	男性 (n=321)	59.2	28.7	35.5	16.8	23.1	14.6	6.9	2.2
	女性 (n=356)	66.6	25.0	46.1	14.3	14.6	14.9	3.4	1.7
年齢別	10-20代 (n=42)	61.9	28.6	45.2	11.9	21.4	14.3	4.8	4.8
	30代 (n=75)	58.7	26.7	42.7	10.7	21.3	24.0	8.0	1.3
	40代 (n=125)	60.0	36.8	39.2	9.6	16.8	16.0	5.6	1.6
	50代 (n=138)	60.1	29.0	35.5	15.2	18.8	18.1	5.1	2.9
	60代 (n=207)	66.2	21.3	44.0	19.3	19.3	10.1	5.8	1.0
	70歳以上 (n=98)	67.3	21.4	41.8	21.4	14.3	11.2	2.0	3.1
居住地区別	尾呂志地区 (n=54)	64.8	29.6	27.8	16.7	22.2	14.8	0.0	5.6
	阿田和地区 (n=232)	62.5	27.2	43.1	16.8	19.0	13.8	4.3	1.7
	市木地区 (n=209)	61.7	32.5	44.5	13.4	15.8	13.9	6.7	1.9
	神志山地区 (n=188)	64.4	19.1	38.3	16.5	19.1	16.5	6.4	1.6

6. 高齢者福祉について

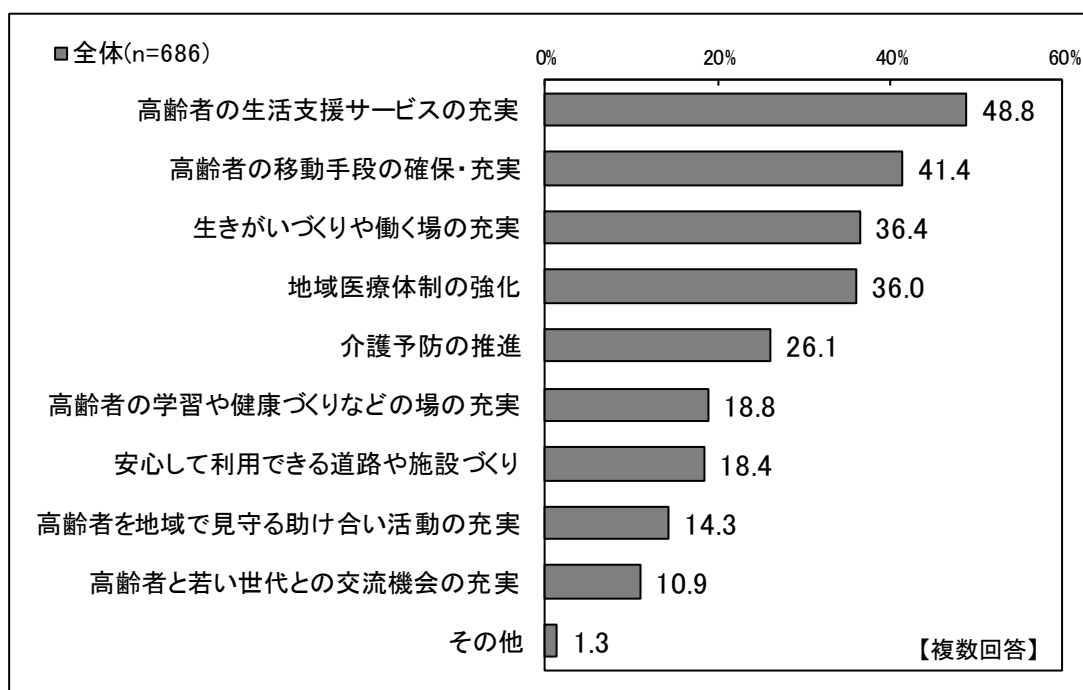
問10 あなたは、高齢社会に対応するためどのような取り組みが重要だと思いますか。
【複数回答】

■「高齢者の生活支援サービスの充実」が第1位。次いで「高齢者の移動手段の確保・充実」が続く。

高齢社会への対応について重要な取り組みをたずねたところ、「高齢者の生活支援サービスの充実」（48.8％）が第1位に挙げられ、次いで「高齢者の移動手段の確保・充実」（41.4％）が続き、以下、「生きがいつくりや働く場の充実」（36.4％）、「地域医療体制の強化」（36.0％）などの順となっています。

性別、年齢別、居住地区別でも、ほとんどの層で「高齢者の生活支援サービスの充実」及び「高齢者の移動手段の確保・充実」が上位に挙げられ、年齢別の60代・70歳以上では「高齢者の生活支援サービスの充実」が第1位となっています。

高齢者福祉について（全体／複数回答）



高齢者福祉について（全体、性別、年齢別、居住地区別／複数回答）

		(%)	生きがいづくりや働く場の充実	安心して利用できる道路や施設づくり	高齢者と若い世代との交流機会の充実	高齢者の学習や健康づくりなどの場の充実	介護予防の推進	地域医療体制の強化	高齢者の移動手段の確保・充実	高齢者の生活支援サービスの充実	高齢者を地域で見守る助け合い活動の充実	その他
全体 (n=686)			36.4	18.4	10.9	18.8	26.1	36.0	41.4	48.8	14.3	1.3
性別	男性 (n=321)		38.0	17.1	11.8	17.1	28.3	34.6	39.3	47.7	14.0	0.9
	女性 (n=356)		35.4	19.4	9.8	20.5	24.2	37.4	43.3	50.3	14.9	1.1
年齢別	10-20代 (n=42)		45.2	26.2	21.4	16.7	33.3	21.4	40.5	28.6	11.9	0.0
	30代 (n=75)		42.7	18.7	17.3	8.0	24.0	34.7	42.7	38.7	14.7	2.7
	40代 (n=125)		36.0	17.6	10.4	20.0	24.8	36.8	48.0	40.8	11.2	2.4
	50代 (n=138)		37.7	13.0	8.7	15.2	19.6	37.7	50.0	50.0	10.9	2.2
	60代 (n=207)		34.8	23.7	7.7	22.7	29.0	40.1	33.8	56.5	15.5	0.5
	70歳以上 (n=98)		30.6	12.2	12.2	23.5	29.6	31.6	36.7	58.2	21.4	0.0
居住地区別	尾呂志地区 (n=54)		33.3	9.3	5.6	22.2	27.8	33.3	37.0	66.7	20.4	3.7
	阿田和地区 (n=232)		38.8	23.7	9.5	17.2	29.7	36.6	38.8	47.8	13.8	0.4
	市木地区 (n=209)		37.8	16.7	12.4	17.7	25.8	34.4	41.1	48.8	16.3	1.4
	神志山地区 (n=188)		33.5	16.5	12.8	21.3	21.8	37.2	45.7	45.2	11.2	1.6

7. 観光振興について

問11 観光の活性化のために、どのような取り組みが必要だと思いますか。【複数回答】

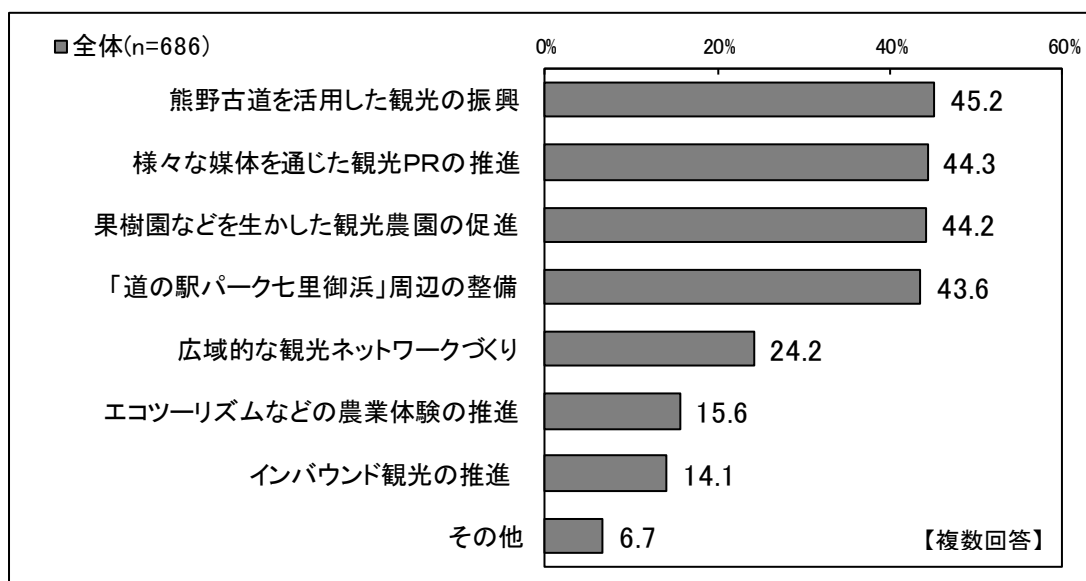
■「熊野古道を活用した観光の振興」、「様々な媒体を通じた観光PRの推進」、「果樹園などを生かした観光農園の促進」、「道の駅パーク七里御浜周辺の整備」が僅差で上位を占める。

観光の活性化のために必要な取り組みをたずねたところ、「熊野古道を活用した観光の振興」(45.2%)、「様々な媒体を通じた観光PRの推進」(44.3%)、「果樹園などを生かした観光農園の促進」(44.2%)、「道の駅パーク七里御浜周辺の整備」(43.6%)が僅差で上位を占め、熊野古道や果樹など町の誇る地域資源の活用と観光PRの充実が上位を占めています。

産業分類別でみると、第1次産業では「果樹園などを生かした観光農園の促進」(61.7%)、第2次産業では「道の駅パーク七里御浜周辺の整備」(57.1%)、第3次産業では「様々な媒体を通じた観光PRの推進」(46.2%)がそれぞれ第1位となっています。

居住地区別でみると、尾呂志地区・神志山地区では「様々な媒体を通じた観光PRの推進」(48.1%・47.3%)、阿田和地区では「道の駅パーク七里御浜周辺の整備」(54.7%)、(75.0%)、市木地区では「果樹園などを生かした観光農園の促進」(50.7%)がそれぞれ第1位となっています。

観光振興について（全体／複数回答）



観光振興について（全体、性別、年齢別、産業分類別、居住地区別／複数回答）

		(%)	備 「道の駅 パーク七里御浜」 周辺の整	熊野 古道を活用した観光の振興	様々な媒体を通じた観光PRの推進	イン バウンド観光の推進	進 エコ ツーリズムなどの農業体験の推	進 果樹園などを生かした観光農園の促	広域的な観光ネットワークづくり	その他
全体 (n=686)			43.6	45.2	44.3	14.1	15.6	44.2	24.2	6.7
性別	男性 (n=321)		42.7	47.0	44.9	17.1	14.3	40.5	23.1	8.1
	女性 (n=356)		44.4	44.1	43.5	11.0	16.9	47.8	25.3	5.3
年齢別	10-20代 (n=42)		52.4	57.1	57.1	11.9	14.3	38.1	16.7	0.0
	30代 (n=75)		49.3	38.7	52.0	24.0	12.0	44.0	20.0	10.7
	40代 (n=125)		46.4	41.6	39.2	17.6	13.6	36.8	25.6	14.4
	50代 (n=138)		44.9	39.9	47.8	9.4	21.7	39.9	23.2	8.0
	60代 (n=207)		42.5	51.2	42.0	12.1	13.0	50.2	30.0	2.4
	70歳以上 (n=98)		32.7	44.9	39.8	14.3	18.4	50.0	18.4	4.1
産業分類別	第1次産業 (n=81)		29.6	46.9	39.5	11.1	22.2	61.7	21.0	7.4
	第2次産業 (n=56)		57.1	50.0	35.7	17.9	3.6	46.4	26.8	8.9
	第3次産業 (n=208)		43.8	42.3	46.2	14.9	18.3	40.4	22.6	10.1
	その他 (n=337)		44.8	45.7	45.7	13.9	14.5	42.1	25.2	4.2
居住地区別	尾呂志地区 (n=54)		33.3	37.0	48.1	14.8	25.9	38.9	20.4	7.4
	阿田和地区 (n=232)		54.7	48.3	42.2	15.9	11.2	40.5	24.6	6.9
	市木地区 (n=209)		41.1	48.3	43.1	12.4	15.8	50.7	23.0	5.7
	神志山地区 (n=188)		35.6	39.9	47.3	13.8	18.1	43.1	26.6	6.9

8. コミュニティ活動、住民参画について

(1) 地域活動等への参加状況と参加意向

問12 あなたの現在のコミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。

- 現在、『参加している』は 22.9%。
- 今後、『参加したい』は 49.1%。

地域活動・ボランティア活動への参加状況、今後の意向をたずねたところ、現在、『参加している』（「現在参加しており、今後も参加したい」19.5%及び「現在参加しているが、今後は参加するつもりはない」3.4%の合計）は 22.9%となっています。

これに対し、今後、『参加したい』（「現在参加しており、今後も参加したい」19.5%及び「現在参加していないが、今後は参加したい」29.6%の合計）は 49.1%と、現在、『参加している』の2倍以上となっています。

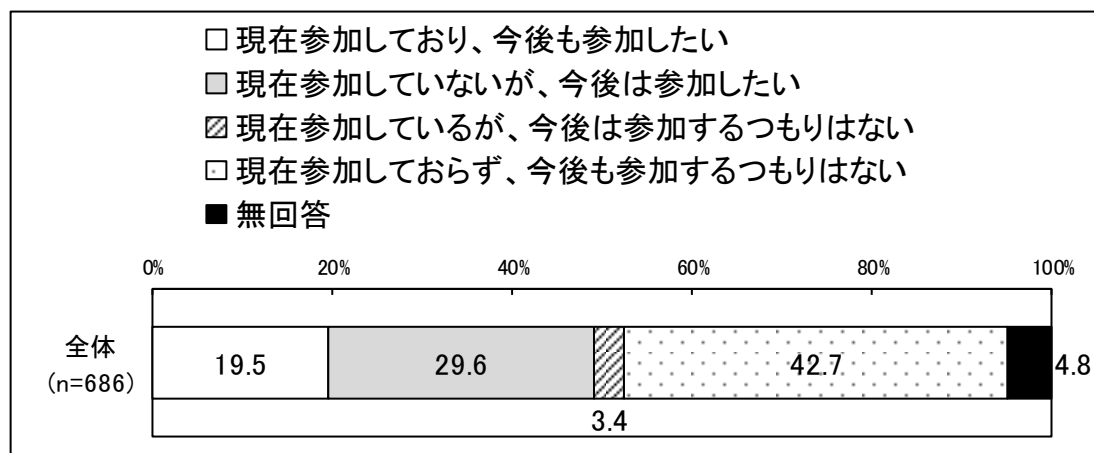
性別で『参加したい』と回答した割合をみると、男性で 52.4%と女性の 46.9%を上回ります。

年齢別で『参加したい』と回答した割合をみると、60代で 55.1%と最も多く、次いで 50代（52.9%）、70歳以上代（45.9%）、40代（45.6%）、30代（42.6%）と続き、10-20代（38.1%）で最も少なくなっています。

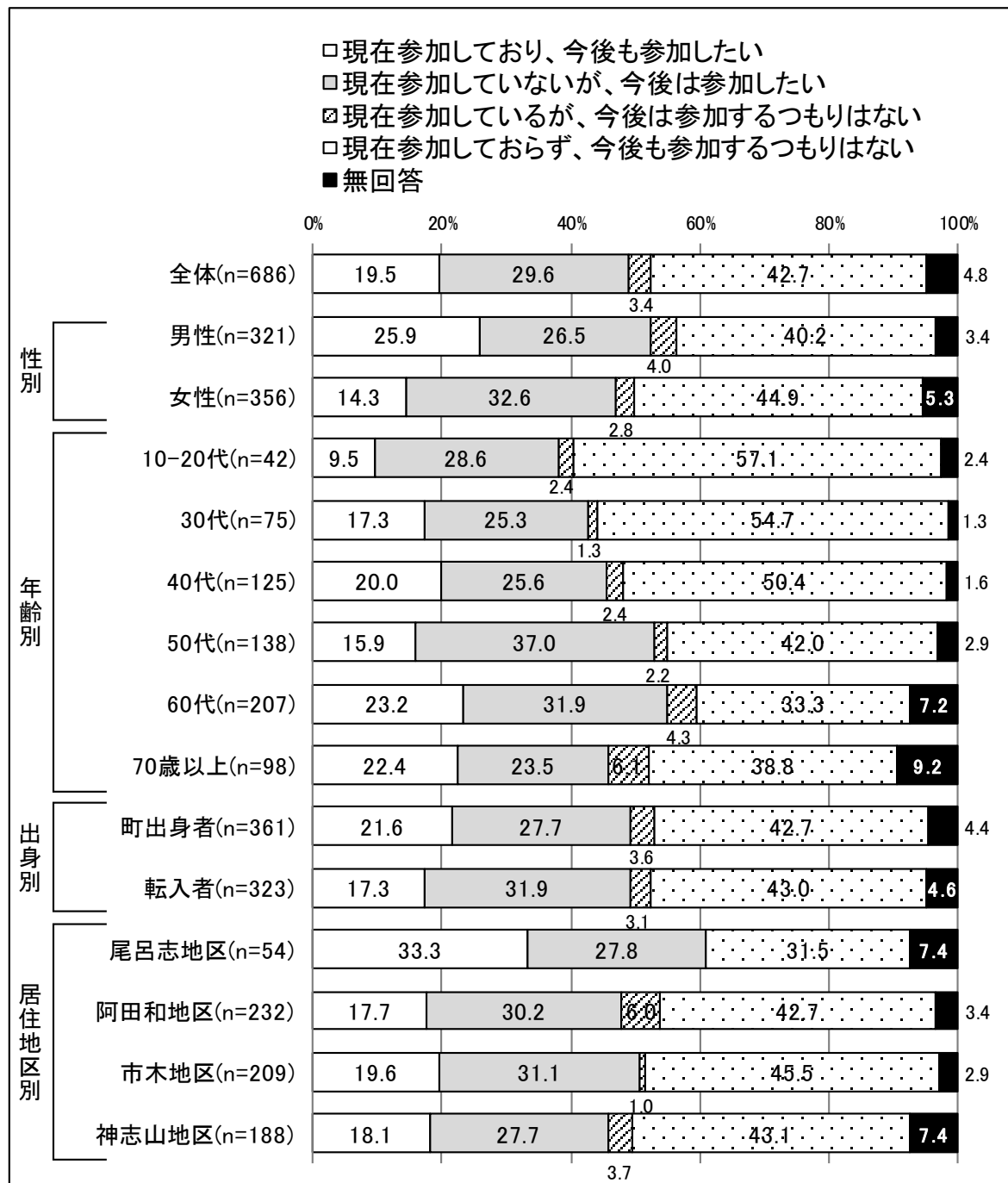
出身別で『参加したい』と回答した割合をみると、町出身者（49.3%）と転入者（49.2%）がほぼ同率となっています。

居住地区別で『参加したい』と回答した割合をみると、尾呂志地区で 61.1%と最も多く、次いで市木地区（50.7%）、阿田和地区（47.9%）、神志山地区（45.8%）となっています。

地域活動等への参加状況と参加意向（全体）



地域活動等への参加状況と参加意向（全体、性別、年齢別、出身別、居住地区別）



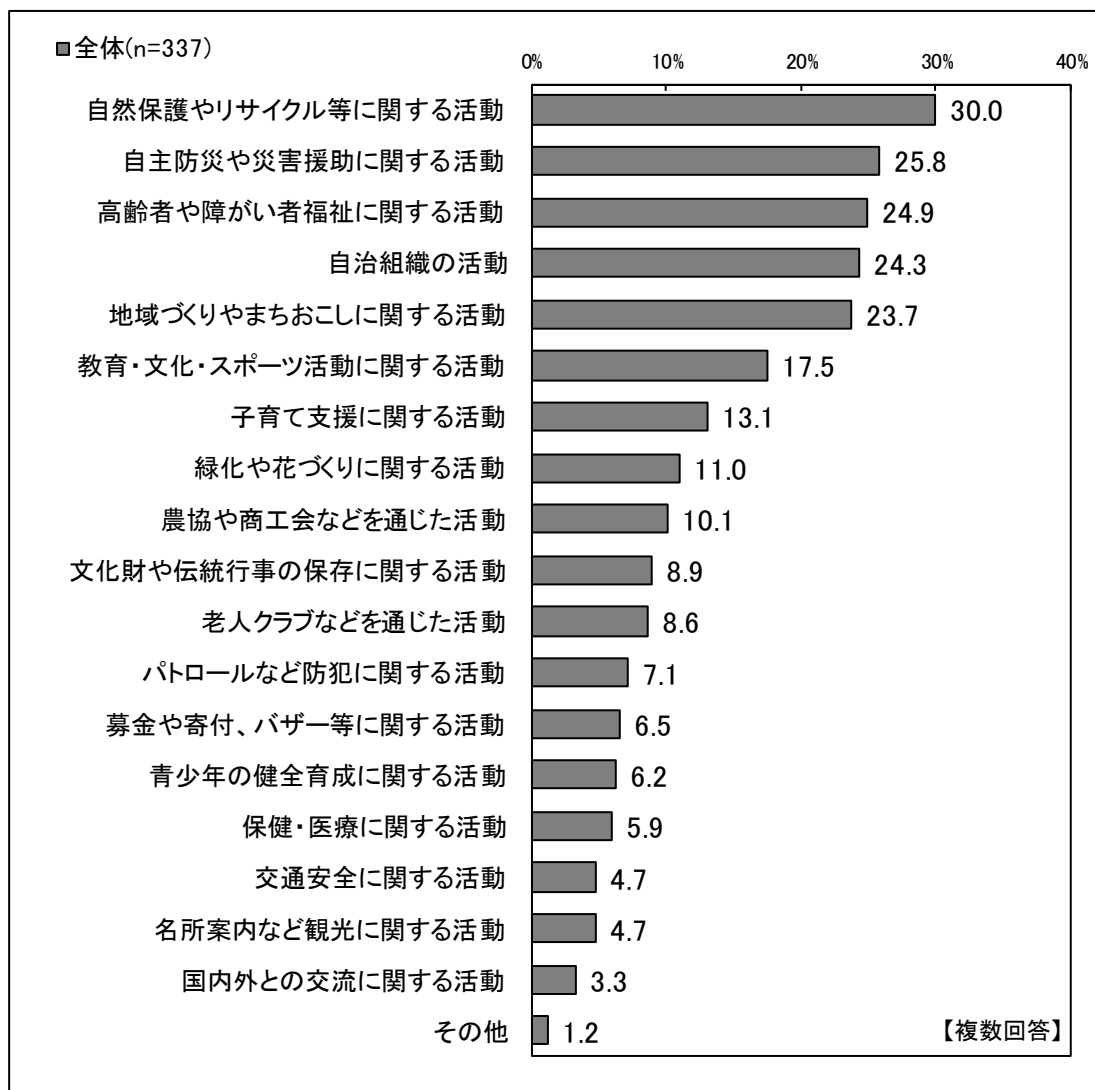
(2) 参加したい地域活動

問12付問① あなたは、今後（今後とも）どのようなコミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動に参加したいと思いますか。（問12で『参加したい』と回答した人のみ）
【複数回答】

■「自然保護やリサイクル等に関する活動」が第1位。次いで「自主防災や災害援助に関する活動」、「高齢者や障がい者福祉に関する活動」などの順。

問12で『参加したい』と回答した人（全体の41.9%、337人）に、参加したい活動をたずねたところ、「自然保護やリサイクル等に関する活動」（30.0%）が第1位に挙げられ、次いで「自主防災や災害援助に関する活動」（25.8%）、「高齢者や障がい者福祉に関する活動」（24.9%）、「自治組織の活動」（24.3%）、「地域づくりやまちおこしに関する活動」（23.7%）などの順となっています。

参加したい地域活動（全体／複数回答、『参加したい』と回答した人のみ）



参加したい地域活動

(全体、性別、年齢別、出身別、居住地区別／複数回答、『参加したい』と回答した人のみ)

		自治 組 織 の 活 動	ど農 を 協 通 じ た 商 工 活 動 な	を老 人 ク ラ ブ な ど	るイ ク ル 等 に 関 り す	自然 保 護 に 関 り す	に緑 化 や 花 づ く り	動援 自 主 に 関 災 や 災 害	る交 通 安 全 に 関 す	動防 犯 に 関 す る 活 動	パト ロ ー ル な ど	する 保 健 ・ 医 療 に 関	する 子 育 て 支 援 に 関
	(%)												
	全体 (n=337)	24.3	10.1	8.6	30.0	11.0	25.8	4.7	7.1	5.9	13.1		
性別	男性 (n=168)	32.1	11.9	3.0	33.3	3.6	34.5	6.0	11.3	4.8	6.0		
	女性 (n=167)	16.8	8.4	14.4	26.3	18.6	17.4	3.0	2.4	7.2	20.4		
年齢別	10-20代 (n=16)	6.3	12.5	6.3	31.3	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	25.0		
	30代 (n=32)	18.8	12.5	3.1	40.6	3.1	15.6	0.0	6.3	6.3	25.0		
	40代 (n=57)	29.8	19.3	3.5	24.6	5.3	26.3	10.5	8.8	3.5	15.8		
	50代 (n=73)	20.5	9.6	5.5	21.9	8.2	31.5	2.7	6.8	8.2	13.7		
	60代 (n=114)	27.2	7.0	10.5	31.6	20.2	28.1	4.4	8.8	5.3	8.8		
	70歳以上 (n=45)	26.7	4.4	20.0	37.8	8.9	24.4	6.7	4.4	6.7	6.7		
出身別	町出身者 (n=178)	32.6	12.4	5.6	32.0	9.6	25.8	3.4	7.9	6.2	10.1		
	転入者 (n=159)	15.1	7.5	11.9	27.7	12.6	25.8	6.3	6.3	5.7	16.4		
居住地区別	尾呂志地区 (n=33)	45.5	9.1	6.1	12.1	9.1	33.3	0.0	6.1	15.2	6.1		
	阿田和地区 (n=111)	24.3	8.1	7.2	32.4	9.9	18.9	3.6	9.9	4.5	14.4		
	市木地区 (n=106)	18.9	10.4	8.5	32.1	12.3	27.4	6.6	6.6	5.7	14.2		
	神志山地区 (n=86)	23.3	12.8	11.6	31.4	11.6	30.2	5.8	4.7	4.7	12.8		

		活 動 高 齢 者 に 関 す る い	す ポ ー ツ ・ 文 化 に 関 ス	成 育 に 関 す る 健 全 活 動	る事 活 動 の 保 存 に 関 す る	文 化 財 や 伝 統 的 な 活 動	に国 内 外 と の 交 流	光 名 所 に 関 す る 活 動	活 動 に 関 す る バ	募 金 や 寄 附 に 関 す る バ	るち お こ し に 関 す る 活 動	地 域 づ く り に 関 す る 活 動	そ の 他
	(%)												
	全体 (n=337)	24.9	17.5	6.2	8.9	3.3	4.7	6.5	23.7	1.2			
性別	男性 (n=168)	19.6	23.8	7.7	8.9	4.8	5.4	2.4	26.8	2.4			
	女性 (n=167)	30.5	11.4	4.8	9.0	1.8	3.6	10.8	21.0	0.0			
年齢別	10-20代 (n=16)	18.8	37.5	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	50.0	0.0			
	30代 (n=32)	18.8	18.8	0.0	12.5	6.3	3.1	9.4	25.0	0.0			
	40代 (n=57)	19.3	24.6	10.5	5.3	1.8	3.5	14.0	12.3	1.8			
	50代 (n=73)	35.6	17.8	5.5	5.5	4.1	4.1	5.5	24.7	1.4			
	60代 (n=114)	23.7	14.0	7.0	12.3	2.6	8.8	2.6	28.1	0.9			
	70歳以上 (n=45)	24.4	8.9	4.4	11.1	4.4	0.0	6.7	15.6	2.2			
出身別	町出身者 (n=178)	24.2	14.0	7.3	9.0	4.5	3.9	5.6	30.9	0.6			
	転入者 (n=159)	25.8	21.4	5.0	8.8	1.9	5.7	7.5	15.7	1.9			
居住地区別	尾呂志地区 (n=33)	36.4	18.2	9.1	9.1	15.2	3.0	3.0	27.3	0.0			
	阿田和地区 (n=111)	29.7	18.0	6.3	10.8	1.8	6.3	8.1	26.1	1.8			
	市木地区 (n=106)	18.9	17.0	4.7	4.7	2.8	6.6	5.7	23.6	0.9			
	神志山地区 (n=86)	22.1	17.4	5.8	11.6	1.2	0.0	7.0	18.6	1.2			

(3) コミュニティ活動等に参加しない理由

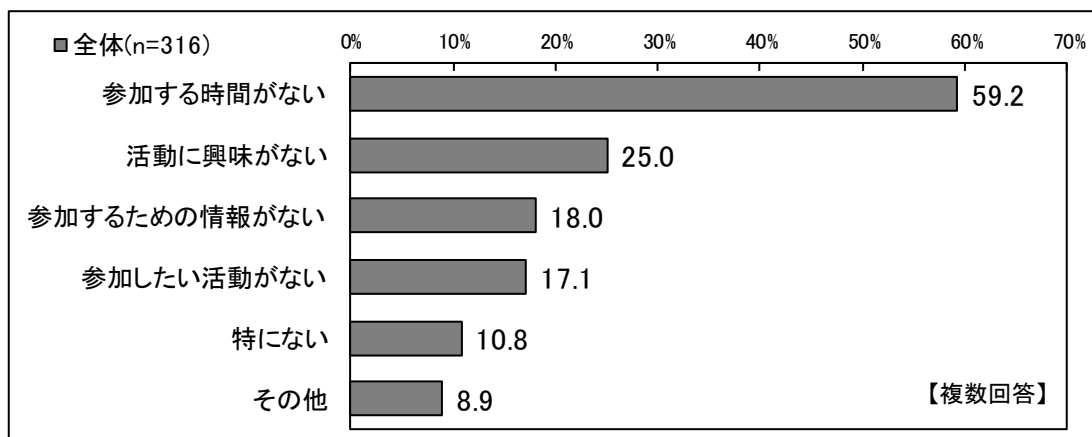
問12付問② コミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動に参加しない理由はどのようなことですか。（問12で『参加しない』と回答した人のみ）【複数回答】

■「参加する時間がない」が他を大きく引き離して第1位。

問12で『参加しない』と回答した人（全体の46.1%、316人）に、参加しない理由をたずねたところ、「参加する時間がない」（59.2%）が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「活動に興味がない」（25.0%）、「参加するための情報がない」（18.0%）などの順となっています。

性別、年齢別、出身別、居住地区別でみても、すべての層で「参加する時間がない」が第1位となっています。

コミュニティ活動等に参加しない理由
（全体／複数回答、『参加しない』と回答した人のみ）



コミュニティ活動等に参加しない理由

(全体、性別、年齢別、出身別、居住地区別／複数回答、『参加しない』と回答した人のみ)

		活動に興味がない	参加する時間がない	参加するための情報がない	参加したい活動がない	その他	特にない
		(%)					
全体 (n=316)		25.0	59.2	18.0	17.1	8.9	10.8
性別	男性 (n=142)	26.1	62.0	19.7	18.3	7.0	9.9
	女性 (n=170)	24.7	57.1	16.5	16.5	10.6	10.6
年齢別	10-20代 (n=25)	28.0	76.0	12.0	24.0	4.0	12.0
	30代 (n=42)	28.6	73.8	26.2	11.9	2.4	4.8
	40代 (n=66)	18.2	72.7	18.2	15.2	4.5	9.1
	50代 (n=61)	19.7	60.7	19.7	16.4	16.4	8.2
	60代 (n=78)	32.1	46.2	19.2	21.8	7.7	12.8
	70歳以上 (n=44)	25.0	36.4	9.1	13.6	15.9	18.2
出身別	町出身者 (n=167)	26.9	58.7	16.8	20.4	7.8	8.4
	転入者 (n=149)	22.8	59.7	19.5	13.4	10.1	13.4
居住地区別	尾呂志地区 (n=17)	23.5	70.6	11.8	11.8	5.9	11.8
	阿田和地区 (n=113)	19.5	58.4	17.7	16.8	8.8	12.4
	市木地区 (n=97)	29.9	64.9	19.6	20.6	7.2	6.2
	神志山地区 (n=88)	27.3	52.3	18.2	14.8	10.2	13.6

(4) 町民参画・協働のために必要なこと

問13 これからのまちづくりにおいては、より多くの町民の皆さまが町政に参画し、行政と協力して課題解決や地域づくりを行う「町民参画・協働のまちづくり」が重要なテーマとなります。あなたは、この「町民参画・協働のまちづくり」を進めるために今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

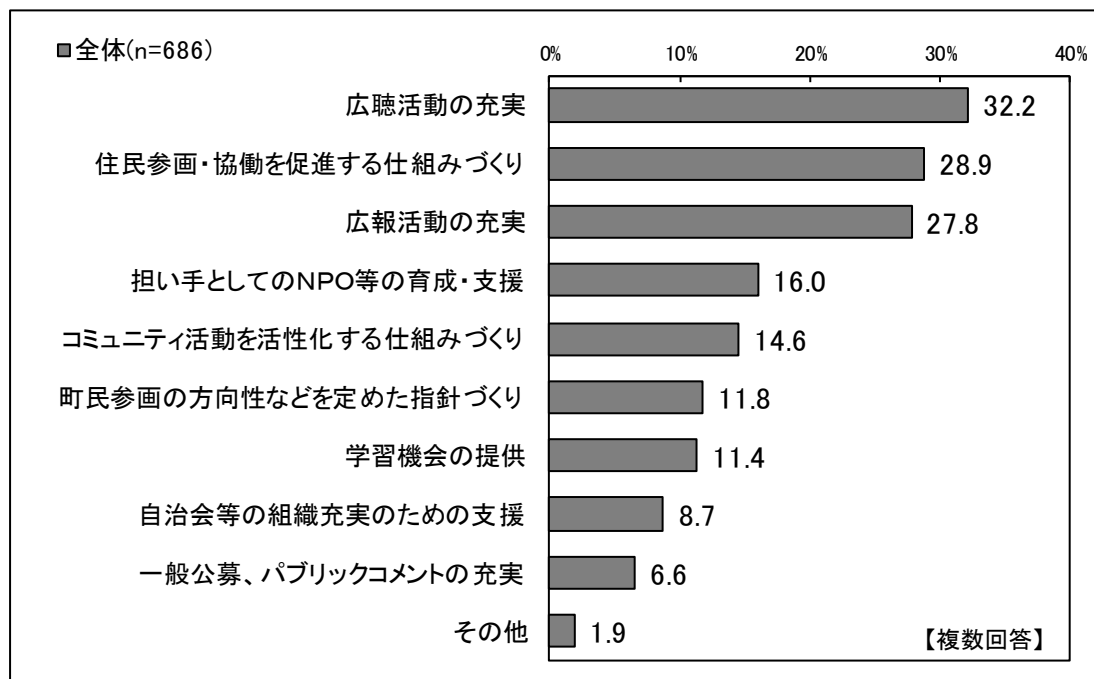


■「広聴活動の充実」が第1位。次いで「住民参画・協働を促進する仕組みづくり」、「広報活動の充実」などの順。

住民参画・協働のために必要なことについては、「広聴活動の充実」(32.2%)が第1位に挙げられ、次いで「住民参画・協働を促進する仕組みづくり」(28.9%)、「広報活動の充実」(27.8%)などの順となっています。

性別、年齢別、出身別、居住地区別でも、ほとんどの層で「広聴活動の充実」、「住民参画・協働を促進する仕組みづくり」及び「広報活動の充実」が上位に挙げられています。

町民参画・協働のために必要なこと（全体／複数回答）



町民参画・協働のために必要なこと（全体、性別、年齢別、出身別、居住地区別／複数回答）

		広報活動の充実	広聴活動の充実	学習機会の提供	コミュニティ活動を活性化する仕組みづくり	町民参画の方向性などを定めた指針づくり	一般公募、パブリックコメントの充実	住民参画・協働を促進する仕組みづくり	担い手としてのNPO等の育成・支援	自治会等の組織充実のための支援	その他
		（％）									
全体 (n=686)		27.8	32.2	11.4	14.6	11.8	6.6	28.9	16.0	8.7	1.9
性別	男性 (n=321)	29.9	34.0	8.1	12.1	17.8	8.7	29.9	13.7	10.6	2.5
	女性 (n=356)	26.7	31.2	14.6	17.1	6.7	4.8	27.5	17.7	7.0	1.4
年齢別	10-20代 (n=42)	26.2	33.3	16.7	26.2	7.1	0.0	31.0	14.3	7.1	0.0
	30代 (n=75)	28.0	34.7	10.7	8.0	14.7	13.3	33.3	21.3	4.0	2.7
	40代 (n=125)	27.2	28.8	10.4	16.0	7.2	8.0	37.6	20.0	5.6	3.2
	50代 (n=138)	21.0	29.0	10.9	21.7	12.3	5.8	30.4	16.7	7.2	3.6
	60代 (n=207)	32.9	33.3	11.1	12.1	13.5	6.8	26.6	12.6	9.2	1.0
	70歳以上 (n=98)	28.6	36.7	12.2	8.2	13.3	3.1	16.3	14.3	18.4	0.0
出身別	町出身者 (n=361)	29.4	32.7	11.4	13.9	13.3	6.4	31.0	15.8	10.2	1.4
	転入者 (n=323)	26.3	31.9	11.5	15.5	10.2	6.8	26.6	16.4	7.1	2.5
居住地区別	尾呂志地区 (n=54)	29.6	40.7	9.3	13.0	16.7	3.7	20.4	18.5	1.9	1.9
	阿田和地区 (n=232)	28.4	35.8	11.2	18.1	11.6	4.7	28.0	12.9	8.6	2.6
	市木地区 (n=209)	26.3	31.6	12.0	13.9	10.0	6.7	32.1	16.7	11.0	2.4
	神志山地区 (n=188)	28.7	26.1	11.7	11.7	12.2	9.0	29.3	18.1	8.5	0.5

9. 日頃の行動について

(1) 生涯学習活動について

問14① あなたは、この1年間に、町の講座や教室等を利用した生涯学習活動をしましたか。

■町の講座や教室等を利用した生涯学習活動を「した」が14.0%。

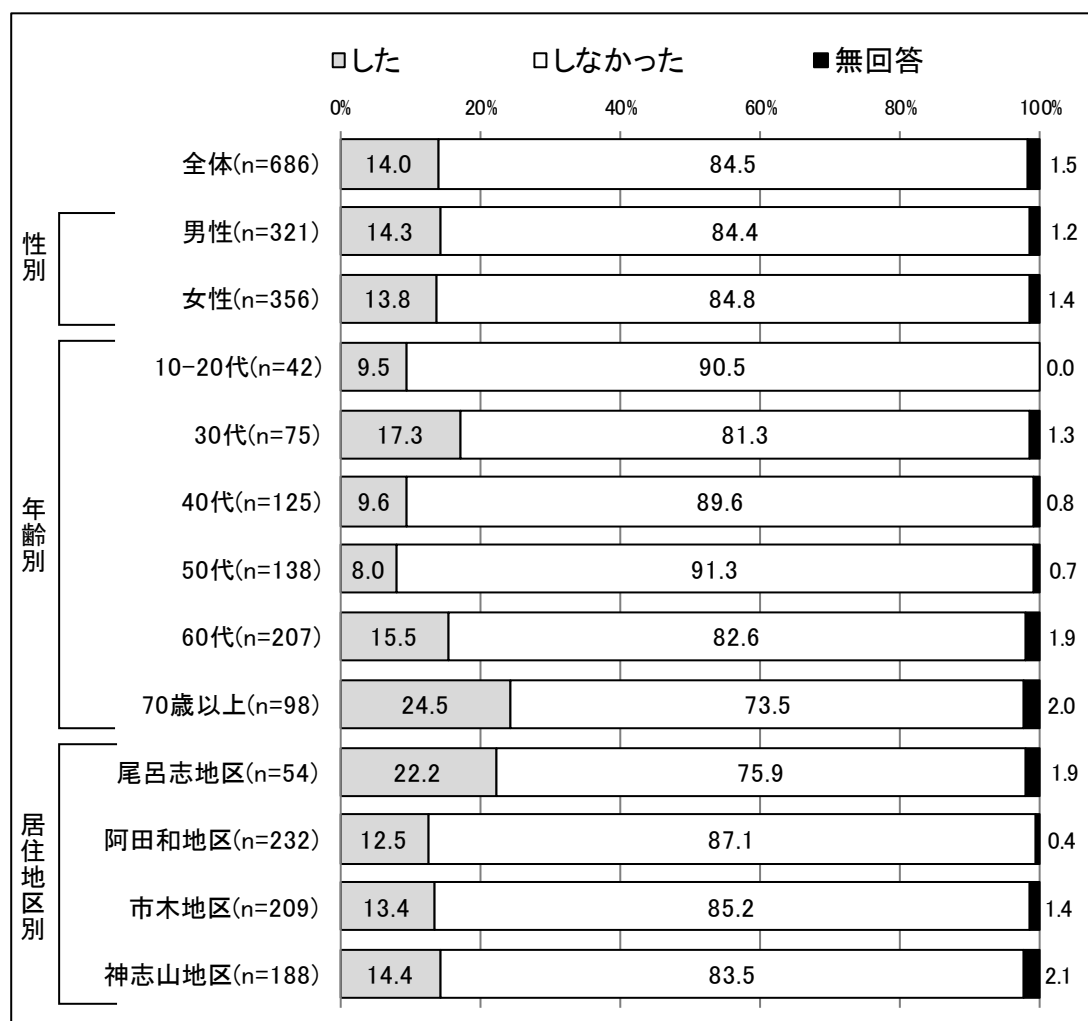
町の講座や教室等を利用した生涯学習活動への参加については、「した」が14.0%となっています。

性別で「した」と回答した割合をみると、男性（14.3%）と女性（13.8%）でほぼ同率となっています。

年齢別で「した」と回答した割合をみると、70歳以上で24.5%と最も多く、次いで30代の17.3%が続きます。

居住地区別で「した」と回答した割合をみると、尾呂志地区（22.2%）で比較的多くなっています。

生涯学習活動について（全体、性別、年齢別、居住地区別）



(2) スポーツ活動について

問14② あなたは、週1回以上、スポーツ活動をしていますか。



■週1回以上、スポーツ活動を「している」が26.4%。

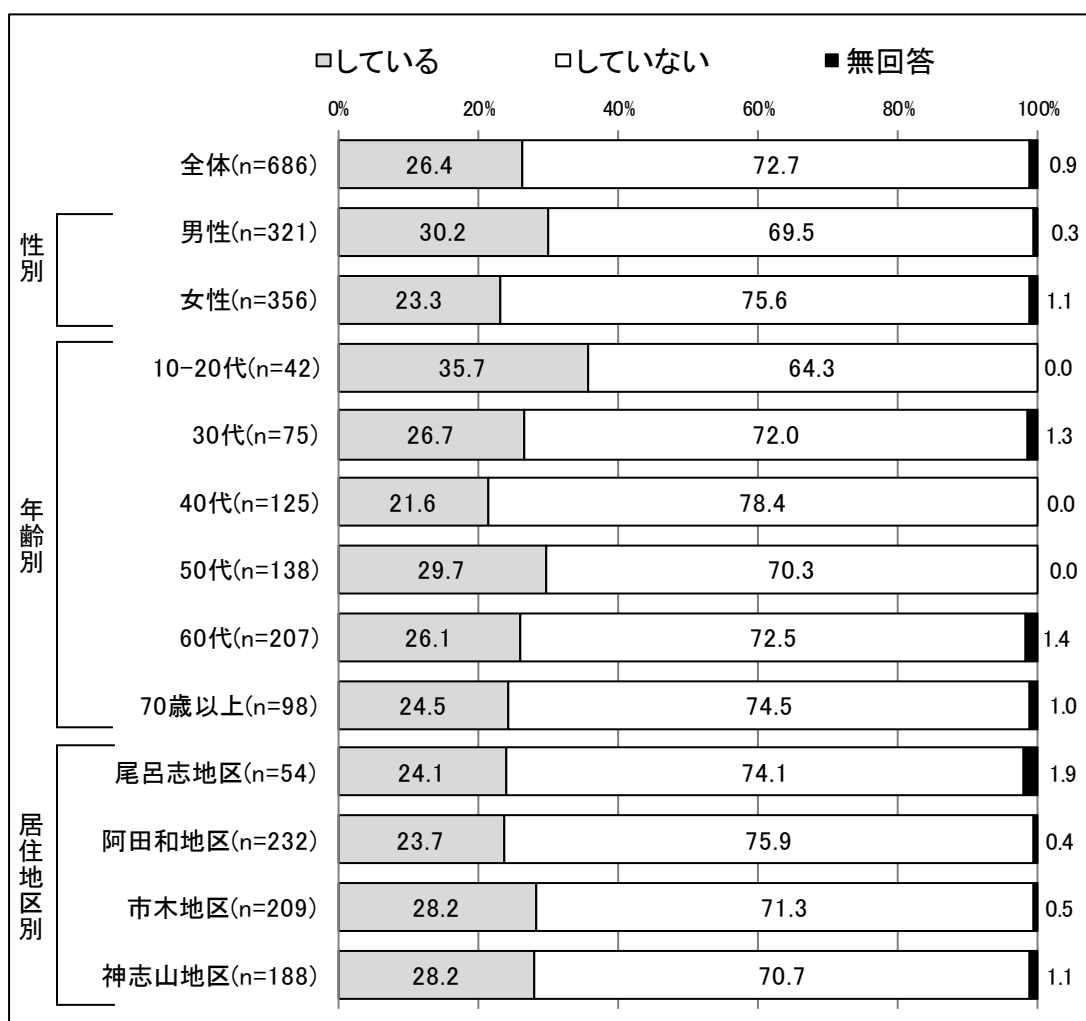
週1回以上のスポーツ活動をしているかについては、「している」が26.4%となっています。

性別で「している」と回答した割合をみると、男性で30.2%と女性の23.3%を上回ります。

年齢別で「している」と回答した割合をみると、10-20代で35.7%と最も多く、次いで50代(29.7%)、30代(26.7%)が続きます。

居住地区別で「している」と回答した割合をみると、市木地区及び神志山地区で28.2%(同率)となっており、尾呂志地区(24.1%)、阿田和地区(23.7%)は比較的低くなっています。

スポーツ活動について（全体、性別、年齢別、居住地区別）



(3) 健康増進について

問14③ あなたは、日常、健康増進のための取り組み（食生活の改善や運動など）をしていますか。

■健康増進のための取り組みを「している」が58.9%。

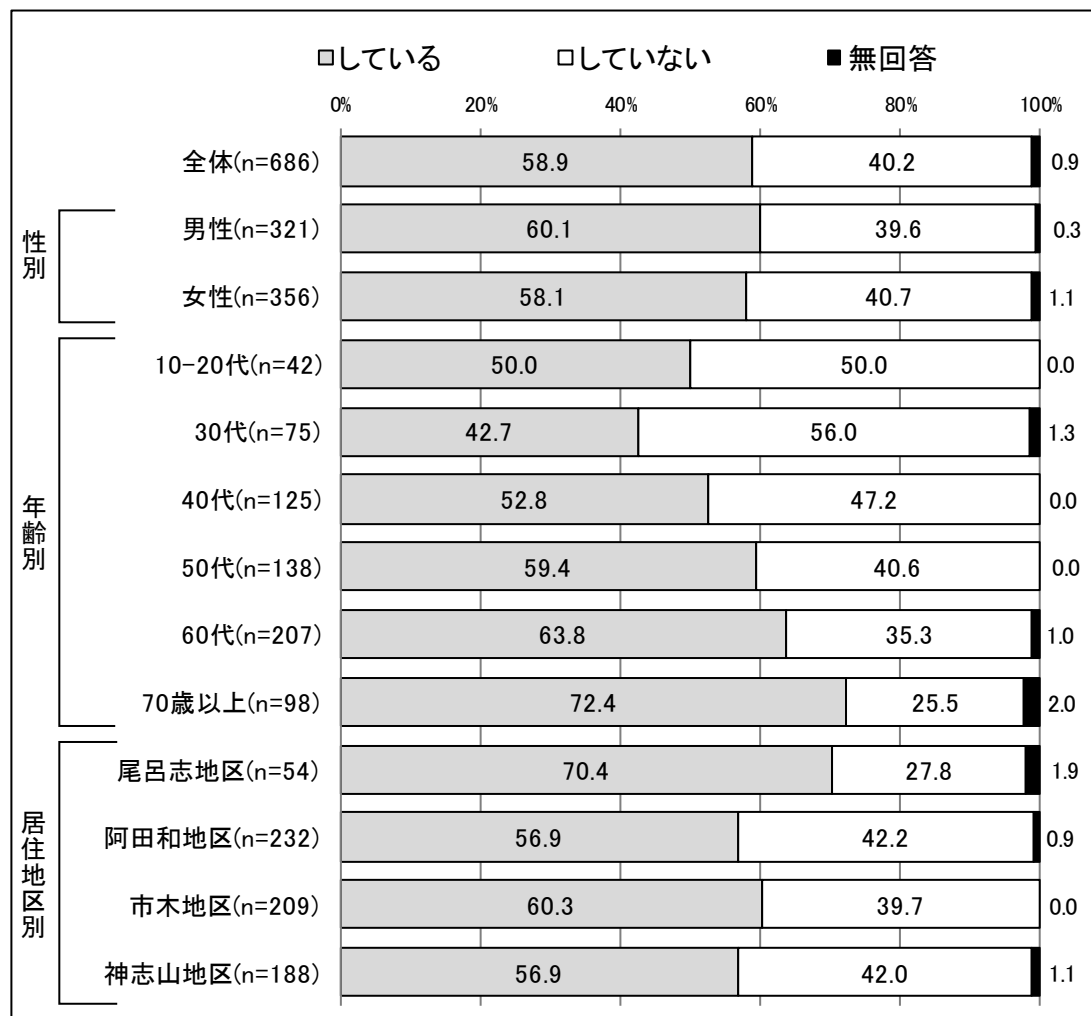
健康増進のための取り組みについて、「している」が58.9%となっています。

性別で「している」と回答した割合をみると、男性で60.1%、女性で58.1%と大きな差はみられません。

年齢別で「している」と回答した割合をみると、おおむね年齢が上がるにつれて増加し、70歳以上で72.4%と7割を超えます。

居住地区別で「している」と回答した割合をみると、神志山地区で59.4%、阿田和地区で56.7%と、大きな差はみられません。

健康増進について（全体、性別、年齢別、居住地区別）



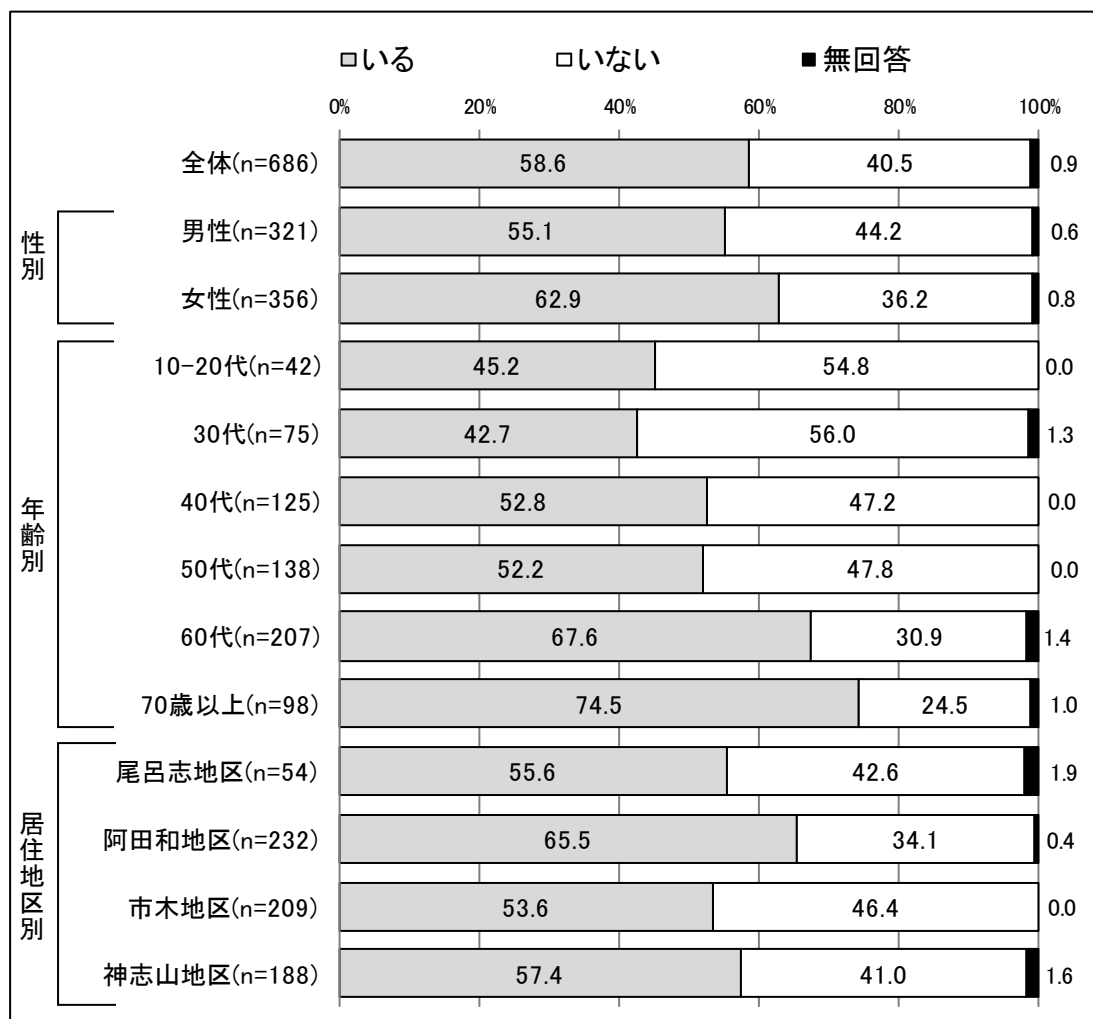
(4) かかりつけ医について

問14④ あなたには、日常の健康管理や病気のことなど、気軽に相談できるかかりつけ医がいますか。

■かかりつけ医が「いる」が58.6%。

かかりつけ医の有無については、「いる」が58.6%と約6割となっています。
性別で「いる」と回答した割合をみると、女性で62.9%と男性の55.1%を上回ります。
年齢別で「いる」と回答した割合をみると、おおむね年齢が上がるにつれて増加し、70歳以上で74.5%と7割を超えます。
居住地区別で「いる」と回答した割合をみると、阿田和地区で65.5%と最も多く、一木地区で53.6%と最も低くなっています。

かかりつけ医について（全体、性別、年齢別、居住地区別）



（５）地域福祉活動について

問14⑤ あなたは、この１年間に、身近な地域での見守り、支え合いなど、地域福祉活動に参加しましたか。



■地域福祉活動に参加「した」が19.0%。

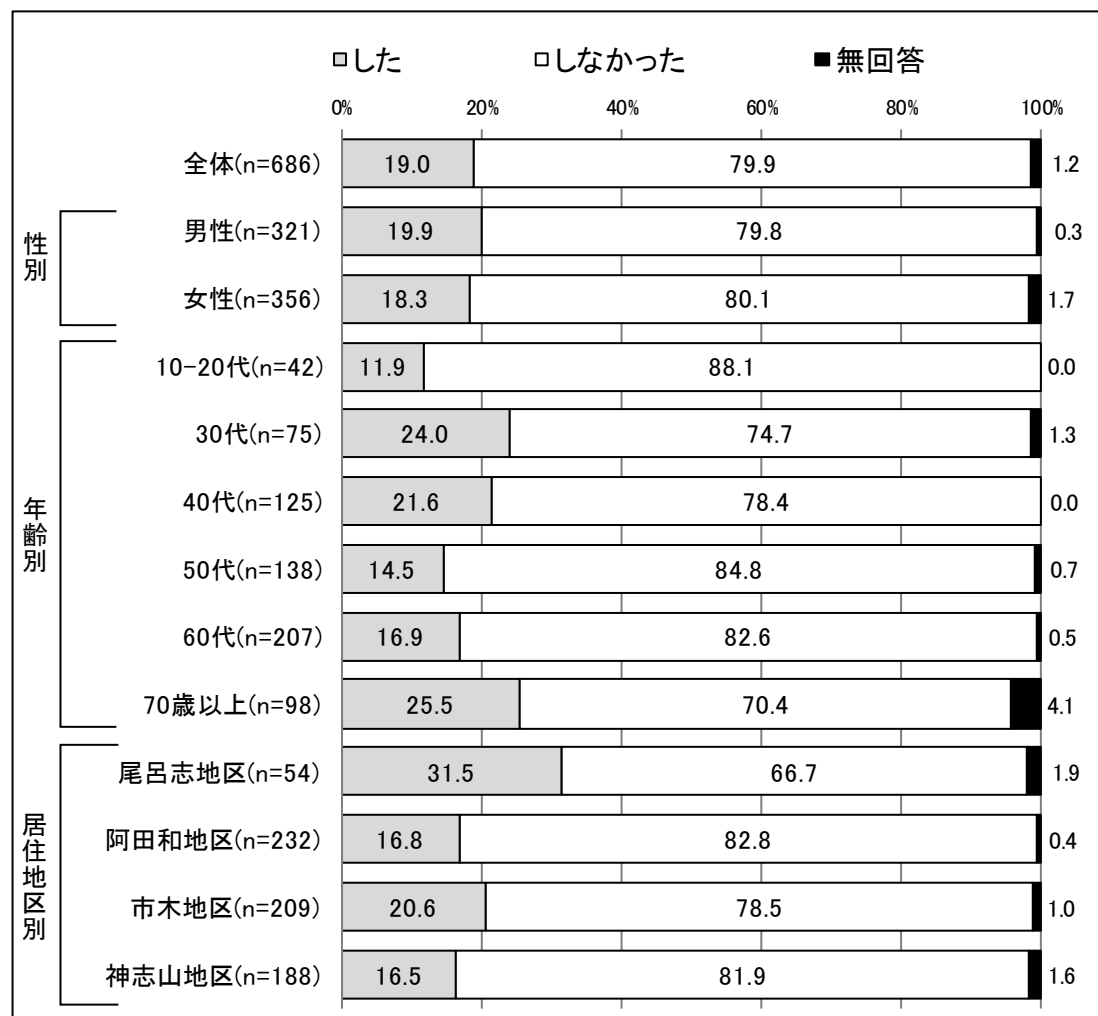
身近な地域での見守りなど地域福祉活動への参加については、「した」が19.0%と約2割となっています。

性別で「した」と回答した割合をみると、男性で19.9%、女性で18.3%と、大きな差はみられません。

年齢別で「した」と回答した割合をみると、70歳以上で25.5%と最も多く、次いで30代が24.0%で続きます。

居住地区別で「している」と回答した割合をみると、尾呂志地区で31.5%と、他の地区を大きく上回ります。

地域福祉活動について（全体、性別、年齢別、居住地区別）



(6) 地域とのつながりについて

問14⑥ あなた自身は、地域とのつながりがある方だと思いますか。

■地域とのつながりが「あると思う」が33.5%。

地域とのつながりについて、「あると思う」が33.5%となっています。

性別で「あると思う」と回答した割合をみると、男性で39.6%と女性の28.7%を上回ります。

年齢別で「あると思う」と回答した割合をみると、70歳以上で49.0%と最も多く、次いで60代(35.3%)、30代(32.0%)、10-20代(31.0%)が続きます。

居住地区別で「あると思う」と回答した割合をみると、尾呂志地区で57.4%と、他の地区を大きく上回ります。

地域とのつながりについて（全体、性別、年齢別、居住地区別）

